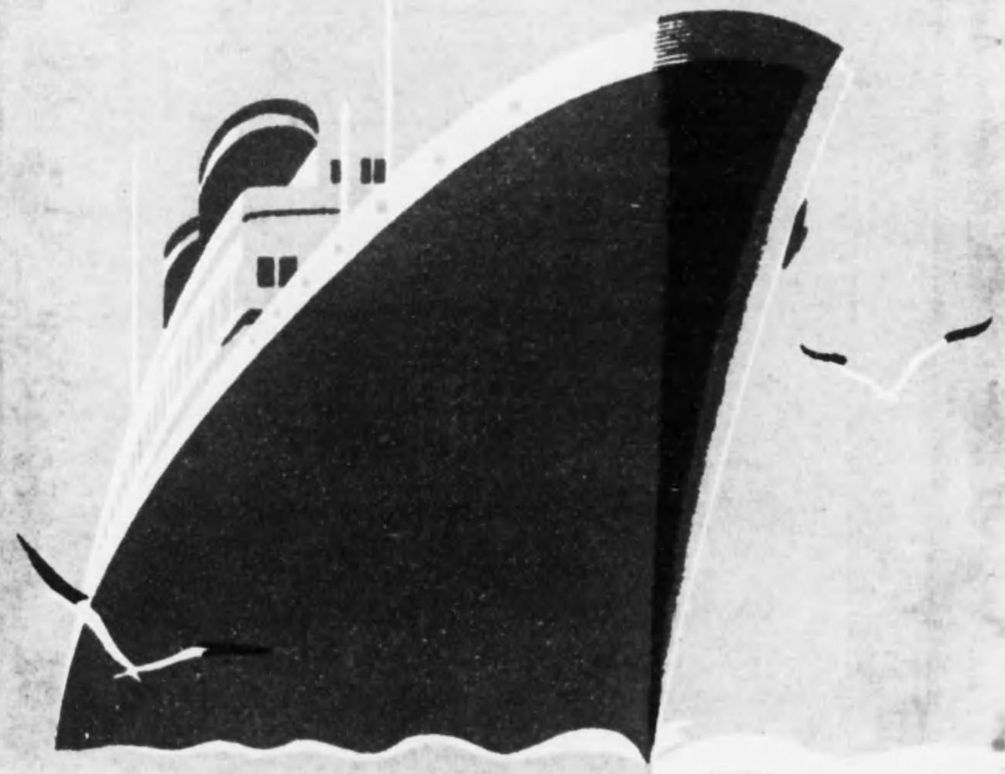
# 鑑年河駿

昭和十一年版



清水日日新聞社編

355
1235

始

石炭販賣
再製罏製造販賣
煉炭製造販賣
日ソ石油販賣
回漕業
船舶代理店
各種保險代理店
倉庫業

# 鈴與商店

電話四七番
七八番 二六八番 七七番
發信略號(ス)又ハ(ススヨ)
振替口座東京二〇三一七番

特239
47

# 鑑年河駿

1
9
3
6

清水日日新聞社編

昭和十六年四月

# 遠雲上海『題勅』

於薩埵海岸•本社寫眞部撮影

# ★昭和十一年略暦表★

神武天皇即位紀元二千五百九十六年

| 大 | |
|---|---|
| 新一 | 一日壬午 |
| 三 | 一日壬午 |
| 五 | 一日癸未 |
| 七 | 一日甲申 |
| 八 | 一日乙卯 |
| 十 | 一日丙辰 |
| 十二 | 一日丁巳 |

| 小 | |
|---|---|
| 新二 | 一日癸丑 |
| 四 | 一日癸丑 |
| 六 | 一日甲寅 |
| 九 | 一日丙戌 |
| 十一 | 一日丁亥 |

四方拜 一月一日
元始祭 一月三日
紀元節 二月十一日
春季皇靈祭 三月廿一日
神武天皇祭 四月三日
天長節 四月廿九日
秋季皇靈祭 九月廿三日
神嘗祭 十月十七日
明治節 十一月三日
新嘗祭 十一月廿三日
大正天皇祭 十二月廿五日

| 庚申 | 甲子 |
|---|---|
| 二月八日 | 二月十二日 |
| 四月八日 | 四月十二日 |
| 六月七日 | 六月十一日 |
| 八月六日 | 八月十日 |
| 十月五日 | 十月九日 |
| 十二月四日 | 十二月八日 |

小寒 一月六日
大寒 一月廿一日
節分 二月四日
初午 二月六日
八十八夜 五月一日
入梅 六月十一日
夏至 六月廿一日
半夏生 七月二日
二百十日 九月一日
冬至 十二月廿二日

| 八專 | 土用 | 己巳 |
|---|---|---|
| 一月卅一日 | 一月十八日 | 二月十七日 |
| 三月卅一日 | 四月十七日 | 四月十七日 |
| 五月卅日 | 七月二十日 | 六月十六日 |
| 七月廿九日 | 十月二十日 | 八月十五日 |
| 九月廿七日 | | 十月十四日 |
| 十一月廿六日 | | 十二月十三日 |

彼岸 三月十八日 九月廿日
社日 三月十七日 九月廿三日

## 日曜表

| | |
|---|---|
| 一月 | 五日 十二日 十九日 廿六日 |
| 二月 | 二日 九日 十六日 廿三日 |
| 三月 | 一日 八日 十五日 廿二日 廿九日 |
| 四月 | 五日 十二日 十九日 廿六日 |
| 五月 | 三日 十日 十七日 廿四日 卅一日 |
| 六月 | 七日 十四日 廿一日 廿八日 |
| 七月 | 五日 十二日 十九日 廿六日 |
| 八月 | 二日 九日 十六日 廿三日 卅日 |
| 九月 | 六日 十三日 廿日 廿七日 |
| 十月 | 四日 十一日 十八日 廿五日 |
| 十一月 | 一日 八日 十五日 廿二日 廿九日 |
| 十二月 | 六日 十三日 廿日 廿七日 |

初伏 七月十七日
中伏 七月廿七日
末伏 八月十六日

# 附番割數戸

昭和十年度
清水市

## 東の方

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大關 | 一、三〇一、四〇円 | 本郷 | 山作 |
| 小關 | 一、一九三、二五 | 清水町 | 梨謙 |
| 前頭結脇 | 一、一三四、七七 | 港町 | 月治 |
| 同 | 六五〇、〇〇 | 傳馬町 | 鉄 |
| 同 | 四七七、一六 | 入江 | 坂太郎 |
| 同 | 四六六、八〇 | 上清水 | 光源七夫 |
| 同 | 四一三、〇六 | 辻清水 | 太郎 |
| 同 | 四一三、八七 | 辻原町 | 左衛門藏 |
| 同 | 三七八、六〇 | 松原町 | 右衛門作 |
| 同 | 三七二、〇〇 | 佐倉正雄 | 虎鐘治郎 |
| 前頭 | 三三七、八〇円 | 芝浦司 | 山清水 |
| 同 | 三三三、六二 | 鈴木宰 | 野村 |
| 同 | 二九八、八七 | 後藤芳松 | 杉山 |
| 同 | 二七一、五二 | 片山幾太郎 | 山田 |
| 同 | 二六四、〇八 | 小野徹 | 石野 |
| 同 | 二五六、〇七 | 望月榮吉 | 長坂 |
| 同 | 二四九、九六 | 劔持七 | 眞月 |
| 同 | 二三六、八四 | 長坂倉 | 望鉄 |
| 同 | 二二九、九四 | 小塚正 | 山治 |

## 西の方

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大關 | 一、七六、一〇円 | 本郷 | 山作 |
| 小關 | 一、一三六、七八 | 清水町 | 月梨 |
| 前頭結脇 | 一、一〇六、一六 | 港町 | 鉄 |
| 同 | 五三、七九 | 入江 | 坂太郎 |
| 同 | 四七一、八五 | 辻清水 | 光源七夫 |
| 同 | 四四九、〇一 | 清水 | 太郎 |
| 同 | 四一九、九四 | 清水 | 左衛門藏 |
| 同 | 三八〇、六五 | 入江 | 右衛門作 |
| 同 | 三七三、五三 | 岡野 | 虎鐘治郎 |
| 同 | 三六一、〇三 | 鍛冶町 | 山清水 |
| 前頭 | 三三七、七四円 | 清水 | 杉山作平 |
| 同 | 三三五、三五 | 上清水 | 野常太郎 |
| 同 | 三〇一、二七 | 清水 | 月田 |
| 同 | 二九二、五一 | 入江 | 眞大 |
| 同 | 二六九、八五 | 入江 | 望藤 |
| 同 | 二六三、八四 | 港町 | 岡佐土金 |
| 同 | 二五三、四七 | 塚間 | 山指谷 |
| 同 | 二四三、七五 | 清水 | 土屋浩丈大 |
| 同 | 二三一、六三 | 辻江 | 山本文 |
| 同 | 二二九、三七 | 入江 | 田鉄藏 |

行司 五、五五二圓四五 入船町 鈴木與平

勸進元 清水日日新聞社

駿河年鑑

# 目次

昭和十一年暦
清水市戸數割納税番附
勅題「海上遠雲」

## 沿革


上古……一
中世、近世……二
地勢、氣候……三
土地……四
市街……五
人口……七


## 交通


通觀……八
道路、諸車……八
清水驛……九
清水港驛……一一
清水埠頭驛……一二
清水驛管内職員……一四
靜岡電鐵……一五
海上交通……一六
清水港修築事業……一七
主要港間浬程……一八
渡船……一九


## 通信


通觀……二〇
事務取扱數……二一
清水局管内職員……二三
清水燈臺……二五
新聞……二五


## 市政


通觀……二六
吏員、財政……二七

市産、市債……二八
豫算……二九
都市計劃……三四
耕地、區劃整理……三六
水道……三七
名譽職員……三八
區長並代理者……四三
清水市各種有權者……四四
市役所吏員……四五

## 教育

通觀……四八
中小學校……四九
教育費……五一
教職員……五三
中等學校、私立學校、小學校、幼稚園
青少年團……五九
役員……五九
青年團、處女會、少年團、教育會

圖書館……六一
青年學校……六一
教員、指導員……六四

## 社寺

通觀……六六
祭神と由緒……六七
寺院一覽……七四
教會所一覽……七六
役員……七八
神職會、佛教會、氏子總代會

## 兵事

通觀……七八
在鄉軍人役員……八〇
國防協會、海軍協會、奬兵會役員……八一

## 社會

通觀……八三

救護事務……八三
社會事業協會……八四
清水自助館……八六
法律相談所……八七
公益質舗……八七
職業紹介所……八八
方面委員、各種團体役員……九二
社會事業協會、日赤委員部、愛國婦人會
主婦會

## 衛生

通觀……九四
衛生諸統計……九五
塵芥處分……九八
醫師會、齒科醫師會……九九
更生病院……一〇〇
產婆會……一〇一
看護婦會、學校看護婦……一〇三

## 警備

通觀……一〇三
消防組織、設備……一〇四
清水警察署、水上署……一〇六
消防組……一〇六
防護團……一〇八

## 產業

通觀……一〇九
生產額……一一〇
會社、工場……一一一
工業產額……一一三
會社總覽……一一三
駿州銀行……一一八
會社、商店……一二〇
豊年製油、清水食品、巴川製紙、綾羽ク
ツシタ、三保造船、伊藤鐵工所、鈴與商
店、清水運送、鮪共販、三菱鑛業、東洋

製罐、金指造船、青木運送、天野回漕淺野商店、北村回漕、早川、大木、丸吉回漕店、清水冷凍製氷、山明商事、清水倉庫、三井物産
清水商工會議所……一三一
議員、職員……一三一
電氣、瓦斯……一三三
東電清水出張所……一三四
清水瓦斯會社……一三六
木材……一三七
製材製函販賣業……一三八
原木販賣業……一四一
木材保管業……一四三
清水木材、清港木材、北海木材、秋田木材、增田合名、天龍製材、望眞、木材倉庫
水産……一四五
水産試驗場……一四七
水産會、魚業組合……一四八
農業……一四八
畜産、林産……一五一
農會役員……一五三
金融……一五三
金融諸統計……一五四
銀行……一五六
駿河、清水三五、志茂町三五、江尻三五
伊豆、駿河清水驛
駿河無盡、西遠無盡、信用組合……一五八

## 貿易

通觀……一五九
十ヶ年統計、船舶……一六〇
輸出……一六三
輸入……一六四
移出……一六六
移入……一六八
罐詰輸出……一七一

## 觀光

通觀……一七三
觀光の清水……一七四
遊覽コース……一七七
別莊地帶……一七九
清水土産、祝祭日……一八〇
清水市保勝會
釣り便り……一八一
釣り暦……一八三

## 官公署・各種組合

官公署……一八四
靜岡縣廳、清水港務所、清水港修築事務所、清水機械工場、區裁判所出張所、專賣局出張所、稅關、收稅官出張所
各種組合……一八六
クリーニング、材木商、柑橘商、柑橘北米輸出、土木建築請負、同縣支部、家具商工、臺灣米移入、農産物出荷、ラヂオ商、電動力利用、洋服商、靴商、瓦組合
釣具貸舟業、艦船行商、建築業、鐵工業旅館、清睦會、縣聯聯、庵原郡農會、茶業、柑橘、不二見信組、畜産、木炭、家畜保險、中部養鷄
清水市震災……一九九
縣會議員選擧……二〇三

## 庵原郡要覽

通觀……二〇四
各種團体……二〇五
名譽職員……二〇六
小學校職員……二一一
清水市商工人名錄……二一九
スポーツ……二三四
備考……二四一

# 沿革

## 上古

近來鄉土研究は各地共盛んに行われて居り、古代文化の探究は漸く一般的にも興味を持たれて來たが、特に土地開發に依つて續々現れる出土品については關心を持つ者多く、清水市地方としては日本平を中心に有度山の研究は可成り以前より專門的にも趣味的にも相當深く行われて居るので、有度山西部の小鹿、大谷等は既に研究が積まれ又考証的出土品も多く發見され。最近では有度村より清水市にかけての研究が興味の中心に移りつゝある。

清水市に於ては昭和九年度より市史編纂課が設けられ專ら上古の研究調査を進め、古代に於ける清水市の住民と生活を鮮明にす可く資料蒐集中であつたが、研究開始以來一ケ年を閲し漸く基礎を固めたので昭和十年四月顧問たる帝室博物館監査官後藤守一氏の來清を乞ひ、二日間に亘つて清水市を中心に附近の實地調査を行つた結果、本地方の古代文化は相當に開けて居た事が色々の遺物や出土物に依つて判明するに至つた。夫れに依れば最近研究家の興味をひいて居る飯田村高橋附近から彌生式時の器の完全なるものが發掘される事は、此の地方としては珍しい事で或ひは此の邊が古代住民の相當大きい聚樂地ではなかつたかと想像され、又時代は少し降るが狐ケ崎附近有度村馬走り瓦谷からは布目瓦が多數出るが此の瓦の模様から見て瓦としては古い時代の物に屬し恐らくは飛鳥朝時代迄昇るものと見られ、斯くすれば古代の瓦中最古のものとなる譯で、此の個所が當時の瓦燒竈の跡であつたと思はれ從つて庵原方面から發掘される瓦は其の模様の同一なる點から、此所で燒かれたものの如くであ

る。尙日本平の上からは石器時代の遺物が發見され、三保からは古墳が出る等を綜合して見れば、清水市並附近の古代は文化の中心地だつた事は動かす可からざる事實であらう。

## 中世

上古の考証に徵しても清水市の沿革は遠く古代より東海に於ける政治經濟の要地として發達したものの如くであるが、日本武尊東征の際、御穗神社に官幣を供せられた、辻の矢倉神社の緣起、市の西郊草薙神社に垂蹟せられし等、其鎭東の策源地たりしを思ふべく、降て齋明天皇の朝に百濟救護の爲新羅を征せんとして、當國に勅して船を造らしめ、蘆原君に命じ、兵を卒ゐて渡航せしめられたる如き既に工藝の進步產業の開發を推度すべきである。爾後清見に關を置かれし事蹟、平の維盛の富士川に出陣せし、今川氏の江尻に築城せるより、武田氏の之を改築し、更に清水に城砦を造營せる又豊臣秀吉小田原に北條氏を討伐せしの際は、大に軍需品を此地に集め、巨船を泛べて兵站の基點とし、德川氏政柄を執るの初期に於ては、清水港を水軍の根據地となせる等、歷史の史實當地の要地樞軸たるを示さざるはない。

## 近世

明治四年地方區劃の法を定め、同五年九月之れを改正して、庵原郡を第三大區とし、辻、江尻は第四小區に編せられ、有度郡は第四大區にして、清水其他の町村は第二小區に屬した當時の制、大區に區長を置き、小區に副區長を駐め各町村の戶長には、從來の庄屋、名主、年寄を當て、町頭、百姓代表を以て副戶長としたのである。



明治十二年區制を廢し、郡役所を設け、巴川北岸の地は庵原郡役所に、其南岸の地は有度、安倍郡役所の所管だつたが、明治廿九年九月、有度郡の廢せられてより。安倍郡に屬する事となつた。

明治廿　年町村制施行と同時に、庵原郡江尻宿、江尻出作、辻村を以て江尻町を置き、有度郡入江町、元追分、上清水を、入江町と定め、同郡清水町及び清水受新田、入江受新田を以て清水町とし、船越、北矢部、南矢部、下清水、村松、宮加三、駒越、增　蛇塚の各村を併せて、不二見村とし、三保村、折戶村を合して、三保村と爲し、各々自治躰を構成したが、明治廿六年四月、江尻町の內辻を分割して、辻村を置き。大正七年八月辻村に町制を布くに至つた。越へて大正十三年一月卅一日庵原郡江尻町辻町を安倍郡入江町に編入、仝年二月十一日紀元の佳節を卜し、安倍郡入江町、清水町、不二見村、三保村を以て清水市とし、市制を施行。以て今日に至つて居るのである。

## 地勢

清水市は靜岡縣の略中央に位し、又東海の中央駿河灣に面した北緯三十五度零分五十二秒、東經百三十八度三十一分二十秒に在り、東西一里六町、南北二里三町、面積一千六百八十五方里を擁する平坦なる地域にして、西に有度山を負ひ、北に龍爪山、赤石の連峯を眺望し、北東には靈峯富士を仰ぎ北より南に伊豆半島蜿蜒起伏して風光絕佳、港灣清水の發展と共に市域は漸次後方に廣まり市村の境界は辨じ難き程である。

## 氣候

駿河國は古來より東邦に於ける最も溫和なる氣候に依つて知られて居るが、清水は特に駿河一の快

適と稱されて居り、海山の爽氣に伴つて空氣は極めて清澄、寒暑の激變を感ずる事は殆ど無い。風位は平均南南西毎秒二、七米、氣溫は年平均一五、六度、氣壓は七六〇、三を示して居る。

## 土地

清水市民有有稅宅地は昭和九年一月一日現在調査に依れば八十三万六千五百六十五坪であつたが、昭和十年七月一日現在調査に依れば八十七万六千八百二十八坪となり約四万坪の激增振りであるが、この事實は市勢の發展を意味し人口並戸數の增加を証左するもので、これに伴つて田、山林、原野等は漸次縮少され宅地に開發されて行く發展過程が覗われる。

| 所有別 | 種別 | 反別 | 賃貸價額 |
|---|---|---|---|
| 民有有租地 | 宅地 | 八七六、八二八坪七五 | 七一四、七二六圓一八 |
| | 田 | 四六九町九反九畝五歩三 | 一五三、八四二圓六三 |
| | 畑 | 七二七町五反六畝二五歩 | 一一七、三五一圓四八 |
| | 山林 | 四四九町六反六畝一六歩 | 八、一四五圓五九 |
| | 原野 | 一六町〇反五畝一九歩 | 一一三圓五一 |
| | 池沼 | 五町五反四畝七歩 | 二八一圓〇四 |
| | 雜種地 | 一〇町二反一畝二五歩 | 九、三七九圓五三 |
| 市有有租地 | 宅他 | 五、七一三坪 | 一〇、三二八圓九一 |
| 縣有有租地 | 宅地 | 九八七坪 | 一、一八四圓六八 |
| | 雜種地 | 二〇坪 | 三三圓三二 |
| | 其他 | 二町二反七畝一一歩 | 二一七圓三九 |



## 市街

清水市街は大字を辻、江尻、入江、清水、不二見、三保の六區分し、其の中に六十七町名を有して居たが昭和九年より「清水受新田」並「入江受新田」は都市に相應からずとて改稱され、七ケ町に分たれ、又昭和十年には入江町の發展と耕地整理の完成から櫻橋町と櫻ケ丘町二つを加へ合計七十六市街の現在である。

| 辻 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 相生町 | 眞砂町 | 深崎町 | | | |
| 旭町 | 中濱町 | 緑町 | | | |
| 島崎町 | 大和町 | 江川町 | | | |
| 新道町 | 愛染町 | 矢倉町 | | | |
| 末廣町 | 本町 | 壽町 | 辻本町 | 田町 | 住吉町 | 宮下町 |

常盤町
吉添町
江尻
本郷
銀冶町
鑄物師町
傳馬町
巴町
七軒町
志茂町
仲町
魚屋町
紺屋町
小芝町
一丁目—三丁目
大手町
富代町
入江

入江一丁目—三丁目町
神田町
元追分町
櫻橋
櫻ヶ丘町
新富町
榮町
岡上町
横濱清水町
片羽町
清水
上一丁目—三丁目町
本袋町
新魚町
本魚町
中輪町
美濃井町
松

万世一丁目—二丁目町
松原一丁目—三丁目町
富士見一丁目—二丁目町
入舟一丁目—三丁目町
港一丁目—四丁目町
築地一丁目—三丁目町
日ノ出一丁目—二丁目町
新港
不二見
下清水越町
船越町
船部町
南矢
北矢
村松



（原、中、南、妙音寺、幸町）
加三
駒越
増蛇
三保塚
本宮塚折
村方間戸

## 人口

昭和五年に施行された國勢調査に於ける清水市の戸數は一〇、七三七戸にして人口は五五、六六四であつたが、昭和十年十月一日施行された國勢調査の概數は一二、三四〇余戸、人口六三、〇〇〇余人を示し前回に比すれば戸數約一、六〇〇戸、人口約七、五〇〇人の増加を示して居る。

| 年度 | 世帯數 | 現在人口 | | | 本籍人口動態 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 計 | 婚姻 | 離婚 | 出生 | 死亡 | 死産 |
| 昭和九年 | 一二、三四三 | 三一、九九三 | 三一、一四七 | 六三、一三九 | 六一八 | 五三 | 一、五八三 | 八一三 | 一〇三 |
| 昭和八年 | 一二、一五六 | 三一、二三八 | 三〇、四六七 | 六一、六九五 | 五一〇 | 六一 | 一、六〇五 | 八三三 | 一〇三 |
| 昭和七年 | 一一、七六六 | 三〇、六六一 | 二九、九二八 | 六〇、五八九 | 五一九 | 五七 | 一、五九〇 | 七五七 | 一〇〇 |
| 昭和六年 | 一一、四五八 | 三〇、〇〇六 | 二九、二九〇 | 五九、二六六 | 三五三 | 四六 | 一、五九二 | 七二三 | 一〇八 |
| 昭和五年 | 一一、二九四 | 二八、三〇七 | 二七、一〇〇 | 五五、四〇七 | 三七二 | 四八 | 一、四六六 | 七一六 | 一〇三 |

# 交通

## 通觀

清水市の交通は水陸兩方面に拓けて居るが、海路は東海に於ける良港として近く修築工事も完成す可く出入船舶は年々增加し、東京灣汽船も本年より毎日曜入港して居る。陸路は東海道線清水驛があり、本驛は明治二十二年に江尻驛として設置されたが昭和九年十二月一日に丹那トンネル開通を契機として都市に相應しい「清水驛」と改稱され從來急行列車は通過驛となつて居たものを市當局並商工會議所等の奔走に依つて上下八列車の停車を實現せしめる等清水市の表玄關をあずかる清水驛は漸く都市驛としての形態を備へるに至つた。又富士驛より三時間にして甲府市を結ぶ富士身延鐵道は目下國營移管運動の渦中にあるが同線を經由して信越方面への連絡も容易である一方靜清兩市の連鎖となつて居る靜岡電氣鐵道は復線布設實現して所要時間を短縮し、市內の道路網の擴充は乘合自動車の發達を促し清水驛を中心として靜岡、興津兩驛間並久能、伊佐布、杉山等へ運轉係統を伸すと共に市內巡環の增發も行われ、水陸兩飛行場あり、渡船ありで他都市に見られざる交通網を張つて居る。

## 道路

| 年次 | 國道 路線延長 | 縣道 路線延長 | 市道 路線延長 |
|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 一 三、九二一、八二米 | 八 一七、五八〇、〇〇米 | 九〇一 三二六、五〇八、〇九米 |



## 諸車

| 年次 | 自動車 | トラック | 自轉車 | オートバイ | 人力車 | 荷車 | 計（其他） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 八三 | 八八 | 六、七七〇 | 五四 | 二九 | 二、二四三 | 九、三四〇 |
| 昭和八年 | 七七 | 八八 | 六、五八〇 | 四三 | 三〇 | 二、四六五 | 九、三六二 |

## 清水驛

清水驛は東海道線靜岡運輸事務所管內第一位の貨物驛であるが又名古屋鐵道局管內に於ても二、三位を下らぬ成績を示して居る。これは清水港に於ける移輸出入貨物發着と豐年製油清水工場の製品輸送、又は蜜柑、蔬菜類の出荷等產業隆盛の然らしむる所である。清水驛は如上の海運關係で臨港線を布設して「清水港驛」並「清水埠頭驛」を擁して居るが更に此の臨港線を延長して三保貝島埋立地迄布設し、沿線の材木、製材、蔬菜類出荷の便に供せんとする計劃が具体的に進められ昭和十年八月には內田鐵相自ら實地視察に來清された程で將來の實現性は充分ある見込である。尙九年度の運輸成績は左の如じ。

| 種別 | 昭和八年度 | 昭和九年度 | 比較（△印增減） | 一日平均 |
|---|---|---|---|---|
| 乘車人員 | 六一八、八一三 | 五九九、八九八 | △ 一八、九一四 | 一、六四四 |
| 降車人員 | 六三三、八七三 | 五九七、三九六 | △ 二六、四七七 | 一、六三七 |

| 旅客運賃 | 手小荷物發送個數 | 手小荷物到着個數 | 手小荷物運賃 | 旅客・收入 |
|---|---|---|---|---|
| 三四、六六四 | 六、九〇五 | 二、三六〇 | 二、二八四 | 七、三四六 |
| 二六、一二〇 | 三、八三二 | 二〇、三〇四 | 三二、二八四 | 三〇、三四四 |
| 六、四九六 | 三、五三三 | 四、三六〇 | 一、一八八 | 七、六八四 |
| 一、一四〇 | 一、四六九 | 一、五四九 | 一、五四〇 | 一、四四一 |
| 一、三四八 | 四、一五六 | 一、二四四 | 六三一 | 一、四四〇 |

| 物貨 | 發送駅数 | 到着駅数 | 使用車数 | 収入 |
|---|---|---|---|---|
| 三三六、八九五 | 四八、五六四 | 三五、二九二 | 一、〇〇二、三一〇 | 一、二九八 |
| 三四二、九五五 | 五八、三三二 | 一、四七二 | 一、〇四六、八五九 | 四一、八四六 |
| 一六、〇六〇 | 九、四六八 | 一、四四九 | 四〇、三六〇 | 一〇一一 |
| 一、〇六〇 | 一、三四八 | 一、三五三 | 一、三四〇 | 一、九〇〇 |

| 數疏要主發送 | 穀 | 大洋大 | 鮮 | 石木 | 炭 | 魚粕 | 紙 | 油 | 豆 | 物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 野菜 | 生 | 柑橘 | 材 | 炭 | 粕 | 紙 | 油 | 豆 | | |
| 三、三二二 | 三、三五八 | 二六、三五八 | 八四、九六一 | 四七、九六六 | 一一、二二五 | 一一四、三七七 | 三、八二三 | 三二、四九六 | 一、〇三八 | |
| 四、一七一 | 二四、九三七 | 二四、九三七 | 六九、八三三 | 六四、一七二 | 一一、〇八五 | 一二〇、〇八七 | 四、六〇七 | 三三、三四九 | 一、二四九 | |
| 六五〇 | 三四二 | △ | △ △ | △ | △ | | | | | |
| 一四、三二二 | 一六、二六八 | 一五、二二六 | 一六、二四六 | 四、三四〇 | 七四 | 六、七四〇 | 七四四 | 八五三 | 二二二 | |

| 數疏要主着到 | 鐵及鋼製品 | 肥料 | 米 | 石油 | 藥品 | 木材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 五、五〇六 | 一、一七六 | 三、五六六 | 二、七二八 | 八、七〇一 | 二、四九五 | |
| 四、一五八 | 一、二二四 | 二、六〇九 | 二、六六八 | 一〇、三七三 | 一三、三三三 | |
| △ | △ | △ | △ | | △ | |
| 一、三四八 | 六二 | 九七七 | 五〇 | 一、六七二 | 一〇、八二八 | |
| 二二 | 三八 | 九四 | 二八 | 二八 | 三五 | |



## 清水港驛

| 物貨要主 | 飼料 | 肥料 | 食料 | 石炭 | 木材 |
|---|---|---|---|---|---|
| 八、三一八 | 一〇〇、七四 | 一〇、七二 | 二二、三三五 | 九五、三二二 | |
| 七〇三五 | 九二二 | 一一、七二〇 | 五六、三二二 | 九七、九八一 | |
| △ | △ | | △ | △ | |
| 一、二九三 | 四、七九八 | 九四九 | 八、九九九 | 一、五四四 | |
| 一九二 | 二五 | 三二 | 二四 | 九〇 | |

| 種別 | 發送駅数 | 着駅数 | 使用車数 | 収入 |
|---|---|---|---|---|
| 昭和八年度 | 二二九、九二七 | 三二、三六四 | 一七、四二二 | 三八三、二二〇 |
| 昭和九年度 | 二〇五、一七五 | 三三、三六 | 一六、一七二 | 三六一、四一八円 |
| 比較増減（△印減） | △ | | △ △ | △ |
| | 一四、七四二 | 一〇、九六二 | 一、二三〇 | 二二、七二二 |
| 一日平均 | 五六三 | 九三 | 四四 | 九〇 |

| 數疏要主着到 | 鐵及鋼製品 | 肥料 | 米 | 石油 | 藥品 | 木材 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 二、四九五 | 一、一七六 | 二、七二八 | 三、五六六 | 八、七〇一 | 二、四九五 | |
| 一〇、三三三 | 一、二二四 | 二、六〇九 | 二、六六八 | 一〇、三七三 | 一三、三三三 | |
| △ | △ | △ | △ | | △ | |
| 一〇、八二八 | 一、三四八 | 六二 | 九七七 | 五〇 | 一、六七二 | |
| 三五 | 二八 | 九四 | 二八 | 二八 | 三五 | |

| 種別 | 昭和八年度 | 昭和九年度 | 比較(△印増減) | 一日平均 |
|---|---|---|---|---|
| 發送瓲數 | | | | |
| 米 | 六六二 | 二、七三〇 | 二、〇四八 | 八 |
| 薪 | 二、〇一一 | 二、七〇五 | 六八四 | 八 |
| 大豆 | 一、三五五 | 一、三二九 | △二六 | 四 |
| 雜穀 | 一、七二三 | 一、八五三 | 一三〇 | 五 |
| セメント | 二五 | 九六七 | 九四二 | 三 |
| 主要貨物到着瓲數 | | | | |
| 木材 | 二、七九七 | 一〇、八九七 | △九、一〇〇 | 二九 |
| 肥料 | 二、八四四 | 四、二七五 | △一、三四一 | 一二 |
| 棉類 | 二、〇四一 | 二、六〇八 | 五六七 | 七 |
| 荷造空箱 | 三、六二三 | 一、八五〇 | △一、七七三 | 五 |
| 米 | 一、八〇二 | 一、三六八 | △四三四 | 四 |
| 麥 | 八八四 | 八六五 | 一九 | 二 |
| 鮮魚 | 九〇四 | 四三四 | △三七〇 | 一 |

## 清水埠頭驛

| 種別 | 昭和八年度 | 昭和九年度 | 比較(△印増減) | 一日平均 |
|---|---|---|---|---|
| 發送瓲數 | 七三、九三三 | 九四、〇三七 | 二〇、一〇四 | 二五七 |
| 到着瓲數 | 五、五六一 | 一〇、三九三 | 四、八三二 | 二八 |
| 使用車數 | 六、二五三 | 八、二一〇 | 一、九五八 | 二三 |
| 收入 | 一二五、六五二円 | 一六五、七九八 | 四〇、一四七 | 四五四 |



| 種別 | 昭和八年度 | 昭和九年度 | 比較(△印増減) | 一日平均 |
|---|---|---|---|---|
| 發送主要貨物瓲數 | | | | |
| 藥品 | 六六 | 二、九一六 | 二、八五〇 | 八 |
| 砂糖 | 一、一四五 | 一、三一七 | 一七二 | 四 |
| 骸炭 | 一、五〇七 | 一、八一八 | 三一一 | 五 |
| 大豆 | 一、二四五 | 一、九二八 | 六八三 | 五 |
| 飼料 | 一、一四三 | 二、六〇一 | 一、四五八 | 七 |
| パルプ | 一〇、〇〇六 | 四、二九九 | △五、七〇七 | 一二 |
| 肥料 | 一〇、四九八 | 七、〇六一 | △三、四三八 | 二〇 |
| 石炭 | 一三、三八一 | 一三、九八六 | 六〇五 | 三八三 |
| 米 | 七、八六一 | 一六、八二三 | 八、九六二 | 四六〇 |
| 食鹽 | 一三、四五六 | 一二、七四八 | △七〇八 | 三四九 |
| セメント | 七、三三九 | 二二、四八二 | 一五、一四三 | 六一六 |
| 到着主要貨物瓲數 | | | | |
| 飼料 | 三八 | 五三四 | 四九六 | 一、三 |
| 洋紙 | 一 | 四〇四 | 四〇四 | 一 |
| 空罐荷造用 | 一、〇〇七 | 一、〇〇四 | △三 | 三 |
| 米 | 七七 | 一、一六五 | 一、〇八八 | 三 |
| 木材 | 四六二 | 一、三六八 | 九〇二 | 四 |
| 肥料 | 一、三三〇 | 二、四六九 | 一、一三九 | 七 |

## 清水驛職員

(電話一八四番)

驛長　小林直次
助役　浦田音吉
仝　山梨勉一
仝　太田長治
書記　川口金吾
出札係主任　内田豐作
貨物係主任　萩原宜弐
書記　岸本貞治
仝　松田源太郎
杉山良作
原田綱藏
漆畑清次郎
鈴木総夫
池上清太郎
高部義郎
篠原新太郎
古谷直
小荷物係主任　杉山憲二
望月鄰太郎

齋藤豊廣
望月定七
榎本槇之助
川口寅吉
川合博
牧田甲子次
杉本一夫
増田友次郎
前田金次郎
永井富士太郎
松田金太郎
原田安次郎
川崎藤平
三浦久
望月新作
赤堀丈之助
渡邊良吉
佐野茂三郎
中込悅三

藤浪恭一
津田治作
擔澤傳一
朝倉友治
志知爲次郎
佐藤竹次郎
有賀與喜藏
紅林威
坂野武
中村朝吉
小野登
山本時雄
中村政雄
鈴木佐一郎
市川由藏
鈴木岩太郎
飯田彦太郎
渡邊良吉
大箐虎之祐



山本賢作
杉山金藏
渡邊由藏
天野由藏
増井岩吉
佐藤喜一郎
望月大作
久保田清次郎
鈴井千代吉
村松新太郎
佐野榮市
岡部大次郎
櫻井久雄
中西増一

小泉新平
千葉武雄
原科光一
石原八郎
桑原重雄
佐野慶次郎
大塚伊太郎
小林靖

奥山庄太郎
八木安次郎
望月銀次
岩崎熊藏
服部清作

## 清水港驛

助役　薄井政治
三ッ松明
深津熊一郎
辻村盛

## 袖師驛

七月一日—九月十五日迄

助役　村越保太郎
町井令
望月千代松
望月熊藏
丸山力雄

## 静岡電鉄

静岡電鐵は清水、静岡兩市を連絡し清水波止場を終点として居るが、途中相生町より東西に分岐して港橋——市外袖師村横砂間の運轉をし清水市陸上交通の重要なる役割を演じて居る。昭和九年の運輸成績を見れば左の如し。

| | 昭和九年度 | 昭和八年度 | 昭和七年度 |
|---|---|---|---|
| 乘客人員 | 六、一六一、二六二人 | 五、一一五、九四一人 | 二、二七四、一九八人 |

## 靜岡電氣鐵道株式會社（電話靜岡五五〇・六五〇番）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 社長 | 大川平太郎 | 全 | 磯野新藏 |
| 專務 | 常世克巳 | 營業課長 | 三宅高次 |
| 常務 | 戸塚昌宏 | 技術課長 | 岡田傳次郎 |
| 取締役 | 穴澤清次郎 | 庶務主任 | 石卷智 |
| 全 | 鈴木與平 | 用度主任 | 森田虎二 |
| 全 | 足立純一郎 | 會計主任 | 吉田整司 |
| 監査役 | 尾崎元次郎 | 運輸主任 | 井上天司 |
| 全 | 中岡孫一郎 | 自動車主任 | 矢吹正市 |
| | | 電氣主任 | 井上惣一 |
| | | 土木主任 | 井上夫次 |
| | | 車輛主任 | 山田紋太郎 |
| | | 秋葉線主任 | 金山一郎 |
| | | 發電所主任 | 後藤三策 |
| | | 電燈主任 | 杉山信次 |
| | | 遊園主任 | 新村杏太郎 |
| | | 野球場主任 | 鄕豊 |

# 海上交通

## 清水港

**清水港の地位**　清水港は東海の中樞太平洋航路の要衝に位し絶勝三保の岬は自然の防波堤をなし、



港内波靜かに水深く眞に天然の良港たると共に港背地域も頗る廣汎にして平坦地五万坪に余り、加ふるに鐵道に於ては東海道線、道路に於ては國道第一號線を控へ繫船、陸上兩設備と相俟つて交通至便である。而して當地方一帶は氣候溫和、物產豐富、動力勞力の供給容易なるが故に近來企業家の本港に着眼する者尠からず、當港の發展は想像に余りある。

**物揚場**　巴川左岸に長さ二八〇米、鐵道省岸壁の以南に七四九米、岸壁の北端背面に一六一米を始め江尻船渠にも完備せる大物揚場を有する。

**貯木場**　貯木場は縣營にて折戸灣の南隅に設け防波堤を以て遮蔽し福員三六米の出入口あり、防波堤は長さ九九〇米にして捨石の基礎に鐵筋コンクリートケースを二段積とし、堤頂高を滿潮面上〇九〇米に置き此の面積二四八、〇〇〇平方米、各所に繫柵を設けて居る。

### 修築事業

明治三十二年八月に清水港は開港場に指定され同四十年十月には內務省より第二種重要港灣に選定せられてより種々港灣設備改良に努めた。

| 工事期間 | 工費 | 進行 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 自大正十年至和昭九年 | 五、五〇〇、〇〇〇円 | 完成 | 靜岡縣工事 |
| 全 | 四八五、〇〇〇 | 完成 | 鐵道省經營岸壁工事 |
| 全 | 六七七、〇〇〇 | 完成 | 縣營貝鳴埋立工事 |
| 自大正十五年 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 進行中 | 陸上諸設備 |

| | | |
|---|---|---|
| 自昭和二年 | 四五〇、〇〇〇 | 完成、貯木場（防波堤のみ四年度完成） |
| 自昭和四年 至十年 | 一、八〇〇、〇〇〇 | 進行中 帝國議會の協賛を經たる擴張工事 |
| 自昭和六年 至八年 | 六二〇、〇〇〇 | 完成 震災復舊工事 |
| 計 | 一一、五三二、〇〇〇 | |

以上の如く第二次修築工事を施したが、內務省直轄工事中折戸灣內約六六、三〇〇坪を水深二十四尺浚渫し、繫船浮標四個を設備し各三千噸級の汽船を投錨せしむる計劃は工事期中に着手に至らず危く昭和九年度で打切られんとしたので市當局並市會を以つて陳情し八十五万圓の豫算計上方と事業繼續を運動した結果內務省は兎も角昭和十年度分として二十万圓の豫算を建てゝ繼續する事となり目下進行中である。又完成せる三千噸級岸壁は昭和十年の震災にて七七〇米崩壞した爲これが復舊に就いて內務技監を始め土木出張所長、技術者多數來清し、耐震工事に就いて研究した結果約百六十万圓の工事費と三ケ年の期間を要する筈であるが昭和十一年度より着工する見込みである。

## 清水、主要港間浬程

| 名 | | 横濱 | 函館 | 青森 | 小樽 | 古屋 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 上海 | 一〇八哩 | 九六一哩 | | | | |
| 大連（瀬戸內海經由） | 五九二 | 一、一二〇 | | | | |
| 浦潮 | 六一〇 | 一、〇三九 | | | | |
| 桑港（横濱經由） | 七六四 | 四、〇三九 | | | | |
| 四日市 | 一二七 | 一二二 | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 大阪 | 二八三哩 | 晚香坡（横濱經由） | 三、〇六三哩 | |
| 神戸 | 二八〇 | ホノルル（横濱經由） | 三、五〇〇 | |
| 門司（瀬戸內海經由） | 五〇六 | 沙市（横濱經由） | 四、三六七 | |
| 釜山 | 五九〇 | | | |

清水港に於ける昭和九年度の船客は左に示す如く合計二、五二一人に及び前年度の八一六名に比較すれば格段の相違があるがこれ等は畢境本港發展の反映である。

| | 內航船 | 內國ノ外航船 | 外國船 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 乘船客 | 一、二八〇 | 二一 | 〇 | 一、三〇一 |
| 降船客 | 一、一七五 | 三九 | 六 | 一、二二〇 |



## 渡船

三保方面との交通はバスもあり昭和十年度中には都市計劃街路事業に依つて縣道に編入さる可き幅員八間の道路が完成す可く、又臨港鐵道の延長等も計劃されて居る所であるが現在多くは渡船が利用され、民間業者の巡航船は港橋——折戸、清水波止場——本村、清水波止場——塚間、江尻波止場——本村の四航路があり市營としては松井町——塚間の間を運轉し左の如き交通量を示して居るが此の外學生、團体等の無料乘船は延五十万に達す可く私營の乘客も六十万を算して居る。

# 通信

## 通觀

都市發展を最も強く反映するものは通信事務の增加であるが、清水郵便局に於ける取扱數の增加は此の意味に於て本市發展を數字的に示すものである。而して清水局は市制施行以來昭和七年迄長距離通信區となつて居た駒越、折戸等を急速に市內通話區に編入し、殘る三保局電話をも近く編入の用意を有して居る。又昭和十年四月より市內一圓を市內郵便區として特別郵便の便を圖り、港內碇泊船に對しても郵便物の配達を開始し、管內有度村へ對しては集配回數を增加して二回とする一方袖師、駒越兩三等局へは九月より電信並電報の取扱ひをなさしむる等の躍進振りであるが、尙ほ清水港の對外的重要關係から昭和九年より十年へ掛けて滿洲國を始め歐米各國への國際電話の取扱を開始し、水陸飛行場、燈台、航空燈台、無線電信等本市の逓信網は頗る完備したものである。

| | 乘船量 | 諸車 | 切符賣上 |
|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 五五八、一六四人 | 三五、〇〇四台 | 八、〇八〇圓 |
| 昭和八年 | 五五六、三四三人 | 三四、一五八台 | 八、三二〇圓 |
| 昭和七年 | 四九四、一四八人 | 三五、二三七台 | 七、九三六圓 |



### 郵便取扱數（昭和九年度）

| 清水郵便局 | 管內三等局 | 電話加入數 | 公衆電話 | ポスト |
|---|---|---|---|---|
| | 八 | 一、一九七 | 四 | 七一 |

| | 引受數 | 配、達數 |
|---|---|---|
| 通常郵便物 | 二、八五八、九一八 | 四、二二五、三二七 |
| 特殊郵便物 | 二八四、三七六 | 一〇〇、五九〇 |
| 小包郵便物 | 一四、九一七 | 五一、〇三三 |
| 合計 | 三、一五八、二一八 | 四、三七六、九五〇 |

### 電報取扱數

| | 內國電報 發信 | 內國電報 着信 | 外國電報 發信 | 外國電報 着信 |
|---|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 三九、二七七 | 九九、二八一 | 二七四 | 三四一 |
| 昭和八年 | 四二、五五一 | 九八、四〇四 | 四八五 | 五六九 |

此の外、內國電報中總信取扱數二五、一八七

### 電話取扱數

| | 昭和九年度 | 昭和八年度 | 昭和七年度 |
|---|---|---|---|
| 市内通話數 | 九六、七三〇、三〇六 | 五、六九六、七五四 | 四、五五九、七八九 |
| 市外通話數 | 四五八、七四五 | 四三四、七五九 | 一、二六六、二三三 |
| 合計 | 九七、一八九、〇五一 | 六、一三一、五一三 | 五、八二六、〇二二 |

## 清水驛公衆電報取扱數

| | 受付數 | 電報料 |
|---|---|---|
| 昭和九年度 | 一一、九三九通 | 四、四一八圓九九錢 |
| 昭和八年度 | 一〇、一四六通 | 三、六七八圓五一錢 |
| 昭和七年度 | 八、一四六通 | 二、七九九圓一六錢 |

## 郵便局職員

### 清水郵便局

局長從七位勳八 山森一雄
主事勳八 羽根暳
主事 大村金作

仝 和田正市 主任 神谷關太郎
仝 小澤金太郎 平井銀作
仝 人見重三 平井武平
仝 正八山口芳朗 青木高
郵便部 堀切惣一



主任 森川三雄
爲替部 高木忠男
主任 淺羽信吉
遠藤いの
佐野清
高田清吉
保險部 河村金一
主任 淺井恒
小田德太郎
渡邊孝作
高橋長吉
佐野長作
尾原岩次郎
堀池良夫
杉山吉造
堀井榮作
取締勳八 鈴木鉀三郎

今泉辰美
齋藤彌三郎
鈴井武治
粉川金太郎
鍋田金次郎
武井源吾丞
丹所佐太郎
大石數雄
田榮一
庶務部 田英治
主任 寺武夫
薩川はる
渡邊正夫
內藤しづ
黑田靜枝
幾見儀三郎
望月清作
大澤藤作

松藏
下山よね
杉山行治

### 電話加入

主任 宇田幸之丞
監視員 片瀨正治
仝 小原仲吉
仝 望月音吉
仝 望月万才二

堀

### 江尻郵便局

（電話八四二番）

局長 木村信三
通信手 岩間松子
通信事務員 河村しげ子
仝 大越重德
仝 西谷二郎

### 波止場郵便局

（電話六二〇番）

局長　宮本勝一
通信手　宮本静枝
通信事務員　稲垣六彦
仝　山田波奈
仝　若杉一江
仝　奥川富代

## 江尻驛前郵便局
（電話八四四番）

局長　望月文雄
通信事務員　望月しづ江
仝　府川ナオ
仝　川口きよ子

## 清水本町郵便局
（電話八四三番）

局長　鈴木正平
通信手　鈴木甫子
仝　時山みち
通信事務員　八木みち
仝　若杉その江
仝　森まさ江

## 駒越郵便局
（電話一二〇〇番）

局長　齋藤整一郎
通信事務員　齋藤いと
仝　堀平司
仝　遠藤ヒサエ
仝　石野道

## 三保郵便局
（電話三保一番）

局長　正七動七功七級　内藤鐵太郎
通信手（局長代理）　内藤きく
仝　内藤家次
通信事務員　遠藤千代
仝　内藤かほる

## 有度郵便局
（電話有度一番）

局長　川端千代作
通信事務員　川端裕
仝　青野ゆき
仝　川端たい
仝　山田まさ

## 袖師郵便局
（電話一一九九番）

局長　小長井由作
通信事務員　小長井イマ
仝　千葉智恵子
仝　芦川泰子

## 江尻電話中継所
（電話八三九番）



擔當　宇佐美代吉
　　鎌田阪龜

## 清水燈臺

三保眞崎にある清水燈臺は通稱大鼻燈臺と云ひ、北緯三十五度、東經百三十八度三十二分に位し、燈質は連閃白光で毎十五秒を隔て五秒間に二閃光を發し明弧は百五十二度より十七度迄、光達距離は十四浬に及ぶ四萬五千燭光である。

看手　正七位勳七等　水野孝直

# 新聞

## 清水日日新聞社
（電話七一九番）

社長　若林今朝一
支配人　牧野茂
客員　常川金七
主幹　渡邊宗一郎
編輯長　室伏一
編輯部　芦川政春
營業部　和田映岳
　　高木清
　　大江藏人
販賣部　稲葉源太郎
　　水口津義
　　近藤秋男
　　堀馬正
工場部　後藤政兵
　　岡村勝太郎
　　松山武雄
　　和田孝太郎
　　渥美清

東京支局長　欠員
大阪支局長　永田格太郎
大宮支局長　友成祐記
吉原支局長　長島神風

富士支局長　鈴木清一
蒲原支局長　服部美雄
焼津支局長　柘植金太郎
靜岡支局長　芦澤豐明
濱松支局長　森　榮五郎
甲府支局長　山本武彦

焼津日日新聞社
（志太郡焼津町）
社長　若林今朝一
編輯長　森　下　博
營業部　柘植金太郎

靜岡日日新聞社
（靜岡市中田町）
社長　若林今朝一
總務　鹽田榮五郎

▼市内新聞社

東海中正新聞社
社長　佐藤文雄
清水毎日新聞社
社長　飯島政一
清水日報社
社長　伴博

▼各社通信部

東京朝日新聞社　速水暢
東京日日新聞社　北野慧
時事新報社　鈴木實
報知新聞社　宮田立四郎
讀賣新聞社　久保田凉
新愛知
國民新聞社　折笠平吉
靜岡新聞報社　山本弘
靜岡民友新聞社　長谷部清一

# 市政

## 通觀

大正十三年市制施行以來清水市は上水道並都市計劃街路事業に着手し上水道は第一期計劃並に船舶給水事業を完成し、都市計劃は昭和十年度完成の豫定になつて居る。これに並行して市當局は縣及内務省の清水港修築工事に協力し目下既定計劃たる折戸灣浚渫工事を繼續せしめると共に陸上設備の促



進を圖つて居るので其の完成は只時期の問題のみになつて居る。内政的には市債の增加に依つて近年財政に苦む立場に在るも、これ等は何れも償還方針を確立し、止むを得ざる事業費を起債に求めた事に依るもので、市債の增加は諸設備の擴充を意味し、新興清水市もこれに依つて漸く都市の形体を備へるに至つた。而して昭和十年度には財政難の折乍ら幾多の新事業を斷行して市勢發展に努力し、未曾有の震災に遭遇し乍らもよく復興の意氣を燃やし、一面觀光都市たると共に清水港を中心とする商工業都市としての清水市を建設せんとして居る。

## 吏員

清水市は市長、助役、收入役各一名、主事四名、技師二名、書記三十二名、技手十四名、書記補二十一名、技手補三名、雇二十九名、掃除監視員一名、運轉者一名、渡船々長二名、機關士二名、合計百四十一名である。

市政運用に就いては市會議員三十六名を選擧し、區長並に區長代理者百二十六名を推薦し、市長諸問機關として市參事會員、學務委員、土木委員、常設水道委員を始め、各種委員が組織されて居る。

## 市財政

清水市は昭和九年末現在調査に於ける市有財産の内、土地の宅地は五千七百十三坪、これが賃貸價格は一萬三百二十八圓にて、基本財産及積立金は二萬五千九百五十七圓、有價證券二萬七千二百九十五圓を有す。而して國税調定格は十七萬三千三百四十四圓六十九錢、縣税二十四萬九千六百四十八圓十六錢、市税三十六萬四千六百九十一圓十錢あり、直接國税一萬圓以上納税者は一名、千圓以上納税

者は十二名である。尚起債元利未償還額は昭和十年四月現在調にて五百三十三萬五千百圓に及び前年度に比し十三萬四千五百圓減じて居るが十年度に於ては小學校營繕費、水道費を始め、震災復舊費等の新規起債が行われたので頗る增加し、清水市財政の破綻を憂慮する向もあるが何れも確固たる財政方針に基き、償還方法を確立して居るが故に斯かる事は杞憂であらう。

## 基本財產及積立金

| 種別 | 金額 |
|---|---|
| 市基本財產 | 一、八三七、八四 |
| 小學校基本財產 | 二〇一、一五 |
| 消防組基本財產 | 九七九、七九 |
| 記念陳列館建築準備積立金 | 一、四五四、九三 |
| 橋梁準備積立金 | 三七、八〇 |
| 特別橋梁準備積立金 | 二、〇三六、三一 |
| 御大禮記念公會堂建築準備積立金 | 二、八二五、九六 |
| 博覽會準備積立金 | 三、一五六、四〇 |
| 商品陳列館建築準備積立金 | 五四八、四八 |
| 圖書館基本金積立金 | 五四八、四八 |
| 吏員給與金積立金 | 一、四五二、三〇 |
| 兒童就學奬勵資金 | 一、〇一四、一三 |

## 市債

| 種別 | 金額 |
|---|---|
| 道路橋梁改築費 | 四四、二〇〇円 |
| 市營住宅改築費 | 一八、三〇〇 |
| 小學校建築費 | 一五六、三〇〇 |
| 火葬場建築費 | 一〇、一〇〇 |
| 清水港陸上設備費及靜清國道負担金 | 一三二、九〇〇 |
| 舊債借替 | 八二一、八〇〇 |
| 水道布設費 | 二、二四二、五〇〇 |
| 都市計劃街路事業費 | 一、八二一、一〇〇 |
| 公益質舗建築費及資金 | 一七、三〇〇 |



| | |
|---|---|
| 罹災救助資金 | 六、九四二、三四 |
| 渡船改造費積立金 | 二、六四四、〇三 |
| 計 | 三五、九五七、九三 |
| 合計 | 五、三三五、一〇〇 |

## 清水市豫算

本市昭和十年度歲入出豫算は市勢の進展に伴ひ緊急差置き難き新規事業經費の增加を見たるも努めて歲入の堅實を計り市財政の基礎鞏固を圖る爲めに意を用ひ歲出に於ては一般經費の緊縮節約をなしたるも一面市民の福利增進に關する諸般の施設に付ては努めて考慮を拂ひ新規計劃の主なるものとして

一、神社供進金ニ關スル經費
一、產業吏員設置
一、觀光施設增加
一、清水船溜浚渫
一、幼稚園增改築
一、滯納整理專任吏員設置
一、汚物掃除燒却處分方法採用
一、法律相談所設置
一、小學校移轉增改築及高等小學校ノ新設
一、診療所耳鼻咽喉科開設

其他經常部財產費、臨時部寄附金、視察費、補助費、警備費等の經費に於て多少增額若くは新設したるも其他は大体前年度當初豫算を基準として適當なる按配を加へたものである。

## 歳入

| 科目 | 豫十年算額度 | 當九初豫年算額度 | 増 | △ 減 | 現九計豫年算額度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 繰越市雑繰貢財産使用料及手数料 | 九、九三 | 一一、一三七 | △ | 一、一四四 | 一一、一三七 |
| 市債収入 | 五六、一一一一 | 四六、五九四 | | 九、六一八 | 四六、五九四 |
| 国庫補助金 | 一一、五三六 | 一〇、七九四 | | 七四二 | 一一、〇六五 |
| 国庫負担金 | 五四、〇〇〇 | 五五、三〇〇 | △ | 一、三〇〇 | 五五、三〇〇 |
| 国庫補助金 | 七五〇 | 七〇〇 | | 五〇 | 七〇〇 |
| 府補助金 | 六、〇〇〇 | 六、〇〇〇 | | 〇 | 六、〇〇〇 |
| 府付金 | 三、七六一 | 五、四三〇 | △ | 一、六六九 | 五、四三〇 |
| 繰越金 | 一三、八四八 | 一〇、五三四 | | 一五、四一四 | 一四、一六七 |
| 繰越金 | 五、五一八 | 三、一一五 | | 一一、四〇三 | 一一、四〇七 |
| 繰越金 | 五六、一五七 | 三〇、九八四 | | 一三、一七三 | 六一、六四八 |
| 繰越金 | 一、〇〇〇 | 六、七五〇 | △ | 五、七五〇 | 一一、一八〇 |
| 繰越金 | 一 | 一 | | 〇 | 〇 |
| 繰越金 | 五九、四五三 | 五六、三〇五 | | 三、一四八 | 五九、六一七 |
| 繰越金 | 三六四、六九一 | 三四四、三一九 | | 一一、三七〇 | 三四四、三一九 |
| 繰越金 | 一一七、一〇〇 | 八三、一〇〇 | | 一八九、一〇〇 | 四七、三四一 |
| 繰越金 | 〇 | 五〇〇 | △ | 五〇〇 | 五〇〇 |
| 繰越金 | 九一七、一三〇 | 六七一、四七三 | | 三五六、六五七 | 一、一七五、一一九 |

## 歳出（經常・部）

| 科目 | 豫十年算額度 | 當九初豫年算額度 | 増 | △ 減 | 現九計豫年算額度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 神社費 | 一、一六〇 | 四五 | | 八四 | 四五 |
| 議会費 | 二、八六一 | 二、四六一 | | 四〇〇 | 二、四六一 |
| 役所費 | 七二、二四八 | 六六、七三五 | | 五、五〇〇 | 六六、七三五 |
| 土木費 | 一一、七七六 | 一〇、二四八 | | 一、五二八 | 一〇、六九三 |
| 小学校費 | 一九九、六四一 | 一八六、〇五七 | | 一三、五八四 | 一八六、〇五七 |
| 商業学校費 | 三六、四六〇 | 三五、九六三 | | 四七七 | 三五、九六三 |
| 幼稚園費 | 六、七五三 | 六、七八九 | △ | 三六 | 六、七八九 |
| 実修学校費 | 五、八五一 | 五、九〇一 | △ | 五〇 | 六、一〇四 |
| 教育費 | 二、一三〇 | 一、四三〇 | | 八〇〇 | 一、四三〇 |
| 訓練所費 | 七、八二五 | 七、八二五 | | 〇 | 七、九六五 |
| 書籍費 | 二、〇一五 | 一、九六七 | | 四八 | 一、九六七 |
| 諸費 | 一三〇 | 一三〇 | | 〇 | 一三〇 |
| 豫防費 | 一、三八九 | 一、四九九 | △ | 一一〇 | 一、四九九 |
| 病費 | 一、一七三 | 一、一七三 | | 〇 | 一、一七三 |
| 伝染病費 | 九、七〇八 | 九、六一五 | | 九三 | 九、六一五 |
| 隔離病舎費 | 九、三八七 | 一一、四四七 | △ | 二、一六九 | 一一、四四七 |
| 市立病院費 | 一一〇 | 一一〇 | | 〇 | 一一〇 |
| 汚物処理費 | | | | | |
| 代用診療所費 | | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 衛生諸費 | 三二〇 | 三二〇 | 〇 | 三二〇 |
| 火葬場費 | 四、二一三 | 四、〇六一 | 一五二 | 四、〇六一 |
| 勸業諸費 | 四、〇三八 | 三、一三〇 | 九〇八 | 三、一三〇 |
| 職業紹介所費 | 三、八〇七 | 三、四二四 | 三八三 | 三、四二四 |
| 社會事業費 | 四五五 | 三二〇 | 一三五 | 三二〇 |
| 救護費 | 五、六三三 | 四、五九八 | 一、〇三四 | 四、五九八 |
| 診療所費 | 一一、二五二 | 三、六四五 | 七、六〇七 | 五、一三〇 |
| 警備費 | 一六、一三〇 | 一七、〇七四 | △九四四 | 一七、〇七四 |
| 基本財産造成費 | 一九五 | 六七〇 | △四七五 | 六七〇 |
| 財産費 | 四、七五一 | 二、六〇六 | 二、一四五 | 二、六〇六 |
| 諸税及負担 | 九二五 | 九五七 | △三二 | 九五七 |
| 公金取扱費 | 五〇〇 | 五〇〇 | 〇 | 五〇〇 |
| 給與金 | 四〇〇 | 〇 | 四〇〇 | 〇 |
| 雜支出 | 一〇、八六六 | 一〇、〇一八 | 八四八 | 一〇、五四三 |
| 豫備費 | 七、一九五 | 五、〇〇〇 | 二、一九五 | 八、〇〇〇 |
| 經常部計 | 四四一、七三六 | 四〇六、四五八 | 三五、二七八 | 四三一、二五六 |

## 歳出（臨時部）

| 科目 | 十年度豫算額 | 九年度當初豫算額 | 增△減 | 九年度現計豫算額 |
|---|---|---|---|---|
| 役所費 | 五〇〇 | 六〇〇 | △一〇〇 | 六〇〇 |
| 市吏編纂費 | 二、〇八〇 | 一、八四五 | 二三五 | 一、八四五 |
| 土木費 | 三九、五〇〇 | 三五、二〇〇 | 四、三〇〇 | 一二五、〇〇七 |
| 小學校營繕費 | 二五六、七〇〇 | 〇 | 二五六、七〇〇 | 三三、五三〇 |
| 幼稚園營繕費 | 九、〇〇〇 | 〇 | 九、〇〇〇 | 〇 |
| 警備費 | 二、六〇五 | 一、五九〇 | 一、〇一五 | 一、八九〇 |
| 積立金 | 二、八五七 | 二、七七四 | 八三 | 二、七七四 |
| 公債費 | 一四〇、〇九二 | 一三二、六六六 | 一八、四二六 | 五二三、三六八 |
| 選擧費 | 九七〇 | 八四〇 | 一三〇 | 八四〇 |
| 市勢發展調査費 | 五〇〇 | 五〇〇 | 〇 | 五〇〇 |
| 補助費 | 一三、六八三 | 一三、四一七 | 二六六 | 一四、二二七 |
| 寄附金 | 六、七八八 | 〇 | 六、七八八 | 〇 |
| 國勢調査費 | 一、〇〇〇 | 〇 | 一、〇〇〇 | 〇 |
| 雜支出 | 九、一一九 | 七八、二一四 | △六九、〇九五 | 八〇、九三三 |
| 農業土木費本年度支出額 | 〇 | 八二〇 | △八二〇 | 八二〇 |
| 勸業諸費 | 〇 | 一九一 | △一九一 | 一九一 |
| 市立病院費 | 〇 | 一、八七〇 | △一、八七〇 | 一、八七〇 |
| 診療所設備費 | 〇 | 三、〇三五 | △三、〇三五 | 三、〇三五 |
| 塵芥處分場設備費 | 〇 | 二、三五三 | △二、三五三 | 二、三五三 |
| 社會事業費 | 〇 | 一〇〇 | △一〇〇 | 一〇〇 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 煙竿建設費 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 一、〇〇〇 |
| 臨時部計 | 四八五、三九四 | 二六五、〇一五 | 三一〇、三七九 | 七六二、八六三 | |
| 歳出合計 | 九二七、一三〇 | 六七一、四七三 | 二五五、六五七 | 一、一七五、一一九 | |

## 特別會計

| 豫算 | 十年豫算額 | 九年當初豫算額 | 增△減 | 九年現計豫算額 |
|---|---|---|---|---|
| 兒童就學奬勵資金 | 一、四一三 | 一、一三八 | 二七五 | 一、七九八 |
| 罹災救助資金 | 八三二 | 八六五 | △三四 | 八六五 |
| 渡船事業費 | 一三、一三〇 | 八、八九九 | 三、一三一 | 八、八九九 |
| 公益質舗 | 五四、五三八 | 五四、六六五 | △一三七 | 五四、六六五 |
| 靈柩自動車費 | 二、三〇二 | 一、四四六 | 八五五 | 一、四四六 |
| 水道費 | 二三四、七五七 | 二三四、三〇一 | 一〇、四五六 | 二九九、八九〇 |
| 都市計畫街路事業費 | 三二一、六九九 | 二九二、〇三二 | 一九、六六七 | 二九二、〇三二 |
| 特別會計合計 | 六一七、六五九 | 五八三、三四六 | 四四、三一三 | 六五九、五九五 |
| 總計 | 一、五四四、七八九 | 一、二五四、八一九 | 二八九、九七〇 | 一、八三四、七一四 |

## 都市計劃

清水市都市計劃街路事業は昭和三年より九年に至る七ヶ年繼續事業として事業費六百二十八万四千



圓を以て開始された其の後財源の關係上二百五十三万六千圓に減額されたが豫定年度迄に大曲波止場線、大曲大正橋線、駒越横砂線、上清水駒越線、村松折戸線、折戸蛇塚線以上六線を竣工せしめたるも遂に折戸三保眞崎線龍華寺平川地線の二線を餘したので止むなく內務省の認可を求めて事業年限を昭和十年迄延長すると共に路線を變更して折戸眞崎線中三保眞崎間を市土木事業に編入し駒越横砂線の豫定線中柳橋通りを延長して仲町五軒町間を貫通せしめ以つて江尻耕地整理組合道路と接續せしむる事になり國庫補助を更に一万圓仰いで十年度內には着工するも以上の事務的手置きが手間取つた爲め豫期の事業を施行し得ず尙昭和十一年度へ繼續せしめて豫定事業を完成せしめる事になつた。

### 事業路線

| 路線名 | 幅員 | 事業費 |
|---|---|---|
| 大曲波止場線（竣工） | 一二 | 一、一九五、〇二五円 |
| 大曲大正橋線（竣工） | 八 | 二三六、六三五 |
| 駒越　横砂線（竣工） | 八 | 二八七、九九八 |
| 仝　線　延　長 | 八 | 一〇八、五九〇 |
| 上清水船越線（竣工） | 六 | 一〇〇、四五四 |
| 村松　折戸線（竣工） | 一〇 | 二七〇、五三一 |
| 折戸　蛇塚線（竣工） | 八 | 三七、二〇六 |
| 折戸　三保線 | 八 | 八八、二三三 |
| 龍華寺平川地線 | 六 | 一〇〇、三一八 |
| 合計 | | 二、四二四、九九〇 |

### 事業費財源

| 種別 | 金額 |
|---|---|
| 受益者負担金 | 四七四、三一八円 |
| 縣費補助 | 一九八、九五〇 |
| 電車負担 | 八三、〇〇〇 |
| 市債 | 二、一四五、五〇〇 |
| 都市計劃特別稅 | 二一五、八七一 |
| 國庫補助金 | 三〇、六四五 |
| 雜收入 | 四九、六三九 |
| 市費繰入 | 四、四七一 |
| 合計 | 三、二〇二、三九四 |

## 耕地・區劃整理

都市計劃事業と密接なる關係を有する耕地並に區劃整理事業は市の都計事業と相呼應して開始され合計十一組合の設立を見たが、昭和八年度に五組合は事業を終了して解散し、殘る六組合も事業は終了したので夫々移管上の登記手續き中に屬するので同筆業は一段落となつたが、今度都市計劃が路線を變更し駒越横砂線を延長して江尻耕地整理組合道路へ接續せしめる事になつた爲これを契機として豫定事業線となつて居る上町より龍華寺線に至る十五万坪、九百三十五間の間に大區劃整理を行わんとし第四區に分つて夫々小組合を組織す可く地主有志が奔走中なので昭和十一年度には着手の運びに至る可く、若し實施に至つた場合には總事業費十万圓に對し、市は三万圓程度の補助金を交付する事になつて居る。

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 江尻耕地整理組合 | 昭和三年 | 十二月 | 一七七 | 一八〇、五〇七 | 二八三、五一九 |
| 大橋通區劃整理組合 | 仝 | 六年 十一月 | 一九 | 一、三二四 | 三五、九五九 |
| 船越區劃整理組合 | 仝 | 十一月 | 六二 | 五四、八三三 | 三二、一六七 |
| 宮加三區劃整理組合 | 仝 | 十二月 | 六〇 | 四四、六九四 | 二三〇、四九〇 |
| 櫻ヶ丘區劃整理組合 | 仝 | 八年一月 | 九 | 三、二一八 | 二、五〇〇 |
| 櫻橋通り區劃整理組合 | 仝 | 四月 | 四五 | 一九、三二一 | 九、三〇〇 |

SSK
清水食品株式會社
造壺
製罐
販賣
冷凍
冷藏

高級
帶鋸。製材機械一式專門
バンドソーホイールケンマ
帶鋸。堅鋸。丸鋸 直輸入
ベルト。金剛砥石。工具類
帶鋸加工技術教授

田中商會製作所

田中明

靜岡縣清水市萬世町
電話七一〇番



## 水道

昭和五年八月着工し同八年三月竣工せる清水市上水道は現在二十四吋配水本管より支管を合して總延長七万四千百七十六米に達し此の配水管布設區域戸數の四割五分の給水を行つて居るが漸次擴張の余地も狹められて來たので駒越方面へ向けての配水等を延長し全市給水が企られて居るが現在の概況は別表の如く、尙ほ此の外給水使用料概算前納金として六九圓八七錢あり船舶給水料金四二四圓八八錢が加へられる。

| 給水類別 | 戸數（十年度當初） | 前年度 | 一ヶ月給水使用料 |
|---|---|---|---|
| 定額給水 | 一、九九四戸 | 一、九一七戸 | 二、六七七圓九九 |
| 計量給水 | 七二四戸 | 六九八戸 | 二、八九九圓四九 |
| 共用給水 | 六一三戸 | 五〇三戸 | 三二六圓六〇 |

## 船舶給水

船舶給水事業計劃は一般給水の剩余水量を以つて充分營業の可能性を認めて昭和八年度に豫算七万五千圓を計上され準備に着手したるも民間現業者の買收が意外に至難の爲翌年度へ繰越され同年は岸壁給水のみを實現して沖合給水は未だ其の機に至らなかつたが、昭和十年度に於て漸く實現期に入り先づ水槽船一隻、曳船一隻を建造し、民間業者の買收も終了したので同年八月より市營沖合給水事業

を開始し岸壁、沖合共に市が一手供給をする事になり、事務所を羽衣橋袂に建築し使用船は新造並買收舊船六隻を常備して居るが開始第一年の收入豫算は二万六百余圓を計上して居るも昭和十一年度よりは設備費の徹廢と營業の本格化から永らく赤字事業となつた居た水道課の好財源となる。

# 名譽職員

## 市會議員

（定員三十六名）

江川政太郎　池上清一郎　木口波三郎　稲名龜造　平尾平十　柴田久右衛門　望月喜平　菊地金作　上口與右衛門　内田郁太　鈴木與平　角田德次郎　山田政吉　野村清三郎　伊藤德太郎　兼岩靜衛　望月松藏　天野久太郎　若林今朝一　山本量平　中村藤太郎　山梨謙藏　豊島萬藏　堀辰吉　岩崎榮朗　鈴木平一郎　宮城島勝造　杉本敬一　府川平作　深江幸太郎　池田作太郎　山本正治　竹内福三郎　小野壽一郎　遠藤茂助　鈴木晋吉



## 參事會員（十名）

池上清一郎　柴田久右衛門　上口與右衛門　山田政吉　伊藤德太郎　望月松藏　山本量平　府川平作　深江幸太郎　小野壽一郎

## 學務委員（十名）

市會議員　天野久太郎
仝　宮城島勝造
仝　杉本敬一
仝　山本正治
市公民　佐津川好太郎　原田實　山梨重多　岡田忠雄　關鼎（欠員）

## 常設土木委員（十二名）

參事會員　山本量平　小野壽一郎
市會議員　菊地金作　野村清三郎　若林今朝一
市公民　鈴木晋吉　山崎庄十　服部千次郎　川島松藏　櫻田虎藏　吉田正一　杉山德次郎　小學校教員　岡田忠雄

## 常設水道委員（十六名）

市會議員　江川政太郎　望月喜平　内田郁太　若林今朝一　豊島萬藏　鈴木平一郎　竹内福三郎　鈴木晋吉
市公民　海野保太郎　柴崎賢一　山本惣吉　井上爲吉　柴田熊吉
醫師會長　山田昌榮
消防組頭　天野久右衛門
藥劑師　眞長兵衛

## 市勢發展調査委員（十三名）

市會議員　鈴木與平
中村藤太郎
稲名龜造
角田德次郎
杉本敬一
山本正治
市公民　原田三左衛門
守屋文太郎
山田勝四郎
望月益之助
阪上政次郎
小塘孫八
山田政吉
鈴木平一郎
深江幸太郎
池田作太郎
遠藤茂助
北村五兵衛
劒持宰司
長澤金治郎
岩崎敬次郎
宮城島・猪之吉

## 財政調査委員（十名）

市會議員　江川政太郎
望月喜平
内田郁太

## 都市計劃靜岡地方委員會委員（六名）

市會議員　木口波之助
平尾平十
兼岩靜衛
山梨謙藏
岩崎紫朗
堀辰吉

## 臨時都市計劃評價委員（十名）

市會議員　池上清一郎
稲名龜造
角田德次郎
野村清三郎
天野久太郎
竹内福三郎
市公民　坪井茂三郎
岩崎敬次郎
原台吉
櫻田仁作

## 市稅滯納整理委員（八名）

市會議員　望月喜平
菊地金作
上口與右衛門
角田德次郎
豐島萬藏



鈴木平一郎
宮城島勝造
池田作太郎

## 所得稅調査委員（六名）

鈴木與平
原田實
山本惣吉
山本量平
栗田定吉
山崎庄十

## 衛生委員（十名）

市會議員　伊藤德太郎
池上清一郎
上口與右衛門
岩崎紫朗
野村清三郎
豐島萬藏
醫師　山田昌榮
齋藤礒次
齒科醫師　望月弘章
藥劑師　眞長兵衛

## 臨時震災復興委員（十名）

市會議員　鈴木與平
遠藤茂助
山本正治
稲名龜造
山梨謙藏
角田德次郎
山本量平
中村藤太郎
天野久太郎
堀辰吉
遠藤茂助
池上清一郎
柴田久右衛門
上口與右衛門
山田政吉
伊藤德太郎
望月松藏
山本量平
府川平作
深江幸太郎
小野壽一郎
消防組頭　天野久右衛門
青年團長　金子勇治
農會長　菊地金作
水產會長　石野又七
材木組合長　中村藤太郎
神職　長澤雄楯
僧侶　玉谷日晉
社會教化委員　鵜飼義孝

## 選擧肅正委員（四十名）

市會議員　鈴木與平

| | | | |
|---|---|---|---|
| 仝 | 石本正治 | 仝 | 杉山德次郎 |
| 學識經驗者 | 山田勝四郎 | 仝 | 中村安太郎 |
| 仝 | 小川隆三 | 仝 | 白鳥茂作 |
| 仝 | 鈴木平一郎 | 仝 | 井上爲吉 |
| 仝 | 北川藤吉 | 仝 | 宮城島猪之吉 |
| 仝 | 若林今朝一 | 小學校長 | 關鼎 |
| 仝 | 佐藤文雄 | 警察官吏 | 井上康義 |
| 仝 | 飯島政一 | 仝 | 鈴木武男 |
| 仝 | 山崎庄十 | 市吏員 | 佐藤繁一 |

## 區長並區長代理者【一二六名】

| 區名 | 區長 | 區長代理者 | 區名 | 區長 | 區長代理者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 辻 | 山崎庄十 | 望月松 | 第七區 | 國持彌重 | 平井勘作 |
| 第二區 | 高田高吉 | 馬越亮 | 相生町 | 山田重多 | 山田幾太郎 |
| 第三區 | 小林舗平 | 渡邊劍吉 | 旭町 | 福田忠平 | 外岡太郎吉 |
| 第四區 | 上口與右衛門 | 瀧松兵衛 | 魚町 | 山田昌榮 | 中田兼吉 |
| 第五區 | 山本林作 | 望月保太郎 | 仲町 | 齋藤彦左衛門 | 橋川光三郎 |
| 第六區 | 山田武太郎 | 大場由藏 | 紺屋町 | 杉山德治郎 | 山田勝次郎 |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 志茂町 | 丑永重太郎 | 磯田長作 | 清水第一區 森源八 川本安太郎 |
| 七軒町 | 望月伊作 | 横澤竹次郎 | 第二區 渡邊清吉 間瀬政助 |
| 巴町 | 遠藤重松 | 中村兼次 | 第三區 山本量平 石野源七 |
| 鑄物師町 | 久保田愼太郎 | 池上政次郎 | 第四區 中村源吉 池上五郎 |
| 鍛治町 | 池上一郎 | 池上幸太郎 | 第五區 宮本惣平、原乙吉 |
| 本鄕町 | 佐藤覺太郎 | 望月武 | 第六區 山田政吉 山田平一 |
| 大手町 | 高橋堅太郎 | 武田佐太郎 | 第七區 土屋大吉 杉山熊吉 |
| 小芝町 | 遠藤平壽 | 渡邊敏雄 | 第八區 山田圖機 松下業治 |
| 傳馬町 | 丸山實太郎 | 西村國藏 | 第九區 木口準次 望月晉次郎 |
| 入江第一區 | 矢口莊吉 | 深澤伊作 | 第十區 鹽崎福三郎 池田利平 |
| 第二區 | 竹村與吉郎 | 坪井茂三郎 | 第十一區 白鳥茂作 山田龜吉 |
| 第三區 | 佐津川好太郎 | 杉山秀吉 | 第十二區 柴田準藏 |
| 元追分 | 岩本宗作 | 藤下三作 | 第十三區 丸山常次郎 山崎泰治郎 |
| 新富町 | 山本三作 | 相山久作 | 第十四區 小野壽一郎 池上繁太郎 |
| 榮町 | 勝澤信太郎 | 齋藤才次郎 | 船越 大石新太郎 田代春吉 |
| 岡 | 中村安太郎 | 太田文作 | 南矢部 鍋田邦治 望月芳治 |
| 上清水 | 長澤重兵衛 | 芦川榮太郎 | 北矢部 渡邊延太郎 西井敬作 |
| 横濱町 | 井柳晉吉 | 杉山梅藏 | 下清水 伊藤榮太郎 中川宗太郎 |
| 片羽 | 天野龍太郎 | 梅島常次郎 | 八千代町 望月正太郎 石垣晉吉 |

村松井上爲吉　望月新太郎
幸町大瀧大三　松永德三郎
宮加三望月善左衛門　岩崎幸作
駒越渡邊綱　齊藤重多
蛇塚山本作平次　望月豊太郎
增萩原大吉　萩原要作
折戸柴田兩太郎　堀辰吉
宮方宮城島猪之吉　宮城島與五兵衛
塚間窪田峰吉　望月金作

## 清水市有權者

三保第一區　藤浪繁太郎　遠藤平馬
第二區　遠藤榮松　遠藤清重
第三區　柴金右工門　柴吉松
第四區　石野熊次郎　藤浪豊吉

非公認

小芝町三丁目　青木正作
小芝町二ノ丸　青木啓太郎
宮代町森　惣作

## 市役所

（昭和十年十月現在）
（電話代表三〇〇番）

| 種別 | 定員 | 昭和九年 | 昭和八年 | 昭和七年 |
|---|---|---|---|---|
| 帝國議會 | 一 | 一一、八五〇 | 一一、七七一 | 一一、四三七 |
| 縣會 | 二 | 一一、五九三 | 一一、三二七 | 一一、〇九一 |
| 市會 | 三六（十年） | 一二、五一〇 | 一一、三二七 | 一一、〇九一 |
| 陪審員 | 二七 | 一、四三八 | | 一、三〇五 |



市長　從六　大石惠直
助役　動六　佐藤繁一
收入役　正七　渡邊房太郎

### 庶務課

課長　主事　程島定彦
秘書係書記　杉山冢二
書記　動八　伴野芳藏
書記　永田常次郎
仝　釘谷猛
仝　大川長吉
仝　動八　仁杉養造
枝手　鳳間靖
書記補　望月守吉
仝　伏見誠作
仝　岩科英哉
仝　山田本淨
雇　遠藤定一
仝　橋本芳郎
仝　藤井淺太郎
仝　杉雄三郎
仝　若村令浩
仝　杉茂作
仝　望月志郎
仝　望月いし
仝　山田まき
臨時雇　栗田榮吉
仝　藤卷芳雄
仝　福島鶴
仝　若杉フヂエ
仝　久保田致
仝　坪井久作
仝　太田きく枝
仝　神戸てる
仝　山田正一
掃除監視員　動七　大角藤次郎
運轉者　佐野重太郎

### 財務課

課長　收入役　渡邊房太郎
書記　永長由太郎
仝　青島嗣一
仝　吉野吉太郎
仝　寺尾功平
仝　動八　畑榮吉
仝　鈴木先太郎
仝　動七　桑原彌三郎
仝　龜山賢一
書記補　高野延一
仝　山本亮
仝　高木寅十郎
仝　山本數馬
仝　杉山正男
仝　松本喜代太郎
仝　望月くら
仝　糠谷實

全　水崎宇吉
雇　杉本慶太郎
全　尾田信太郎
全　堀内義孝
全　望月義松
全　石垣兵之丞
全　小野田喜鷹
全　庄司誠策
全　飯野房子
全　岩崎鋭成
臨時雇　山村新次郎
全　錦織秋男
全　後藤金藏
全　佐藤靜子
全　渡邊眞吾
全　澤野義雄
全　牧田定雄

## 學務課

課長　主事　渡邊矢三郎
主事　柴本禮三
書記　竹内健治
全　勳六功七　堀内寅平
大瀧國太郎
花島六郎
劍持敏郎
坪井榮一郎
山本精二
杉本董
書記補　川尻甚太郎
臨時雇　杉山譽四郎
全　市吏編纂係書記　法月俊郎
書記補　佐藤實郎

## 土木課

課長兼技師　川勝忍
技師　大城忠雄
技手　堀義一
全　藥科　重吉
書記補　小島茂
技手補　馬淵富雄
臨時雇　佐藤與吉
全　安間大三
全　足土幸平
全　風間幸作

## 都市計劃課

課長　技師　川勝忍
書記兼技手　佐藤直之
書記　勳八　井藤比佐吉
全　勳七　松永益之助
全　山本敏男
全　磯貝大作
技手　太田精一
全　柳原勝人
全　山本幸平
全　佐野精一



全　平井茂雄
雇　增田鐵藏
臨時雇　白井喜作

## 水道課

（電話九〇〇番）

課長　主事　宮崎吉太郎
書記　谷澤熊一
全　中村五郎
技手　堀眞
全　籠谷誠一
臨時雇
全　藤松省三
全　伴野武雄
全　小長谷鉐太郎
書記補勳七　石切山武治
全　古牧安太郎
全　稲葉陽三
全　渡邊松男
全　高山吾郎
技手補　阿部勝太郎
全　稲葉順
雇　梶田儀右衛門
臨時雇　堀池衛太郎
高鳥孝昌
西村福三郎
瀧茂雄
長澤鐵雄
內藤正夫
長岡勉
望月金五郎
渡邊峰四郎
鍬下晃
杉山平二

## 職業紹介所

（電話一、〇三三番）

所長　書記　岩崎金兵衛
書記　岡野永三郎
全　黑川又吉

## 市立圖書館

館長（兼）　渡邊矢三郎
書記　鈴木金治

## 公益質舗

事務員　石川登一郎
全　根津孝太郎

## 市立病院

（電話三五一番）

院長兼醫員　山崎明倫
調劑員兼事務員　狩野覺
看護婦　加藤ウメノ
全　小長井とし江

## 市立診療所

（電話三五一番）

醫員　板橋剛
全　日下田潔
藥劑師　中田讓

事務員　安間友一
看護婦　粕川かほる
看護婦見習　神戸こと

仝　太田芳江
市營火葬場　管理者兼技手
（電話四七二番）　萩原彬伸

# 教育

## 通觀

清水市現在の教育施設としては縣立中學校一、縣立高女一、市立商業學校一、私立女學校三、尋常高等小學校八、青年學校七、市立幼稚園三、私立幼稚園五等である。

小學校教育に就いては昭和十年度に大英斷を以つて高等科を統一して一校增設し、農業科のみは駒越小學校に併設する計劃の下に、これが建設費並各校補强工事費二十四万五千余圓の起債認可を申請し、認可の曉は中堅人物養成を目指して理想的高尋科教育を施すと共に、一面各校の兒童收容增加を緩和する筈である。此の外市立幼稚園に就いても增改築を加へる可く起債申請中であるが今年度の教育費は小學校費の十九万九千余圓を始め合計二十五万六千余圓を占めて居る。又震災に依る復舊費は起債に求めるが一時借入金を以つて應急復舊工事を施行し、多年行惱んで居た駒越小學校移轉改築問題も遂に現在の儘として解決し直ちに着工したので年内には竣工して面目を一新する事になつて居る



清水高女の移轉改築は十年度縣會を通過したるも縣の赤字財政整理たる實行豫算の影響を受けて實現しないが十一年度には着手される見込みで地元並保護者會等は折角運動中である。

## 中等學校

| 學校 | 校數 | 生徒數 | 職員數 |
|---|---|---|---|
| 庵原中學校 | 一〇 | 四九二 | 二四 |
| 清水商業學校 | 一〇 | 四九三 | 二四 |
| 清水高等女學校 | 九 | 四一〇 | 一八 |
| 清水女子商業學校 | 二 | 六六 | 五 |
| 清水裁縫女學校 | 五 | 八五 | 六 |
| 山田女子技藝學校 | 二 | 三一 | 二 |

## 小學校

| | 教員數 | 學級數 尋常 | 學級數 高等 | 學級數 計 | 兒童數 男 | 兒童數 女 | 兒童數 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 辻 | 二六 | 一九 | 四 | 二三 | 一、一四四 | 一六二 | 一、三〇六 |
| 江尻 | 三六 | 二七 | 六 | 三三 | 一、六三三 | 二二二 | 一、八五五 |
| 入江 | 二三 | 一七 | 三 | 二〇 | 九四三 | 一三五 | 一、〇七八 |

## 幼稚園

| | 學級數 | 園兒數 | 職員數 |
|---|---|---|---|
| 岡山市立江尻幼稚園 | 四 | 一二七 | 四 |
| 清水市立清水幼稚園 | 四 | 一四五 | 二 |
| 不入市立三保幼稚園 | 二 | 四四 | 二 |
| 駒越私立江幼稚園 | 四 | 九三 | 三 |
| 三保私立清美幼稚園 | 四 | 一七七 | 五 |
| 見附私立辻幼稚園 | 二 | 一一七 | 四 |
| 越前私立旭幼稚園 | 四 | 七八 | 二 |
| 計 | 三〇 | 六〇 | 三 |

## 講習所

| | 職員 | 生徒數 | 開講數 | 給料 | 雜給 | 其他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 清水市青年講習所 | 一六 | 一三一 | 一五 | 四、四〇三円 | 八四九 | 一、〇〇五 | 六、七五三 |
| 清水市女子青年講習所 | 七 | 一〇一 | 八 | 一五八、四九〇 | 一二、六二六 | 二八、五二五 | 一九九、六四三 |
| 幼稚園 | | | | | | | |
| 小學校 | | | | | | | |
| 商業學校 | | | | 二六、〇四三 | 四、〇七九 | 六、三三八 | 三六、四六〇 |
| 補習學校 | | | | 四、三九六 | 二二五 | 一、二三〇 | 五、八五一 |
| 青年訓練所 | | | | 六、一八〇 | 一九九 | 一、四四六 | 七、八二五 |



## 教育費

## 教育費補助

| | | |
|---|---|---|
| 國庫下渡・縣費補助 | 國庫 | 義務教育費下渡 |
| | | 短期現役員俸給下渡 |
| 市費補助 | 清水市教育會補助 | 六四八円 |
| | 清美幼稚園補助 | 二六〇 |
| | 辻幼稚園補助 | 六〇 |

| 費 | |
|---|---|
| 清水商業學校補助 | 二、七〇〇 |
| 青年訓練所補助 | 八〇〇 |
| 實習學校補助 | 一、一〇〇 |
| 計 | 五八、六〇〇 |

| | |
|---|---|
| 入江幼稚園補助 | 六〇 |
| 旭幼稚園補助 | 五〇 |
| 島崎幼稚園補助 | 五〇 |
| 清水市青年團補助 | 一、五三〇 |
| 清水市處女會補助 | 七二〇 |

# 教聯員

## 縣立庵原中學校
（電話四九一番）

校長從五勳六　北川藤吉
教諭正六　辻精司
　　正七　草谷時次
　　　　　後藤倭彦
　　　　　太田藤一郎
　　　　　大竹義吉
　　　　　池上善作
　　　　　井出常雄
　　　　　長谷川正夫
　　　　　曦之英
　　　　　八尋壽太
　　　　　大石佐太郎
　　　　　山下謹四郎
　　　　　長島豊
書記心得　村本信一
　　　　　生津好雄
　　　　　田中忠男
　　　　　清善作
教諭囑託　池田和市
　　　　　海野仁
　　　　　山田康雄
　　　　　三島喜代造
配屬將校　赤羽正太郎
歩兵大尉

## 清水商業學校
（電話二二四番）

校長從六　高島嘉勝
教諭從六西　山存次郎
　　從六太　田正規
　　　　三浦猛
　　正七　泉喬一
　　　　岩本寛
　　　　天野薫雄
　　　　作田光次
　　　　石川光雄
　　　　田淵繁夫
　　　　伊藤定雄
　　　　近藤令彰
　　　　熊田貞之
　　　　原田四郎
　　　　小山實
　　　　杉浦節
囑託　　內田貞次郎
　　　　渡邊喜平
　　　　大長九郎
　　　　渡邊恭雄
　　　　伊柳鋏之助
　　　　柳原勇作
　　　　ウイルバート・ローイアック・ウイリアム
書記　　大坪鐵三郎



## 縣立清水高等女學校
（電話三九六番）

校長從六　村恒雄
教諭從六　廣野友七
　　從六　土井ちとせ
　　正七　鈴木洪岳
　　　　益永透
　　　　三浦ふさ
　　　　井上治三郎
　　　　木村靜子
　　　　伊藤康
　　　　清水すゑ
　　　　吉野壽
　　　　瀧戸一
　　　　瀧戸かず
　　　　見久榮
書記心得　青木梅吉
教諭囑託　前島淺吉
　　　　鵜飼義孝
　　　　夏目秋藏

## 清水女子商業學校
## 清水裁縫女學校
（電話一八九番）

理事校長　市毛金太郎
理事　中澤毅一
教員　縣康
　　田中賢
　　寺井鐵藏
　　溝尻長弘
　　沼口一美
　　坂田房次
　　郡司清繁
　　平尾花笠
　　大村武雄
　　渡邊孝英
　　片桐昌

全　市毛道子
全　久貝ノブ
全　曦幸子
全　勝田早苗
全　武井幸子
囑託　馬場春邦
全　横山君子

## 小學校

### 辻尋常高等小學校
（電話七八三番）

訓兼校長　山本近次郎
訓導　飯田昇
全　渡邊幸平
全　笹田三郎
全　西井戸利郎
全　稲葉茂子
全　鈴木次郎吉

全　池谷武夫
全　野澤務
全　鍋田良次
全　鹽津貞
全　石切山ひで
全　鈴木敬作
全　平野利雄
全　菊地きく
全　戸田秀雄
全　寺島俊夫
全　野々山義晴
全　城内貞惠
全　太田保司
全　佐野智惠
全　原保太郎
全　小林ちよ
全　井上ちよ
全　小川なみ
全　八木ちゑ

### 江尻尋常高等小學校
（電話二八五番）

訓兼校長　三須完一郎
訓導　高橋實三
全　三澤定雄
全　林東樹
全　大石仁作
全　山本悅
全　望月槇太郎
全　井藤英彥
全　西脇征露久
全　渡邊繁
全　村上洵
全　天野利雄
全　片山貞
全　林正藏
全　久保田利雄
全　大石さと
全　五十嵐しず江



全　和田旭
全　戸田すみれ
全　森久次
全　保崎萬吉
全　鴉飼義方
全　鈴木孝孚
全　渡邊莊平
全　木内せつ
全　松本ろく
全　片山寅平
全　伊藤八重
全　青地豐子
全　水野千鶴子
全　稲葉貞子
全　大石とき
全　八木理次
全　川田利雄
全　石川武雄
全　鈴木與三郎
全　黒柳安郎
全　松浦愛子
全　大石倍子
代用　

### 入江尋常高等小學校
（電話二三〇番）

訓兼校長奏任待遇　岡田忠雄
訓導　山崎孝三郎
全　山崎惠次
全　酒井孝平
全　朝川い江
全　竹永孝太郎
全　船津好
全　乾義雄
全　鈴木和男
訓導　山田茂
全　鈴木策司
全　影山申治

全　行田隆一
全　都築千代子
全　齋藤こと
全　安間重雄
全　三浦はま
全　中根一夫
全　佐野こう
全　增井清
全　堀尾みちよ
全　鈴木憲二

### 岡尋常高等小學校
（電話六四〇番）

訓兼校長奏任待遇　夏目三雄
訓導　小林動
全　井木猪策
全　磯部昌一
全　渡邊好雄

全　太田三郎
全　夏目榮一
全　竹内藤兵衛
全　澤野義雄
全　渥美國雄
全　高田吉郎
全　杉山八重
全　服部萬平
全　藤牧胖
全　川端政雄
全　角替よし
全　大川らく
全　飯塚治六
全　白井清枝
全　梅田雪太郎
全　杉山幸一
全　岡野やす
全　天野忠司
全　吉野ひさ子
全　大關節
全　藤野つぎ
全　石井勤
全　龜山實
全　石井やゑ
全　片山大次郎
全　石井くに
全　角替時雄
全　石川卓郎
全　大石善志
全　長島元正
全　加藤次郎
全　福本嘉七
全　內野四郎
全　杉本俊二
全　佐野和夫
全　朝比奈猛
全　外村七郎
全　足立莊治郎
全　小林ミツ
全　山本勝
全　武田シヅ
全　堀金次郎
全　黑川弘司
全　宮川ふさ
全　鈴木克己
全　藤野嘉一
全　田村鋼太郎
全　鈴木誠
訓導　村松清司
全　瀧浪良太郎
訓兼校長　五十棲秀雄
訓導　平岡幸作
全　柴田てる
全　鈴木浪江
全　柴田逸郎
全　西村ちさ江
全　大東清一
全　伴野規矩
全　大島久米子
全　岡野好子
全　鈴木武雄
全　八木完二
全　原田武雄
全　渡邊ちゑ
全　芝田芳雄
全　川口茂
全　小林政一
全　增田ゆう
全　牧田ちゑ
全　池田喜作
全　池田哲太郎
全　服部くに
全　小宮山英和
全　柴川敏子
全　石井茂
全　飯塚久子
全　飯田こと
全　澤田平
全　鶯巢輝
全　川端かね
全　川本ちか
全　小野田ちぬ江
全　小川茂
全　西山ユキ
全　平岡幸作
全　村松清司
全　風間さか子
全　古山正代
全　土屋健次
全　增田金助
全　瀬戸尾はつ
全　鈴木克己
全　田村鋼太郎
全　鈴木誠
全　川口彌助
訓兼校長　城所武平
訓導　川端かね
全　川本ちか
全　梅原柳三
全　松本ふさ
全　鈴木君子

## 清水尋常高等小學校
（電話七六七番）

訓兼校長　奏任待遇　關鼎
訓導　渡邊豐治
全　澤田欣作
全　中島富次郎
全　伏見きよ
全　和充美
全　江川德五郎
全　松井國平
全　植田瑞穗

## 駒越尋常高等小學校
（電話九八七番）

訓兼校長　奏任待遇　川口彌助
訓導　城所武平
全　瀧浪良太郎
全　五十棲秀雄
全　柴田逸郎
全　西村ちさ江
全　大東清一
全　原田武雄
全　鈴木武雄
全　芝田芳雄
全　小林政一
全　增田ゆう
全　池田哲太郎
全　服部くに
全　石井茂
全　柴川敏子
全　鈴木君子



## 不二見尋常高等小學校
（電話五九番）

訓兼校長　森寛平
訓導　江馬巖三
全　鶯巢輝
全　澤田平
全　飯田こと
全　梅原柳三

## 三保尋常高等小學校
（電話三保二番）

訓兼校長　鈴木雅一郎
訓導　原田環
仝　河野庄一
仝　齋藤廣
仝　西村榮一郎
仝　永長キク
仝　遠藤安藏
仝　栗田正雄
仝　岩崎久作
仝　土屋吉秋
仝　宮城島うめ
仝　平野吉藏
仝　山城理一
仝　青山ゑん
仝　縣榮一
仝　竹内逸平
寺島猛
仝　水野ふじ子
仝　内山妍枝
仝　關隆志
仝　遠藤ひさよ
仝　倉田藤三郎
仝　日吉登美子

### 幼稚園

**市立江尻幼稚園**
園長　河合くに
保姆　中川佐惠子
仝　高田千鶴子
代用　飯島淺
仝　針谷ふさ
園長　梅原やえ
保姆　石川二三
仝　山内光子

**市立清水幼稚園**
園長　山田よし
保姆　山田芳江
仝　山田よし

**市立三保幼稚園**
園長　田村つる
保姆　野口セツ

**私立辻幼稚園**
園長　朝比奈たき
保姆　近藤美壽惠
仝　青木梅子

**私立旭幼稚園**
園長　田口初吉
保姆　山田芳江
仝　山田よし

**私立島崎幼稚園**
園長　渡邊孝英
保姆　渡邊靜江



仝　小林よし
仝　神戸よし

**私立清美幼稚園**
園長　吉田やつへ
保姆　山田清枝
仝　山下幸英
仝　大瀧好子
園長　增田溪子
保姆　杉山たけ子
仝　望月ふみ江

**私立入江幼稚園**
園長　加藤常吉
保姆　安藤秀子
仝　河原秀子

**私立清和幼稚園**

## 青年團・處女會・學校少年團

| | 分團數・會數 | 團員數・會員數 | 經費 |
|---|---|---|---|
| 清水市青年團 | 七 | 二、四五四人 | 三、〇二五圓 |
| 清水市處女會 | 八 | 六七六人 | 一、二八一圓 |
| 學校少年團 | 八 | 四、五〇〇人 | 〃三七〇圓 |

### 清水市青年團役員

總裁　大石惠直
副總裁　渡邊矢三郎
團長　金子勇次
副團長　奥村幸七
仝　遠藤與八
商工部長　岡田博之

農業部長　青木久彌
學藝部長　木島秀吉
運動部長　川崎愛太郎
會計　青木茂
常任幹事　杉山不二男
書記　山本精二
仝　花島六郎
本町分團長　藤浪一郎
島崎分團長　深澤照之
江尻分團長　川崎愛太郎
入江分團長　三木茂
清水分團長　西貝正
不二見分團長　岩田康
三保分團長　藤田清

清水市處女會役員

會長　西村恒雄
副會長　渡邊矢三郎
仝　廣野友七

辻會長　長阪うめ
江尻會長　山梨イキ
清水會長　鈴木まさ
入江會長　岡田晴
岡欠
不二見會長　瀧戸すみ
駒越會長　柴田さく
三保會長　鈴木雅一郎

清水市聯合少年團

團長　大石惠直
副團長　山本正治
常任幹事　渡邊矢三郎
清水市少年團長　成島貫一
海洋少年團長　窪田元助
清水市學校少年團
團長　渡邊矢三郎
副團長　驅

分團長、各小學校長

清水市教育會役員

統理　大石惠直
會長　鈴木與平
副會長　渡邊矢三郎
仝　北川藤吉
幹事　山本近次郎
仝　岡田忠雄
仝　夏目三雄
仝　關鼎
仝　川口彌助
仝　森稟平
仝　西村恒雄
仝　高島嘉勝
仝　鈴木雅一郎
仝　北川藤吉
仝　三須完一郎



## 市立圖書館

清水市立圖書館は藏書五、九〇七冊を有する外新聞、雜誌も多種類備へて居り閲覽者は逐年增加して居る。即ち昭和八年度の閲覽總人員二万九千余人だつたものが昭和九年度には三万五千人を突破する勢ひを示して居るが此の好成績の一面には當局者の利用者增加を計る種々なる努力が拂われて居るもので、日曜日の午前中は同所で童話會を催す等も夫れである。昭和九年の入館者は左の如し

| 開館日數 | 男 | 女 | 小學生 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 二八六 | 二〇、五五六 | 三、八〇八 | 一〇、六四三 | 三五、〇〇七 |

## 青年學校

昭和十年三月三十日に發せられたる青年學校令に基き四月一日より全國一齊に從來の青年訓練所の範圍を擴大して青年學校となつた。清水市に於ては清水、江尻、不二見、駒越、三保の各青年訓練所を廢止して實習學校に合併し、これを青年學校と改稱、辻、入江の青訓は青年學校と改稱、同年九月末日の市會の決議に依り追加豫算を計上して十月一日より本格的青年學校の誕生を見たが、施行當年とて內容にはまだ充分なるもの無く、經費の關係をも考慮して三ケ年計劃で充實せしめる筈である。即ち青年學校三年以上は執銃教練を以て本体と爲すもので此の生徒數に該當するだけの銃を設備するの要あるも現在三年以上生徒七四二人に對し所有數は三七八に止まり不足數は三六四を示して居るのでこれ等を三ケ年計劃で設備せんとするものであるが、昭和十一年度には從來青年團も、青訓も設置

されて居なかつた岡小學校へ岡青年學校を設置せしめんと計劃を建てゝ居る外現在一名の專任指導員を四名に增加し又各校の實情に則して專科教員の增員を計る等青年學校令の趣旨に徹底せる組織を完備せしめる事になつて居る。

## 各青年學校別生徒數調

（昭和十年十月一日）

| | 普通科 | 本科 | | | | 研究科 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 一年 | 二年 | 三年 | 四年 | 五年 | | |
| 辻 | 五 | 二二 | 一六 | 二八 | 二四 | 二一 | 一五 | 一三一 |
| 江尻 | 一 | 六六 | 二二 | 四二 | 二七 | 二三 | 一九 | 二一一 |
| 入江 | | 二九 | 二七 | 二六 | 一六 | 二六 | 一九 | 一四三 |
| 清水 | | 八五 | 五五 | 四八 | 四八 | 三一 | 二一 | 二八八 |
| 不見 | 二 | 三二 | 四六 | 四六 | 五〇 | 二六 | 三三 | 二三五 |
| 駒越 | | 二一 | 一一 | 一七 | 一四 | 一五 | 二二 | 九〇 |
| 三保 | 一 | 二六 | 二八 | 三二 | 三一 | 二三 | 九 | 一五〇 |
| 計 | 一八 | 二八三 | 二〇五 | 二三九 | 二一〇 | 一六五 | 一二八 | 一、二四八 |



## 青訓、實修、青年學校生徒比較表

| | 青訓 | 實修 | 合計實數 | 青年學校 | 增△減 |
|---|---|---|---|---|---|
| 辻 | 八八 | 〇 | 八八 | 一三一 | 四三 |
| 江尻 | 一〇六 | 一一八 | 二〇六 | 二一一 | 五 |
| 入江 | 九一 | 〇 | 九一 | 一四三 | 五二 |
| 清水 | 一三五 | 一〇三 | 二三四 | 二八八 | 五四 |
| 不見 | 一五四 | 八三 | 二三五 | 二三五 | 一 |
| 駒越 | 五七 | 三五 | 九〇 | 一五〇 | △一 |
| 三保 | 九四 | 四七 | 一二四 | 一二四 | 二六 |
| 計 | 七二五 | 三八六 | 一、〇六八 | 一、二四八 | 一八〇 |

## 青年學校各學年教授日訓練時數調査

| | 普通科 | | 本科 | | | | 研究科 | 專修科 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一年 | 二年 | 一年 | 二年 | 三年 | 四年 | 五年 | |
| 辻 | 二三〇時 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三六 | 二三六 | 一九六 |
| 江尻 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三五 | 二三五 | 二三五 |
| 入江 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三六 | 二三六 | |
| 清水 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三〇 | 二三五 | 二三五 | 二三五以上 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 不二見 | 三六〇 | 三六〇 | 三六〇 | 三六〇 | 二三五 | 二三五 | 二三五 | 一九五 | 八〇 |
| 駒越 | 三六〇 | 三六〇 | 三六〇 | 三六〇 | 二三五 | 二三五 | 二三五 | 一九五 | 八〇 |
| 三保 | 三六〇 | 三六〇 | 三六〇 | 三六〇 | 二三五 | 二三五 | 二三五 | 一九五 | 八〇 |

## 青年學校教員・指導員

### 辻青年學校

學科　山本近次郎
仝　飯田昇
仝　池谷武夫
教練　藤浪一郎
仝　榊原豐作
仝　松永安太郎
仝　田雛猪代次
仝　石切山武治

### 江尻青年學校

學科　三須完一郎
仝　荒井辰雄
仝　五味健兒
仝　八木理次
仝　横山鐵男
仝　川田利雄
仝　三澤定雄
仝　林東樹
教練　寺田一男
仝　深澤清吉
仝　磯田作次郎
仝　山田源作
仝　伊澤利夫
仝　淺野國利

### 入江青年學校

學科　岡田忠雄
仝　酒井幸平
仝　船津好
教練　大坪鐵三郎
仝　白井喜作
仝　山田三朗
仝　小澤源作
仝　府川勇次
仝　市川鐵夫

### 清水青年學校



學科　關鼎
仝　大村武雄
仝　渡邊豐治
仝　泉喬一
仝　植田瑞穂
仝　澤田欣作
教練　櫻田隆
仝　赤澤武雄
仝　田中篤
仝　山田榮作
仝　堀保太郎
仝　青島光一
仝　森政雄

### 不二見青年學校

學科　森稟平
仝　池鯉造
仝　水野信
仝　小宮崎董知
仝　澤田平
仝　池田喜作
教練　杉村喬一郎
仝　大村亮策
仝　井柳留次
仝　小杉清一郎
仝　大瀧貞之助
仝　岩崎一平
仝　光崎春太郎

### 駒越青年學校

學科　川口彌助
仝　城所武平
仝　柴田逸郎
仝　瀧浪良太郎
仝　鈴木武雄
教練　岩品久作
仝　川島周太郎
仝　立花梅雄
仝　望月一郎
仝　齋藤權太郎

### 三保青年學校

學科　鈴木雅一郎
仝　河野庄一
仝　遠藤賢
仝　齋藤廣
仝　笹田三郎
仝　原田環
教練　窪田伍祐
仝　中野新作
仝　長澤源吉
仝　宮城島幸太郎
仝　岸山一雄

# 社寺

## 通觀

清水市には縣社一、鄕社一、村社二十一、無格社十四、合計三十七社あり。神職は六名である。本市は深く敬神に意を用ひ、昭和十年度より公費供進の途を開いた外市役所樓上に於ては毎月一日十五日、月次祭と仝時に國運伸暢並出征軍人武運長久祈願祭を行ひ又敬神思想普及の爲市及氏子總代會に於ては講演會、神社視察等をも行ひ、本年四月には縣の囑託を受け劍持書記は關西の神社視察に出張する等神崇祀、即日本精神の振張に努めつゝあるが、試みに本市神社の諸点に付き他社と比較して見るならば、先づ神社經費に於て全國の一社平均六二一圓に對し本縣は五〇五圓、本市は八三二圓を示し、全國の總社數に對する神饌幣帛料供進指定神社數の歩合は四割九分に對し本縣は四割四分、本市は六割の多くに達し、又府縣社以下の神社基本財産の一社平均は全國で二、四七七圓に對し本縣は一、八二七圓の低額であるが本市は二、三一五圓となつて居る。

寺院は合計三十九ケ寺中臨濟宗に屬するもの十八ケ寺、日蓮宗十三ケ寺、淨土宗四ケ寺、眞言曹洞宗四ケ寺の分野を示して居る。又教會は二十二あつて其の内天理教九、金光教二、キリスト教七、大師教二、其他眞言宗醍醐派、御嶽教、曹洞宗、神道扶桑教各一あり、信者は天理教が最多數で三、六五八人、金光教一、七四四人、キリスト教三〇〇人、神道扶桑教(ひとのみち)七三一人、其の他を合



して七、一五一人に達して居る。此の外に佛堂は十六堂數へらる。

## 各神社祭神由緒、例祭日

縣社　御穗神社(三保)

祭神　大己貴命　御穗津姫命

由緒　延喜式内の古社にして朝廷から屢々位階を賜はり、又歴代武家の尊崇も厚く神領を寄進せられたと云ふことである。明治の御宇縣社に列せられた。日本武尊御東征の砌勅を奉して幣物を供せられたと傳えがある。

寶物　鈴木三郎重家糸卷の大刀は國寶の指定を受け、又羽衣の切端を藏してゐる。

例祭日　十一月一日

鄕社　八幡宮(江尻)

祭神　譽田別命　大鶴鶏命　武内宿彌

由緒　嵯峨天皇弘仁二年の創建と傳え、小芝城修築の後は三の丸廓内となつたから城の鎭守と崇められ、武田氏の特別保護を受けたと傳えられる。

寶物　白蓬萊鏡及廣前の額を藏してゐる。小芝城趾碑　元本丸の遺跡にあつたものを當社境内に移せるものである。

例祭日　十月九日

村社　美濃輪稲荷神社(清水)

祭神　宇迦之御魂命　大宮姫命　太田命

由緒　寶永年間に松平甲斐守が米廩鎭守の爲勸請したのであつた舊向島五本松に在つたのを享保五年現在の地に移したものである。

例祭日　三月十五日

村社　矢倉神社(辻)

祭神　大足彦命　日本武尊

相殿　神武天皇　八重事主命　姪兒命

由緒　日本武尊御東征の際の遺跡であつて、その威靈を祀つてある式外の古社で、社傳によれば仲哀天皇の御宇に奉祀したと傳えられる。

社號の起源は兵庫(箭倉)を置かれたからと云はれてゐる。天正十八年豊臣秀吉が兵を小田原に進めし時當社に參拜して大刀及玉石を獻したとの事である。

例祭日　十月十七日

村社　八雲神社(清水)

祭神　素盞嗚命

由緒　寶歴元年三月の勸請にて文久三年六月此處に社殿を新築遷座す。元天王社と稱せしも明治四年今の社號に改む。

例祭日　八月二日

村社　八幡神社(上清水)

祭神　譽田別命　配祀素嵩嗚命

由緒　堀河天皇の御宇寛治元年十二月源義家の勸請する所と傳ふ。後代寛文十二年十一月清水船手奉行細井佐次右衛門社殿を再建額面を寄進せり。

例祭日　十月十六日

村社　八幡神社(下清水)

祭神　譽田別命

由緒　文治年間の勸請と云ふ。現在の境内社船玉神社は天智天皇の御宇の創健と傳へ、民部省圖帳に住吉神社と見ゆる是なりと。寶物の鎧は室町幕府時代のものと鑑定せらる。

例日祭　十月十七日

村社　村松神社(村松)

祭神　譽田別命　手力雄命

由緒　古くは直日神社或は中野明神と稱し、雄略天皇の御宇奉幣ありしと古典に見ゆる舊社なり。

CAN G MARK
陸軍糧秣本廠指定工場
羽衣印罐詰製造元
内外向各種
TUNA
MANDARIN ORANGE

茶に
専賣特許
みづほ化成肥料
化成肥料は窒素、燐酸、加里の三要素を合理的に結合したるものなれば吸收容易にして肥切れを防ぎ茶樹は繁茂して之を精製したる茶は在來の肥料を使用したるものより目方多く増收疑なき理想的茶肥料なり
大日本人造肥料株式會社



大正四年八幡神社を合併して現社號に改む。

例祭日　十月十七日

村社　白髭神社（入江）

祭神　武内宿禰命　建御名方命
配祀、阿久突智命　奥津比古命　奥津比賣命　彌都波能賣命　金山比古命

由緒　創建年月は詳かならざるも建長七年の棟札を存せり。入江家武田家の尊崇厚かりし神社なり。入江家皆左三巴を家紋とすること古書に見ゆ、之當社の紋所なり。

例祭日　十月十七日

無格社　稲荷神社（入江）

祭神　宇氣母智命
配祝、恩兼命　崇德天皇　大己貴命

由緒　入江家及德川家に於て文殊堂として尊崇厚かりしと傳え、明治の始め神佛の混交を禁せられ以來今の社號に改めり。

例祭日　十月十七日

無格社　淡島神社（入江）

祭神　少彦名命　大國主命

由緒　慶長時代御船手奉行屋敷をこの地に移したる當時虚空藏堂として累代奉行の尊崇厚かりしと傳え、明治の始め神佛の混交を禁せられしより今の社號に改む。

例祭日　十月十七日

無格社　若宮八幡神社（入江）

祭神　譽田別命
配祀、宇氣母智命

由緒　德川時代御船藏屋敷（今の濱田）に移したる當時稲荷社として奉行の尊崇厚かりし社なりと傳ふ。明治時代濱田よりこの地に移せり。

例祭日　四月三日

村社　八坂神社（南矢部）

祭神　素盞嗚命　應神天皇
由緒　寛文七年二月創建と傳え、明治元年今の社號に改む。鎌倉以來八幡神社と共に矢部家の尊崇厚かりしとのことなり。
例祭日　七月十四日

村社　八幡神社（宮加三居屋敷）
祭神　譽田別命
由緒　創建年月詳かならざるも寛政二年再建すと傳え、鎌倉時代より三澤家の尊崇厚かりしとのことなり。
例祭日　十月十七日

村社　八幡神社（宮加三南屋敷ノ坪）
祭神　譽田別命
由緒　創建年月は詳かならざるも天和二年再建すと傳え、鎌倉時代に加茂家の尊崇厚かりしとのことなり。
例祭日　十月十七日

村社　水神社（江尻）
祭神　彌都波能賣命
由緒　創建年月は詳かならざるも嘉永二年再建すと傳えられる。
例祭日　六月十五日

村社　稲荷神社（江尻）
祭神　蒼稲魂命
由緒　創建年月不詳なれども永錄十二年武田家江尻城を修築し、穴山梅雪衛戍の時鎭守の神と崇敬せしと傳ふ。
例祭日　八月一日

村社　伊勢神明宮（船越）
祭神　天照皇大神　佐田比古命
由緒　創建年月不詳なれど寶暦二年九月再建せりと傳ふ。
例祭日　十月十六日

村社　駒越神社（駒越）
祭神　素盞嗚命　宇迦能御魂命　應神天皇



菅原道眞
由緒　明治四十二年當宇鎭座の五社を合せて駒越神社と改稱せり、雄略天皇の御宇奉幣ありしと傳え、惣國風土記に止由氣神社とあり。
例祭日　十月十七日

村社　神明宮（北矢部）
祭神　天照皇大神
由緒　古老の口碑に昔背後の山を神殿になせしと、即ち上代神籬磐境の遺制に倣えるものか。
例祭日　十月十七日

無格社　熊野十二神社（村松）
祭神　譽田別命外十一坐
由緒　創建は康平五年大歳壬寅正月勤請と鎭守懸札にあり。裏書には宰相入道御筆なりとあり。從來久能寺の地内にありしを維新後神佛の區域を分てり。
例祭日　十月十七日

無格社　稲荷神社（卜清水）
祭神　天字受賣命　外四柱の神を祭る
由緒　允恭天皇の御宇の創建なりと傳え、古來月見里神社と云ひ中世より現在の如く稱ふ。元和元年三月修造の棟札を存せり。保元年間源爲朝祈誓せしと傳え爲朝の納めしと云ふ石印、笠、空海の納めし辨財天の像鎌倉時代の古鏡其他を保存す。
例祭日　六月十五日

村社　荒神社（江尻）
祭神　奥津彦命　奥津姫命
由緒　創立年月詳かならざれども元錄十三年再建すと傳ふ。
例祭日　五月二十八日

村社　稲荷神社（村松）
祭神　稚倉玉神　伊弉冊尊

由緒　創建年月詳かならざれども日蓮宗海長寺の古文書に徴するに御宇多天皇の御宇以前の創建なりと傳ふ。

例祭日　三月十五日

村社　神明社（增）

祭神　天照皇大神　遠田彦命

由緒　創建年月詳かならざれども明治二年再建の棟札を存せり。

例祭日　十月十七日

村社　白髭神社（蛇塚）

祭神　武内宿禰

由緒　天錄年間之を鎭祭せるも文化二年火災により古書類を烏有に歸せり。

例祭日　十月十七日

村社　瀨織戸神社（折戸）

祭神　瀨織津姫命

由緒　惣國風土記に神護景雲元年所祭とあり。明治十二年八月村社に列す。

例祭日　一月六日

村社　春日神社（追分）

祭神　天兒屋根命　武甕槌命　輕津主命　比賣大神

由緒　創建年月詳かならざれども當所は中古入江維淸居住以來子孫聯綿の地なれば其祖神を勸請せしならん。

例祭日　十月十七日

無格社　佐久神社（三保）

祭神　遠田彦命

由緒　創建年月詳かならず。

例祭日　六月十五日

無格社　羽車神社（三保）

祭神　大己貴命　三穗津姫命

由緒　惣國風土記に大己貴命羽車に乘御し來りて此處に憩ひし遺跡なりとあり。

例祭日　六月十五日



無格社　水神社（淸水）

祭神　彌都波酒賣命

由緒　寛永年間の創建なりと傳ふ。

例祭日　六月十五日

無格社　西宮神社（淸水）

祭神　事代主命

由緒　寛保二年十一月新殿遷座の上棟文中に往昔西宮より此地に勸請すとあり、其年代詳かならず。

例祭日　十一十九日

無格社　松ケ崎稻荷神社（淸水）

祭神　宇迦之御魂命　大宮姫命　太田命

由緒　寛延元年の創建にして天明六年現今の地に移す。境内に加茂眞淵の撰文の碑あり

例祭日　三月十五日

無格社　上總稻荷神社（淸水）

祭神　宇迦之御魂命　大宮姫命　太田命

由緒　天保八年の創建なりと傳ふ。

例祭日　五月十五日

無格社　加茂神社（駒越）

祭神　加茂別雷命

由緒　七郡神名帳に加茂地祇と見えたる是なり。王朝時代には國の奉幣に預りしと傳ふ。

例祭日　十月十六日

# 寺院一覽

| 山號 | 寺院名 | 所在地 | 宗派 | 住職氏名 |
|---|---|---|---|---|
| 忠高山 | 實相寺 | 清水市清水 | 淨土宗鎭西派 | 中村辨康 |
| 恒河山 | 妙生寺 | 〃 | 眞宗本願寺派 | 清水眞乘 |
| 堀澤山 | 專念寺 | 〃 | 眞宗大谷派 | 曾我賢量 |
| 圓敎山 | 妙慶寺 | 〃 | 日蓮宗 | 玉谷日晉 |
| 清水山 | 成就院 | 〃 | 臨濟宗妙心寺派 | 塚本廉慶 |
| 明王山 | 延壽院 | 入江 | 眞言宗醍醐派 | 天野實榮 |
| 紫雲山 | 法岸寺 | 〃 | 淨土宗鎭西派 | 鵜飼義孝 |
| 瑞陽山 | 東泉寺 | 〃 | 臨濟妙宗心寺派 | 長谷川久雄 |
| 長江山 | 寶久寺 | 〃 | 〃 | 平岩觀宗 |
| 金龍山 | 東明院 | 〃 | 〃 | 高田仁嶽 |
| 樹林山 | 慈雲寺 | 〃 | 眞宗大谷派 | 水谷東演 |
| 入澤山 | 明通寺 | 〃 | 臨濟宗妙心寺派 | 池田清 |
| 大小山 | 慶雲寺 | 〃 | 淨土宗鎭西派 | 木下雲山 |
| 九品山 | 福嚴寺 | 下清水 | 臨濟宗妙心寺派 | 友松覺眞 |
| 祝融山 | 光明寺 | 〃 | 〃 | 木下雲山 |



| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 幽香山 | 梅薮寺 | 〃 | 〃 | 田口宜雄 |
| 普門山 | 玉泉寺 | 船越 | 曹洞宗總持寺派 | 有田道緣 |
| 見海山 | 能滿寺 | 南矢部 | 日蓮宗 | 渡邊湛榮 |
| 雲門山 | 新定院 | 北矢部 | 臨濟宗妙心寺派 | 鵜飼禪超 |
| 幡桃山 | 東海寺 | 〃 | 〃 | 井上全勝 |
| 龍水山 | 海長寺 | 村松 | 日蓮宗 | 久保田桂秀 |
| 觀富山 | 龍華寺 | 〃 | 〃 | 井出觀容 |
| 東光山 | 本能寺 | 村松 | 〃 | 本間英存 |
| 遠岡山 | 本妙寺 | 〃 | 日蓮宗 | 小倉貫運 |
| 久光山 | 壽昌寺 | 宮加三 | 臨濟宗妙心寺派 | 渡邊智俊 |
| 陽澤山 | 東向寺 | 〃 | 〃 | 遠藤法龍 |
| 駒越山 | 京寶院 | 駒越 | 眞言宗醍醐派 | 野々村慧雲 |
| 富春山 | 萬象寺 | 〃 | 臨濟宗妙心寺派 | 若色東育 |
| 增井山 | 龍源寺 | 增 | 曹洞宗 | 今井說禪 |
| 補陀洛山 | 鐵舟寺 | 村松 | 臨濟宗妙心寺派 | 伊藤臺巖 |
| 養保山 | 妙福寺 | 三保 | 日蓮宗 | 鈴木文厚 |
| 白華山 | 福叢寺 | 上清水 | 臨濟宗妙心寺派 | 木下雲山 |
| 廣長山 | 妙盛寺 | 辻島崎 | 日蓮宗 | 渡邊孝英 |
| 海光山 | 淨春寺 | 江尻 | 〃 | 中村見修 |

# 教會所一覽

| 教會所名稱 | 教派 | 所在地 | 擔任教師 |
|---|---|---|---|
| 吸江山法雲寺本要寺 | 臨濟宗妙心寺派 | 清水市入江 | 大塚實 |
| 市中山江淨寺 | 淨土宗鎮西派 | 富士見町 | 大塚信次 |
| 華生山妙蓮寺 | 日蓮宗一致派 | 江尻 | 瀧賢太郎 |
| 本應山妙泉寺 | 日蓮宗久遠寺派 | 仝 | 澤村利兵衛 |
| 示迹山 | 日蓮宗 | 江尻 | 青木祐爾 |
| 名京大教會靜岡分教會庵原支教會 | 天理教 | 三保 | 植松市作 |
| 仝 清水港宣教所 | 仝 | 入江 | 柴信次 |
| 甲賀大教會岐美分教會北野支教會 | 仝 | 入江 | 野上ムツ |
| 水口大教會嶽東分教會 | 仝 | 入江 | 駒越岸山義篤 |
| 山名大教會富士分教會 | 仝 | 江尻 | 押尾才作 |
| 名京大教會靜岡分教會庵原支教會 | 仝 | 清水 | 岩崎善藏 |
| 河原町大教會越之國分教會本島支教會中駿宣教所 | 仝 | 上清水 | 松本良松 |
| 本大教會谿鄕分教會不二見宣教所 | 仝 | 仝 | 杉浦秀慶 |
| 金光教會所 | 金光教 | 江尻 | 杉山勇次郎 |
| 金光教本清水小教會所 | 仝 | 辻 | 若杉養隆 |
| 高野山大師教會清水支部 | 大師教 | 上清水 | 生田豪宗 |
| 高野山大師教會江尻支部 | 仝 | 入江岡 | 秋山好明 |
| 眞言宗醍醐教會分教會 | 眞言宗醍醐派 | 辻 | 貝沼捷二 |
| 御嶽教神誠教會 | 御嶽教 | 上清水 | 矢內哲一 |
| 曹洞宗法持寺說教所 | 曹洞宗 | 清水 | 加藤常吉 |
| ひとのみち教團清水支部 | 神道扶桑教 | 江尻 | 齋藤ため |
| 清水美普教會 | キリスト教 | 入江 | 清水文雄 |
| 日本メソヂスト清水教會 | 仝 | 下清水 | セーラーシヤバート |
| 清水福音教會 | 仝 | 江尻 | アンドリユース |
| 救世軍清水小隊 | 仝 | 清水 | ル・ドラ |
| 日本聖公會聖雅分教會 | 仝 | | |
| 清水基督教會 | 仝 | | |
| 天主公教會 | 仝 | | |

# 兵事

通觀

**神職會清水市支部**

支部長　長澤雄楯
副支部長　長島茂顕
全　野々山慧雲
全　今井說禪
書記　劍持敏郎
評議員　淨見泰嶽
全　遠藤法龍
全　鵜飼義孝

**佛教會清水市支部**

支部長　大石惠直
副支部長　玉谷日晉
常任理事　渡邊矢三郎
理事　柴本禮三
全　笠井義孝
全　今井說禪
全　玉谷日晉
全　清水眞乘
全　鵜飼義孝
全　遠藤法龍
全　渡邊孝英
全　池山清

**氏子總代會清水市支部**

支部長　大石惠直
副支部長　佐藤繁一
全　堀辰吉
幹事長　渡邊矢三郎
幹事　劍持敏郎
全　堀内寅平



本市に於ける昭和九年度の陸軍演習召集及同教育召集は各兵種を通じて三十一回に亘り人員は九十三名であつた。

陸軍簡閲点呼は八月一日より四日間清水商業學校に於て阿部中佐に依つて執行され其の成績は

| 令達人員 | 參會人 | 不參人員 | | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 疾病 | 無届 | 事故 | | |
| 七一六 | 七〇一 | 五 | 三 | 七 | | 一五 |

以上の如くであつたが、海軍簡閲点呼は五月二十一日本港に於て軍艦比叡艦長井上大佐に依つて執行され令達人員三十一人皆參會で頗る好成績だつた。

徵兵檢査は五月十三日より同十八日迄清商で執行され其の結果

| | 壯丁者 | 二十才以上 | 志願者 | 入寄留者 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 甲種 | 一七二 | 九 | 一二 | 二八 | 二二一 |
| 第一乙種 | 三一 | 二 | 二 | 一一 | 四六 |
| 第二乙種 | 三八 | 四 | 一 | 一二 | 五四 |
| 丙種 | 一三二 | 八 | 一 | 一二 | 一五三 |
| 丁種 | 一四 | 一 | 一 | 三 | 一七 |
| 計 | 三八七 | 二三 | 一五 | 六六 | 四九一 |

以上甲種合格二二一名となり、海軍志願兵は十七名中合格二、學力不合格六、体格不合格九の割合である。而して現役兵入營人員は歩兵三十四聯隊留字隊の八〇名を始め一七七名だつた。これら現役

兵に對しては奬兵會、在鄕軍人會、青年團等が各部隊毎に慰問した外、毎月十日を在滿兵家族慰問日として各種團体が慰問品を贈り、武運長久祈願祭、勇士の招魂祭、各種の記念行事等大いに銃後の活動に努めて居る。

| 軍人（昭和十年調） | | 現役 | 豫備 | 後備 | 補充 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 陸軍 | 一六四 | 四三五 | 七六四 | 一、四三一 |
| | 海軍 | 四八 | 二六 | 一九 | — |

| 在鄕軍人會 | 聯合分會 | 分會會員數 | 經費豫算 |
|---|---|---|---|
| | 一 | 六 | 二、九九五 |
| | | | 三、一四三円 |

## 帝國在鄕軍人清水市聯合分會

顧問 鈴木興平
會長 山本量干
副會長 望月利雄
〃 大瀧亮一郎
〃 宮城島孝
理事 堀内寅平
〃 杉本董
〃 藤浪一郎
監事 鍋田邦次
〃 青木清一

### 辻分會

分會長 竹内理吉
副長 青木清一
〃 池谷源一
〃 渡邊久吉

### 江尻分會

分會長 寺田一男
副長 西村貞作
〃 加藤幸三郎
〃 平岡愛司



### 入江分會

分會長 大坪鐵三郎
副長 小長井幸七
〃 白井喜作
〃 藤浪岩吉
副長 窪田悟祐
〃 長澤源吉
〃 柴田廣

### 清水分會

分會長 片山勇吉
副長 田中藤作
〃 足立忠作
〃 山田圖機
〃 山田留次郎
顧問 田中增藏
〃 窪田元助
〃 富永熊次郎
〃 綿引光一
〃 櫻井源作
〃 仲時德彌
〃 杉山憲道
〃 村岡源次郎
〃 村田達平
〃 若杉啓一
〃 木下杉松
〃 若林今朝一
〃 遠藤茂助

### 海軍部

部長 欠員
副部長 古川藤四郎
〃 石神福次
理事 川口勝太郎
〃 川崎芳太郎
監事 金子憲
〃 平岡光男
評議員 辻金之助
〃 影山七郎壽
〃 長谷川甚三
〃 美尾量一
〃 鈴木文厚
〃 櫻田榮太郎
〃 杉本惣作
〃 山本岩造

### 不二見分會

分會長 岩品久作
副長 岩崎敏郎
〃 杉村喬一郎

### 三保分會

## 國防協會清水市支部

聯合支部長 大石惠直
副支部長 山本量平

| | | | |
|---|---|---|---|
| 仝 | 佐藤繁一 | 副委員長 | 佐藤繁一 |
| 常務理事 | 渡邊矢三郎 | 仝 | 山本量平 |
| 理事 | 鈴木與平 | 仝 | 坂上政次郎 |
| 仝 | 原台吉 | 常務委員 | 渡邊矢三郎 |
| 仝 | 杉本敬一 | 委員 | 櫻井源作 |
| 仝 | 望月利雄 | 仝 | 木野大吉 |
| 仝 | 大瀧亮一郎 | 仝 | 村岡源次郎 |
| 仝 | 宮城島孝 | 仝 | 菅原國夫 |
| 仝 | 竹內理吉 | 仝 | 竹內理吉 |
| 仝 | 寺田一男 | 仝 | 寺田一男 |
| 仝 | 大坪鐵三郎 | 仝 | 大坪鐵三郎 |
| 仝 | 片山勇吉 | 仝 | 片山勇吉 |
| 仝 | 岩品久作 | 仝 | 岩品久作 |
| 仝 | 藤浪岩吉 | 仝 | 藤浪岩吉 |

### 海軍協會 清水市委員部

| | | | |
|---|---|---|---|
| 顧問 | 鈴木與平 | 仝 | 影山七郎壽 |
| 委員長 | 大石惠直 | 仝 | 石神福次 |
| 仝 | 向島茂作 | 仝 | 鈴木文厚 |
| 仝 | 古川藤四郎 | 仝 | 川崎芳太郎 |
| 仝 | 新井五三郎 | 仝 | 長谷川甚三 |

### 清水市奬兵會

| | | | |
|---|---|---|---|
| 會長 | 大石惠直 | 仝 | 杉本董 |
| 副會長 | 佐藤繁一 | 仝 | 川尻甚太郎 |
| 仝 | 山本量平 | | |
| 仝 | 寺田一男 | | |
| 幹事 | 渡邊矢三郎 | | |
| 仝 | 堀內寅平 | | |
| 仝 | 永長由太郎 | | |
| 仝 | 鈴木先太郎 | | |
| 仝 | 劒持敏郎 | | |



# 社會

## 通觀

清水市には方面委員、社會事業協會、公益質舗、職業紹介所、市立診療所等が設置されて居る外私設のものに教化會、憐保館、自助館、母子ホーム、托兒所、醫師會診療所等各種の社會事業施設が完備して居る。昭和九年度の諸取扱ひ件數を見るに、方面委員は生活扶助三〇三件、保健救療七九八件兒童保護四一件、相談指導二四一件、戸籍整理四件、職業其他の紹介五〇三件、教化五二件、其他四一四件、合計二、三六五件に又び、恩賜財團濟生會救療取扱は實人員五八〇人、延日數八、四七三日、金額二、八一二圓一六錢となり、軍事救護に於ては現役兵現金救護一五、傷痍軍人二、計十七件、精神病者は靜岡腦病院へ收容中のもの三件、其の他一件、行路病人二件、死亡人五件等の取扱ひを行つた。又教化運動としては精神作興週間の實施、建國祭、生活改善、中堅勞務者講座、義捐事業、防護團の組織等、常時、非常時に備へて遺憾無きを期して居る。

### 救護法に依る救護

| 負担別 | 世帶數 | 實人員 | 延人員 | 金額 |
|---|---|---|---|---|
| 生活扶助 縣 | 二 | 二 | 一六三 | 三二圓六〇 |
| 生活扶助 市 | 七二 | 一九〇 | 三三、七八六 | 三、六七一圓四二 |
| 生活扶助 計 | 七四 | 一九二 | 三三、九四九 | 三、七〇四圓〇二 |

| | 合計 | | | 埋葬 | | | 助産 | | | 醫療 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 縣 | 市 | 計 | 縣 | 市 | 計 | 縣 | 市 | 計 | 縣 | 市 | 計 |
| 社會事業ノ研究並ニ調査 | 三 | 一六九 | 一七二 | — | 一一 | 一一 | — | 一一 | 一一 | 一 | 八五 | 八六 |
| 社會事業ニ關スル講演講習會 | 三 | 三〇七 | 三一〇 | — | 一一 | 一一 | — | 一一 | 一一 | 一 | 一〇五 | 一〇六 |
| 年一回本會事業報告ヲ兼ネ協會報ヲ發行 | 二一九 | 三七、九九一 | 三八、二一〇 | — | — | — | — | — | — | 五六 | 四、二〇五 | 四、二六一 |
| 特殊兒童及虚弱幼兒ノ保護 | 七七圓四〇 | 四、六二〇圓二六 | 四、六九七圓六六 | 六八圓一六 | 六八圓一六 | — | 四圓〇〇 | 四圓〇〇 | — | 四四圓八〇 | 八七六圓六八 | 九二一圓四八 |

## 清水市社會事業協會

本會は方面事業の助成機關として昭和四年十二月に創設され、以來市内社會事業團体と連絡して事業の達成を期し特に從來の一時的救助を目的としたる慈善事業の領域を進めて汎く社會的疾患に對する診斷と治療と豫防とを二大眼目として進み昭和九年度は縣市より二百六十五圓の補助を仰ぎ會費と



共に別表の如き事業を行つた。

## 昭和九年度事業成績

| | 金額 | 摘要 |
|---|---|---|
| 講演講習費 | 一五〇〇 | 社會事業に關スル講演講習會 |
| 會報 | 六〇〇〇 | 年一回本會事業報告ヲ兼ネ協會報ヲ發行 |
| 兒童保護 | 一三〇〇 | 特殊兒童及虚弱幼兒ノ保護 |
| 生業資金貸付 | 五五〇〇 | 窮民ニ對シ無利子デ小額資金ヲ貸與シ生業ヲ助成ス |
| 研究調査 | 三八五 | 社會事業ノ研究並ニ調査 |
| 救療 | 二一六六五 | 窮民ニ對スル救療 |
| 救護 | 五七九八六 | 要同情者ノ生活救護ヲナシ防貧的救護ヲナス<br>年末ニ於ケル仲併ノ配給拂下米ノ廉賣 |
| 旅費欠救護費 | 七六一 | 失業勞働者浮浪者ノ保護トシテ給食、宿泊、乘車、醫療等ヲナス |
| 視察 | 四〇〇〇 | 優良ナル社會事業ノ視察 |
| 教化指導 | 六八七二 | 一般的ノ講演會及市内巡回映畫、要同情者ノ祖先法要會及無緣佛ノ慰靈祭 |
| 奬勵費 | 六五四 | 窮迫ナル家庭ニアルモノガ方面委員ノ指導ニ從テ一家ヲ更生サセタルモノヲ褒賞 |
| 社會事業補助費 | 二三〇〇 | 市内優良社會事業團体ニ關スル補助 |
| 雜費 | 四九六〇 | |
| 計 | 一三四五八三 | |

## 社團法人救護會清水自助館事業成績（昭和九年度）

| | 宿泊 | 出立 | 宿泊延人員 | 有料宿泊 | 無料宿泊 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 一、二〇六 | 一、一九五 | 四、九六七 | 二、五四一 | 二、四二六 |
| 女 | 四二 | 四二 | 一四九 | 一四九 | 〇 |
| 計 | 一、二四八 | 一、二三七 | 五、一一六 | 二、六九〇 | 二、四二六 |

### 月別宿泊者

| | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 四月 | 九〇 | 四四 | 九四 |
| 五月 | 九五 | 三 | 九八 |
| 六月 | 六五 | 四 | 六九 |
| 七月 | 一四三 | 三 | 一四六 |
| 八月 | 一五八 | 四 | 一六二 |
| 九月 | 八四 | 二 | 八六 |
| 十月 | 九六 | 一 | 九七 |
| 十一月 | 二四 | 一 | 二五 |
| 十二月 | 七三 | 四 | 七七 |
| 一月 | 九二 | 四 | 九六 |
| 二月 | 九三 | 四 | 九七 |
| 三月 | 一〇三 | 八 | 一一一 |

### 年齢別宿泊者

| | 十才 | 二十才 | 三十才 | 四十才 | 五十才 | 六十才 | 六十才以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 男 | 一〇 | 一三七 | 四七〇 | 三三三 | 一七〇 | 七五 | 三一 | 一、二〇六 |
| 女 | 九 | 三 | 一四 | 九 | 三 | 三 | 一 | 四二 |



## 人事相談・職業斡旋

| | 斡旋人員 | | 賃金（一日平均） |
|---|---|---|---|
| | 延人員 | 男 | 女 |
| 工場勤務 | 四三 | 六八三 | 九〇錢 |
| 土木工事 | 一四 | 一三六 | 八〇錢 |
| | | | 四七錢 |

## 法律相談所

清水市では昭和十年度より新事業として豫算百三十圓を計上し法律相談所を設け岡（故）、水谷、江川、菅野の四辯護士を囑託して毎月第一第三土曜日の午后一時より四時迄都市計劃樓上にて行ひ市内在住者の主として簡易なる一般法律上の相談に應じ、以つて市民の福利增進に寄與しつゝあるが、取扱ひ件數は開所毎に十數件に上り頗る好成績を擧げて居る。

## 公益質舗

清水市營公益質舗は事務員二名を以つて取扱つて居るが、成績は年々良好となり昭和八年度の入質金額二万八百三圓に對し九年度は二万五千四百四十一圓に增加し、受質又二万一千百四十六圓から二万四千八百五圓に增大して居る。

昭和九年度取扱

| | 取扱員數 | 點數 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 入質 | 三、八五三 | 五、八九四 | 一九、〇六六 | 二五、四四一圓三〇 |
| 受戻 | 三、一五七 | 五、五八五 | 一七、一〇五 | 二四、八〇五圓四五 |

## 清水市職業紹介所

清水市職業紹介所は大正十四年二月より開設され所長一名、書記三名の現在であるが、昭和九年に開所十週年を迎へたが此の十ケ年間の求人者は二万九千五十人、求職者は三万七百十六人、就職者は一万五千六百六十三人の多數に上つて居る。

職業紹介所の使命は勞務需給の調節を計り、産業の發展に貢献し、一面失業救齊に就いて重大なる責任を持ち、本市としても失業對策の一助として小學校と連絡提携して少年の職業指導、補導、紹介に力め其の實績を擧げて居るが、其の他日雇勞働者紹介、少年職業適應檢査、町村連絡取扱ひ等廣範圍に亘つて居る。

### 職業紹介年度別取扱表



### 職業別取扱表

（昭和九年）

| | 求人者數 男 | 求人者數 女 | 求人者數 計 | 求職者數 男 | 求職者數 女 | 求職者數 計 | 就職者數 男 | 就職者數 女 | 就職者數 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 大正十四年 | 五一三 | 一五三 | 六六六 | 八四〇 | 四三 | 八八三 | 四三〇 | 一九 | 四四九 |
| 昭和元年 | 八二八 | 二五五 | 一、〇八三 | 一、一四五 | 一〇二 | 一、二四六 | 四九一 | 五二 | 五四三 |
| 全二年 | 七九一 | 三一〇 | 一、一一一 | 一、二三四 | 一四〇 | 一、三三四 | 三一三 | 七七 | 三九〇 |
| 全三年 | 一、一六〇 | 四一一 | 一、五七一 | 一、一六三 | 一九三 | 一、三五五 | 三七八 | 八七 | 四六五 |
| 全四年 | 一、三二六 | 五〇五 | 一、七三一 | 一、二七九 | 二七九 | 一、五五八 | 四〇九 | 二二 | 五三〇 |
| 全五年 | 一、三八七 | 五四三 | 一、九三〇 | 二、四五六 | 四一七 | 二、八七三 | 六八四 | | 八七七 |
| 全六年 | 二、二一八 | 九八四 | 三、一〇二 | 二、六四八 | 七〇一 | 三、三四九 | 一、一七九 | 三七七 | 一、五五六 |
| 全七年 | 四、五六一 | 一、五四六 | 六、一〇七 | 五、五四九 | 一、二九八 | 六、八四七 | 三、二三一 | 七一〇 | 三、九五一 |
| 全八年 | 四、七七二 | 一、六六〇 | 六、四三二 | 五、二一四 | 一、三三五 | 六、四三九 | 三、一六九 | 七一〇 | 三、八八九 |
| 全九年 | 三、六三六 | 一、五八一 | 五、二一七 | 三、八四九 | 九八四 | 四、八三三 | 二、五一一 | 五〇三 | 三、〇一四 |
| 合計 | 二一、〇九二 | 七、九五八 | 二九、〇五〇 | 二二、三三六 | 五、三八〇 | 二〇、七一六 | 二、八六八 | 一三、七九五 | 一五、六六三 |
| 工業鑛業 | 四八四 | 一〇七 | 五九一 | 四三三 | 九七 | 五一九 | 二三九 | 三九 | 二七八 |
| 土木建築 | 一、五七四 | 二〇 | 一、五九四 | 一、三九七 | 一九 | 一、三一六 | 一、二四九 | 一八 | 一、二六七 |

## 求職者年齢調

| | 十三才以上 | 十四才以上 | 十五才以上 | 十六才以上 | 十八才以上 | 二十才以上 | 廿五才以上 | 三十才以上 | 四十才以上 | 五十才以上 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 商業 | 四一 | 二五九 | 六七四 | 二九七 | 六四 | 三六一 | 一〇八 | 三四 | 一四三 | 三、〇一四 |
| 農林業 | 四三 | 二四 | 六六 | 三九 | 一七 | 四四 | 一七 | 三 | 一〇 | 九二四 |
| 水産業 | 四六 | 四三 | 八九 | 三三 | 一七 | 五〇 | 一五 | 七 | 三 | 一〇一 |
| 通信運輸 | 一三一 | 一一 | 一四三 | 一六九 | 一五 | 一八四 | 九二 | 九 | 二六〇 | 二、六〇一 |
| 戸内使用人 | 三三 | 八六七 | 八九九 | 七九 | 四八七 | 五六六 | 一六 | 二四四 | 一四九 | 一、四一三 |
| 雑業 | 九一六 | 二五〇 | 一、一六六 | 一、四一三 | 二八〇 | 一、六九三 | 七七五 | 一四九 | 九二四 | 九八四 |
| 合計 | 三、六三六 | 一、五八一 | 五、二一七 | 三、八四九 | 九八四 | 四、八三三 | 二、五一一 | 五〇三 | 三、〇一四 | 三、八四九 |
| 男 | 六 | 九 | 五一 | 一九五 | 一九七 | 六八八 | 五一九 | 一、〇三七 | 七二〇 | 四二六 | 三、八四九 |
| 女 | 六 | 二七 | 五〇 | 一四三 | 一五三 | 二〇三 | 八五 | 一三九 | 一三三 | 四六 | 九八四 |
| 計 | 一二 | 三六 | 一〇二 | 三三八 | 三五〇 | 八九一 | 六〇四 | 一、一七六 | 八五二 | 四七二 | 四、八三三 |

## 少年職業紹介年度別取扱數



## 少年職業別取扱表

（昭和九年）

| | 求人者數 男 | 求人者數 女 | 求人者數 計 | 求職者數 男 | 求職者數 女 | 求職者數 計 | 就職者數 男 | 就職者數 女 | 就職者數 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和元年 | 一八六 | 三八 | 二二四 | 六〇 | 三五 | 九五 | 二三 | 一四 | 三七 |
| 昭和二年 | 二二五 | 二二八 | 三四三 | 三七 | 二三 | 六〇 | 二九 | 一八 | 四七 |
| 昭和三年 | 三七八 | 二一九 | 五九七 | 一〇六 | 一〇三 | 二〇九 | 四四 | 五二 | 九七 |
| 昭和四年 | 四三一 | 三〇九 | 七四〇 | 一五一 | 一〇八 | 二五九 | 六一 | 五九 | 一二〇 |
| 昭和五年 | 四三〇 | 三一一 | 七四一 | 一五〇 | 二三九 | 四八九 | 七五 | 八七 | 一六一 |
| 昭和六年 | 五八四 | 五四五 | 一、一二九 | 三〇七 | 三〇六 | 六一三 | 一〇四 | 一五九 | 二六三 |
| 昭和七年 | 六五四 | 八八七 | 一、五四一 | 三六三 | 四八一 | 八四四 | 一三五 | 一七八 | 四一三 |
| 昭和八年 | 九一九 | 八二四 | 一、七五三 | 四六三 | 三七五 | 八二八 | 一五五 | 二六七 | 四二二 |
| 昭和九年 | 六〇五 | 七一八 | 一、三二四 | 三一九 | 三〇一 | 六三〇 | 一九七 | 一六六 | 三六三 |
| 合計 | 四、二九二 | 四、一〇〇 | 八、三九二 | 二、〇六六 | 一、九七一 | 四、〇三七 | 八二三 | 一、一〇〇 | 一、九二三 |
| 工業鑛業 | 一七一 | 四五 | 二一六 | 一二三 | 三八 | 一五〇 | 七六 | 一八 | 九四 |
| 土木建築 | 七四 | 一 | 七四 | 三六 | 一 | 三七 | 二八 | 一 | 二八 |
| 商業 | 二三六 | 九二 | 三二八 | 七三 | 二五 | 九八 | 四一 | 一四 | 五五 |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 農林業 | 五 | 八 | 一三 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 水産業 | 一四 | 二四 | 三八 | 六 | 三 | 八 | 四 | 四 | 一〇 | 一四 | 一四 |
| 通信運輸 | 一六 | 四 | 二〇 | 一〇 | 一三 | 三 | 三 | 三〇 | 四四 | 八 | 一〇八 |
| 戸内使用人 | 一九 | 四九二 | 五一二 | 二九 | 一六六 | 一九五 | 一〇八 | 一四四 | 九四 | 一〇八 | 一〇八 |
| 雑業 | 七〇 | 五四 | 一二四 | 六二 | 四六 | 一〇八 | 三〇 | 一四四 | 二六 | 五六 | 五六 |
| 合計 | 六〇五 | 七一九 | 一、三二四 | 三九 | 三〇二 | 六三〇 | 一九七 | 一 | 一六六 | 三六三 | 三六三 |

方面委員

辻瀧松兵衛
辻島崎杉本鎌一
江尻池上清一郎
仝小林保太郎
仝柴田龜吉
入江鵜飼義孝
仝五條德太郎
上清水出口茂敏
不二見友松覺眞
仝岩崎啓次郎

清水仝山田政吉
仝鈴木正平
幸町松永德三郎
折戸柴田耕作

清水市社會事業協會

顧問鈴木與平
原田三左衛門
山田勝四郎
井上光治
吉田正一
山梨謙藏

望月治作
會長大石惠直
副會長佐藤繁一
仝石本正治
常務理事渡邊矢三郎
理事瀧松兵衛
池上清一郎
柴田龜吉
小林保太郎
杉本鎌一
鵜飼義孝
五條德太郎



出口茂敏
山田政吉
仝友松覺眞
松永德三郎
鈴木正平
岩崎啓次郎
柴田耕作
遠藤茂助
杉山德次郎
中村安太郎
白鳥茂作
井上爲吉
堀辰吉

日本赤十字社
清水市委員部

委員長大石惠直
副委員長佐藤繁一
收入委員渡邊房太郎
事務委員渡邊矢三郎
仝程島定彦
仝長永由太郎
仝川尻甚太郎

愛國婦人會清水市分會

顧問大石惠直
仝鈴木まさ
分會長大石八重子
副長佐藤貞子
中村安太郎
白鳥茂作
井上爲吉
堀辰吉
參與佐藤繁一
仝渡邊房太郎
仝渡邊矢三郎
仝永長由太郎
書記杉山譽四郎
仝和田ろく

各種婦人會役員

入江第三區主婦會

會長眞たけ
副會長三木京子
仝馬場きよの

清水本町主婦會

幹事山本たき
仝石野道子

清水十區主婦會

會長望月市子

清水仲町主婦會

會長玉谷コト

下清水主婦會

會長江川みき

辻四區主婦會

會長阪うめ子

不二見原組主婦會　會長森りき
宮加三主婦會　會長遠藤梅子
三保第一區主婦會　會長川口たき
塚間主婦會　會長窪田峰吉
報德婦人會　會長田村武治
清水不二婦人會　會長鈴木まさ
憐保館母の會　會長山田いち
保育園母の會　會長中田雅
美普教會婦人會　會長古田伸子

# 衛生

## 通觀

清水市では昭和十年度より衛生に關し、重要事項に對する市長の諮問に應じ又は意見を具申せしめる機關として市會議員六名、市公民中選擧權を有する醫師三名、同藥劑師一名を以つて衛生委員會を組織し衛生施設の萬全を期する事になつたが、現在市立病院一、市立診療所一、醫師會實費診療所一



暫完的隔離病舍一、醫療組合更生病院一等あり、此の外市立火葬場一、靈柩自動車一にして、醫師數は五五名、齒科醫師數二九名、藥劑師數一九名、產婆數五二名、看護婦一二〇名等が重なる衝に當り市當局の衛生係と共に專ら市民の衛生諸事を担任して居る。

昭和九年度本市の人口動態より算出せる出生率は一日平均四、三人弱となり、死亡率は二、二人强の割合を示し、同年の埋火葬認許証交付並に証明閲覽、火葬場使用許可は一、二二三件に及ぶ。傳染病に就いては不斷の注意を拂ひ特に腸チブス患者豫防に關しては發生區域に對し延人員一、三三二人に豫防注射を實施したるも患者は四十一名其他合計一一七名を出したが、前年度の一七二名に比すれば相當の減退であつた。

而して市立病院入院患者は八十五名にして、前年より越入院者は十名、合計九十五名あり、其の內全快七十八名、死亡十一名、六名は昭和十年へ越入院となつたものである。

火葬場取扱數は合計一、〇四七、又靈柩車使用回數は市內五〇三回、市外三八四、合計五二二回となつて居る。

### 傳染病調

| | 九年度發生患者 | 八年度發生患者 | 增△減 |
|---|---|---|---|
| 痢 | 一七 | 九 | 八 |
| 赤痢 | 三五 | 三三 | 二 |
| 腸チブス | 四一 | 一一一 | △七〇 |

## 傳染病發生及轉歸

| | 九年發生 全 | 快 | 死 | 亡 | 翌年越 |
|---|---|---|---|---|---|
| 赤痢 | 一七 | 一四 | 三 | | 一 |
| 疫痢 | 三五 | 一三 | 二二 | | 〇 |
| 腸チフス | 四一 | 二九 | 八 | | 四 |
| パラチフス | 二 | 二 | 〇 | | 〇 |
| 猩紅熱 | 一三 | 一三 | 〇 | | 〇 |
| ヂフテリア | 九 | 八 | 〇 | | 一 |
| 計 | 一一七 | 七九 | 三三 | | 六 |

| | 市内住民 | 市内非住民 | 計 |
|---|---|---|---|
| 特等 大 | | | |
| 特等 小 | 三六二 | 七〇 | 四三二 |

| | 市内住民 | 市内非住民 | 計 |
|---|---|---|---|
| パラチフス | 二 | 六 | 四 |
| 猩紅熱 | 一三 | 七 | 七 |
| ヂフテリヤ | 九 | 六 | 二 |
| 計 | 一一七 | 一七二 | 五五 |

## 火葬場取扱數

| | 壹等 大 | 壹等 小 | 貳等 大 | 貳等 小 | 無料 大 | 無料 小 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | |
| | 一 | 二〇 | 三 | 三五 | 二 | 一六 | 九六七 |
| | 三 | 二 | 二 | 二五 | 五 | 一 | 八〇 |
| | 二二 | 二五 | 三四 | 三六 | 二 | 一六 | 一、〇四七 |



## 種痘施行

昭和九年三月靜岡市に痘瘡患者發生し本市は交通連絡頻繁なる關係上何時該病毒の侵入するやも計り難き狀態にあるを以つて市內全般の臨時種痘を施したが定期公種痘は春秋兩期二十六ヶ所で延日數六十二日を以つて施行した。

| | | 公種痘 善感 | 公種痘 不善感 | 公種痘 計 | 私種痘 善感 | 私種痘 不善感 | 私種痘 計 | 末種痘 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第一期 | 第一回 | 一、六六一 | 七九 | 一、七四二 | 四八 | 一 | 四九 | 三九 |
| | 第二回 | 一三 | 五五 | 六八 | 六 | 一 | 七 | 二八 |
| 第二期 | 第一回 | 一、五八七 | 一、〇六四 | 二、六五四 | 一 | 二 | 三 | 四八、 |
| | 第二回 | 一四〇 | 八四七 | 九八七 | 一 | 一 | 四 | 四九 |

## 清潔法施行

| 期 | 日數 | 總戸數 | 人夫數 | 搬出數（貫） |
|---|---|---|---|---|
| 春期 | 五六 | 一〇、八五〇 | 一八 | 二、二八、六一〇 |
| 秋期 | 六六 | 一一、〇二〇 | 一八 | 二、六八、五七五 |

## 塵芥處分

清水市より排出する汚物は昭和九年一、二六六、一八〇貫を算しこれが處分に關しては延人員四、八九二人を要し從來適當なる恒久方針が無かつた爲土地の埋立等に使用して居たが、市當局に於ては何等かの方法を求む可く昭和九年度には市會の協贊を經て推肥製造を計劃し、土地を物色したるも事業の性質上何れも候補地元民はこれを喜ばず、市政上の一難問題とされて居た折柄、たま〳〵昭和十年度豫算市會直前に山崎泰次郎、荒井榮次郎兩氏から塵芥處分請負を出願したので市當局は既定の方針を變更し一ヶ年八千五百圓を以つて請負わしめたが、兩氏はこれに依つて清水化學工業所を創設し魚町區巴川畔に塵芥燒却工場を設け、これが燒却余熱を利用して市内罐詰並鰹節製造工場等より排出される魚骨等より魚油、飼料、魚肥等を製造する事になり昭和十年八月より操業を開始した。



## 清水市醫師會

（電話一、〇八五番）

會長　内科　山田昌榮
副會長　内科　齋藤礒次
理事　外、皮　木村鼎
仝　内科　瀧戸直内
評議員　眼科　五十嵐力
仝　内、小兒　村手雄太郎
仝　内、産婦　成島貫一
仝　耳鼻科　馬越亮
仝　内科　龜田五十吉
仝　内、産婦　古田弘平
倉員　内科　岩淵明治
外科　伊藤博
眼科　花田祐敎
外、皮膚　堀口義次
小兒科　大原傳次郎
小兒科　大林皓
内科　岡本梅之助
内科　神山源治
眼科　吉川三作
産婦人　田口初吉
内、小兒　竹内敏
内、小兒　曾根織造
内、耳鼻　宗かん
内、小兒　中村榮之助
内科　野澤廣行
外、皮　能勢義一
内科　山田昌庵
内科　保田謙藏
内、耳鼻　松井壽次
内、小兒　藤井大之助
皮膚科　安部良白
外科　坂井貞三
内科　富原顯治
内、小兒　志村義三郎
外、皮膚　平野敏雄
眼科　森島順一
内科　杉本良雄
内、小兒　信澤博
外、皮　朝永廼
内科　杉江善次
内、外科　鈴木百太郎
外科　杉山好次郎
小兒科　荒木廣業
小兒科　太田鋼三
内科　毛皮雄三郎
竹内俊一
中野明
加藤義寛
星野孝志
毛利孝一
山崎明倫
板橋剛

## 清水市庵原郡歯科醫師會

（電話二五六番）

會長　望月弘章

副會長　酒井芳太郎
仝　五十嵐準
會員（清水市）大藤兵三郎
田村金司
丸山實太郎
安部初雄
杉山藤市
杉山寛治
渡邊敏雄
遠田洸
土屋茂
山田武太郎
靜原隆
佐々木清
河村孝義
諸井信司
河村靜
小澤瑛太郎
木村幸八

福島婦美子
藤井武雄
望月一雄
鈴木稔
村上孝一郎
北原勉
望月しげ子
渡邊セッ
川又惣次郎
桑原正彦
井川貞治
立花平次
二階堂德之進
角田虎雄
宇佐美正雄
富樫寛治郎
三輪淳逸
望月道壽
秋庭恒

河知逸郎
鎌田清一

## 清水市醫師會診療所
（電話一、〇八五）

所長　龜田五十吉
幹事　木村鼎
相談役　石本正治
仝　杉本良雄
仝　坂井貞三
事務員　鈴木貞二

## 醫療利用組合 更生病院清水分院
（電話二一九番）

院長　內科、小兒科
醫學博士　竹內俊一
外科
醫學士　星野孝志
產婦人科


米國シンクレア石油會社
日本石油株式會社
淺野物產株式會社礦油部
特約店

ライジングサン石油株式會社

ヤマト商店礦油部

鹽澤林藏
清水市江尻新道
電話清水十九番

ガソリンハ
貝印…大曲サービスステーション

| | | |
|---|---|---|
| 醫學士 | 加藤義寛 | 主事 |
| 産婆 | 長瀬達子 | 書記 |
| 耳鼻科 | | 仝 |
| 醫學士 | 中野明 | 外務員 |
| 內科 | | 仝 |
| 醫學士 | 毛利孝一 | 受付 |
| 藥局 | | 自動車運轉手 |
| 東京藥學士 | 望月靜雄 | 雇 |
| レントゲン技手 | 高橋銀三 | 清水市産婆會（電話八七三番） |
| 看護婦 | 宮城島さの | 會長 |
| 仝 | 阿部みつ | 會員 |
| 仝 | 齋藤錫子 | 清水 |
| 仝 | 小林春子 | 中村よう |
| 仝 | 戸塚イソ | 加藤のぶ |
| 仝 | 原田アイ | 柴川いわ |
| 仝 | 持田しづ江 | 望月きく |
| 仝 | 大森益治 | 長谷川勝子 |
| 仝 | 渡邊すゞ江 | 杉村よし |

| | | |
|---|---|---|
| 小川藤次郎 | 外岡みな | 入江、岡 |
| 高橋博 | 劒持しず子 | |
| 小川芳正 | 北村美佐江 | |
| 望月勝太郎 | 白鳥きよ | |
| 櫻井福 | 河野一二三 | 江尻 |
| 川端千惠子 | 河野かつ | |
| 杉山進 | 望月歌子 | |
| 齋藤與三次郎 | 熊ケ谷ひめよ | |
| | 平野とく | |
| | 吉村しげ | |
| | 篠田まさ | |
| | 川口チエ | |
| | 尾上治代 | 辻 |
| | 田中たゞ | |
| | 田中治子 | |
| | 小澤たけ | |
| | 岡田ふさ | |
| | 伊藤しま | |
| | 北條きり | |
| | 佐々木あい | |


靜岡市鷹匠町一丁目

# 靜岡電氣鐵道株式會社

電話 五五〇 五六五 九七五番

三保　上清水　下清水　宮加三　北矢部　折戸　村松　駒越

坪井　大戸なつ　八木りき　松本はつ江　鳳村ひさ　櫻田ともゑ　片瀬ゆき　堀しと　岸山壽子　原ゑち　望月とら　長瀬達子　渡邊てる　望月綾子　杉山華子　齋藤みち　古松ヤエ　太田きゑ

興津　由比

蒲原　矢野キク　近藤すゑ　博林さく　遠藤愛子　宮城島きん　漆畑かぬ　上島くの　新井すゑ　永峰はる　井上しげ　井上志喜惠　濱たか　西岡らく　成島加壽　浦田禮　佐野ふじ野　望月みち　鈴木とめ

藤崎　藤崎富美子　安藤せん　宮永ひさ　中村ふさ　中村きい　太田せつ　明石志ん　明石きく江　村上ゆき　植田はな　小笠原まし　岩田光世　兩河内村望月たい　神戸なつ　松野村久保田吉江　飯田村季村コト　今井光子　戸田高　岡村良惠



高部村　藤卷由　春田ゆき　大木すぎ　片岡きく　西奈村大橋よね　竹下はな　山田きわ

看護婦會

清水看護婦會　電話七八九番　會長永田郁　清見潟看護婦會　電話九四五番　會長橋本うめ　明治看護婦會清水支部　電話三一六番　吉野信夫

大正看護婦會清水支部　電話五六一番　大野ちよ

學校看護婦　宇佐美つや　中村淑惠　西尾とみ　鹽澤さだ子

# 警備

## 通觀

清水市並庵原郡の警備に當る清水署は昭和十一年には移轉改築も實現するものと見られるが現在志茂町に本署を置き、派出所一〇、駐在所二二ヶ所を管内に持ち、署員は警視一、警部一、警部補五、巡査部長九、巡査六五、其他六、合計八十九名に達して居る。又清水港警備に當る清水水上署はこれ

亦近く移轉改築の機運にあるが警部補一、巡査部長一、巡査四、技手二の現在である。

消防は常設部外七部に分ち、昭和十年度より組織を變更して組員合計四三三名となつたが、防火精神の普及徹底から本市は全國都市中でも有數の僅少火災に止まり又迅速なる消防組の活動から昭和九年の火災は二七件に及ぶも住家全燒は僅か一件、非住家全燒二件、其他は何れも壁一坪や布團一枚等の小火で損害見積額は僅かに二千四百二十八圓に止まつて居る。

## 清水市消防組、組織

| 部名 | 部ニ屬スル區域 | 定員 |
|---|---|---|
| 常設部 | 清水市一圓 | 一三 |
| 第一部 | 清水、萬世町一、二、三丁目、松原町一、二、三丁目、富士見町一、二丁目、港町一、二、三、四丁目、築地町一、二丁目、日ノ出町一、二丁目、新港町 | 五一 |
| 第二部 | 下清水、船越町、南矢部、北矢部、村松、清水、村松地先新田、增宮加三、駒越、蛇塚 | 七一 |
| 第三部 | 三保、折戸 | 七一 |
| 第四部 | 辻小字島崎 | 五一 |
| 第五部 | 辻小字本町 | 五一 |
| 第六部 | 江尻 | 七一 |
| 第七部 | 入江、元追分、上清水 | 五一 |
| 計 | （外ニ正副組頭三名） | 四三三名 |



## 消防設備

| ポンプ 蒸汽 | ガソリン自動車 | 腕用 | 自動車 | 牽引自動車 | 器具置場 | 貯水個所 | 火の見櫓 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二 | 一〇 | 九 | 二 | 七 | 一二 | 一〇六 | 二六 |

## 火災

| 消火及撤水栓 | | |
|---|---|---|
| 公設消火栓 | 私設消火栓 | 撤水栓 |
| 四五〇 | 一八 | 八六 |

| 度數 | 住家 世帶數 | 住家 坪數 | 非住家 棟數 | 非住家 坪數 | 損害見積額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 二七 | 二二 | 七〇坪五 | 六 | 九七坪七五 | 二、四二八圓五〇 |

## 犯罪及變死

| 刑事犯 發生件數 | 刑事犯 檢擧件數 | 警察令違反 | 自殺者 男 | 自殺者 女 | 自殺者 未遂 | 自殺者 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 二、一〇二 | 二、三六二 | 五七四 | 一六 | 八 | 二 | 二六 |

## 清水警察署

（電話六五番）

署長地方警視　井上義康
警部　横森篤
警部補
富士川派出所　高橋宗助
保安工場主任　犬塚左京
西園寺警衛主任　吉村達
特高主任　松井虎雄
司法主任　木村友吉
巡査部長
會計主任　近田若芳
蒲原派出所　石川代作
刑事主任　半田京平
興津派出所　鈴木才一郎
建築主任　欠員
視察主任　村田宗平
衛生主任　欠員
消防兵事主任　山地貞雄
庶務主任　瀧口政一
巡査
統計主任兼衛生係　杉山英雄
庶務係　欠員
視察係　繁田金八
仝　石垣茂太郎
司法刑事　澤入義平
仝　岩崎周藏
仝　齋藤次郎
外事係　大塚榮太郎
衛生係　渡邊木造
會計係　野中龍雄
雇　大石智賀一
建築技手　寺田泰次郎
高橋文雄

## 清水水上警察署

（電話二〇〇番）

署長警部補　松浦彌三郎
巡査部長　鈴木麟二
巡査　勳八　田中善
日吉敏夫
高橋光彌
佐野信吾
警察技手　牧田清作
大石述四郎

### 清水市消防組

組頭　天野九右衛門
副組頭　佐藤覺次郎
仝　太田循

## 常設部

（電話五〇番）

部長　高橋春太郎
小頭　望月廣吉
消防手　宇佐美芳祐



杉山由太郎
小頭　大瀧昌作
井上喜代作
杉本忠作
松永龜太郎
望月重太郎
池田清
太田清
廣澤晃
加藤治作
大瀧作平
遠藤茂助
遠藤哲雄
櫻田丑太郎
長澤源吉
宮城島平重
長澤武雄
川口虎吉
横山吉太郎
長澤憲太郎
保田浅吉
第三部長
小頭　瓜柴政吉
仲井要作
酒井金太郎
出口定吉
沼田平太郎
小杉竹次郎
川崎福太郎
第二部長　杉本萬吉
保田伸
河島勇吉
武川利作
塚田篤三
三本木忠次郎
山本整
中山五郎
山本忠平
第一部長
小頭
竹下吉三郎
遠藤徹
第四部長
小頭
山崎庄十
高木兵太郎
西野宗吉
水谷晉吉
望月角太郎
小澤竹藏
稲葉留作
第五部長
小頭
劍持宰司
榊原仙太郎
劍持順作
牧田金末
杉山清太郎
榊原元次
彌次金三藏
山本謙司
第六部長
小頭
栗田定吉
杉山松

山田惣太郎　京屋政藏　三保分團長　遠藤茂助
遠藤勝太郎　坂本繁
磯田長作
池上延次郎
杉原作次郎　團長　大石惠直
戸田喜一郎　副團長　佐藤繁一
丸山政吉　山本量平
川口政吉　天野九右衛門
芹澤泰助　原豪吉
加藤米太郎　金子勇治
坪井實知男　渡邊矢三郎
寺田國三郎　衛生　程島定彦
青木正作　工作　川勝忍
杉山勇次郎　會計配給　渡邊房太郎
山田經一郎　辻分團長　池上鐵吉
村岡源次郎　江尻分團長　伏見治三郎
河井初太郎　入江分團長　井柳晉吉
小長井豊次　清水分團長　白鳥茂作
坪井七五三　不二見分團長　鍋田邦次

## 清水市防護團

第七部長
小頭

庶務警護



# 産業

## 通觀

清水市は天惠的良港と交通の便、地勢、氣候等幾多の好條件に扶翼されて産業の發展を促され、逐年躍進の一途を辿りつゝあるが、諸施設の完備から將來一段と發展を約束され、工業地帶としては港灣の修築工事に伴つて廣大なる埋立地を得、貝島の十六万坪、不二見の八万坪、清水の二万坪、辻、袖師の十三万坪等海に面して水陸の便なる理想的土地が、事業の性質に應じて意の如く求め得られる事は企業家の爲にも本市の爲にも頗る有利で、此の埋立地を利用した製氷會社、造船會社は昭和十年に華々しく操業を開始し、清水市の工業界に新たなる黎明を齎らしたとも言へよう。

又昭和九年度の製産額を見れば二千七百六十四万五千圓、清水港貿易額三千一百万圓、清水驛運輸一千八百二十万圓を見れば清水市の産業は頗る輝かしいものがある。

## 職業別戸數

| | 農業 | 水産業 | 工業 | 商業 | 交通業 | 公務自由業 | 其他 | 家事使用人 | 無職 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 一、六〇三 | 三二九 | 二、六〇〇 | 三、一七五 | 九九六 | 七八四 | 九五九 | 三五 | 三三〇 | 二二、三四二 |

## 生産物總價額

| | 昭和七年 | 昭和八年 |
|---|---|---|
| 農業 | 一、六〇二 | 一、六一三 |
| 水産 | 三一〇 | 三〇九 |
| 酒産 | 三、一四〇 | 三、七六七 |
| 林産 | 三、一三三 | 三、一六九 |
| 工産 | 一、三一九 | 一、〇六〇 |
| 計 | 四八三 | 七三五 |
| | 一〇 | 九三四 |
| | 三三四 | 五七五 |
| | 三、三七九 | 一一、三五九 |

## 商工業總覽

| | 社數 | 公稱資本金 | 拂込資本金 | 積立金 |
|---|---|---|---|---|
| 運輸業 | 三七 | 二、八六二、一九〇円 | 二、四八七、一九〇円 | 二六七、三七七円 |
| 商業 | 四五 | 二、二一九、七七〇 | 一、五〇三、五二〇 | 一三三、〇六〇 |
| 工業 | 一九 | 二、五二〇、〇〇〇 | 一、六三三、五〇〇 | 三九九、一〇〇 |
| 計 | 一〇一 | 八、八七〇、四六〇 | 六、八三七、七一〇 | 七三〇、六三七 |

## 會社

| | 社數 | 公稱資本金 | 拂込資本金 | 積立金 |
|---|---|---|---|---|
| 株式 | 一七 | 七、九〇二、〇〇〇円 | 五、八六九、二五〇円 | 七一六、四五九円 |
| 合資 | 六七 | 八五三、九七〇 | 八五三、九七〇 | 三四、一九九 |
| 合名 | 七 | 一一四、四九〇 | 一一四、四九〇 | 一 |
| 計 | 一〇一 | 八、八七〇、四六〇 | 六、八三七、七一〇 | 七五〇、六五八 |

## 工場 (常時職工五人以上使用スルモノ)

| | 工場數 | 生産額 | 職工數 男 | 職工數 女 | 職工數 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 紡織工業 | 四 | 五八、四一二円 | 一七 | 五 | 二二 |
| 金屬工業 | 四 | 九三、二二二 | 八七 | 一 | 一〇五 |
| 機械器具工業 | 一五 | 四〇三、八四四 | 一八三 | 九八 | 一九二 |
| 化學工業 | 七 | 一五、二九八、二九〇 | 三九九 | 一七九 | 四三六 |
| 製材及木製品工業 | 三〇 | 四、三六四、七八三 | 一、〇三七 | 一一 | 一、一四八 |
| 印刷製本業 | 七 | 七七、五八〇 | 三八 | | 三八 |
| 食料品工業 | 二五 | 四、〇五八、三二五 | 二六四 | 四五 | 七一九 |
| 他ノ工業 | 二三 | 八三五、二五五 | 二三七 | 一一九 | 三五六 |
| 計 | 一二〇 | 三五、一八九、七一一 | 二、二〇二 | 八一四 | 三、〇一六 |

## 工業產額內譯

| | 數量 | 價額（圓） |
|---|---|---|
| 燐寸品 | 八四七、八〇〇打 | 九三、三五六 |
| 竹製品 | — | 一五、七四三 |
| 葉物 | — | 一〇、一〇一 |
| 染料 | — | 一〇、〇四〇 |
| 皮革製品 | — | 四〇、〇四〇 |
| 綿織物 | 一八、六〇〇封度 | 一、五四四、一三五 |
| 西洋紙 | 六五、五一〇反 | 一〇五、四四六 |
| 味噌 | 二六、五四〇貫 | 一〇、二一〇 |
| 麵類 | 五四、八一〇貫 | 三〇、一四六 |
| 清酒 | 二、三四五石 | 一八、五七二 |
| 醬油 | 二一〇、五四六斤 | 六、七四七、三五七 |
| 味噌 | 七、八三二、六六七斤 | 一三〇、〇五〇 |
| 大豆 | 三、七六二、六六八貫 | 一〇、〇五〇 |
| 再製大豆 | 三八、五三二、一四三斤 | 五、五四一、五四〇円 |
| 製油 | | |
| 製氷 | | |
| 其ノ他製品 | | |
| 總額 | — | 一三五、一五九、四八八 |

| | 數量 | 價額（圓） |
|---|---|---|
| 木製品 | — | 一二、八一六 |
| 製材品 | — | 四、一一六、九四〇 |
| 漬物類詰 | 一〇、〇六四箱 | 一一、四三、一六〇 |
| 佃煮類詰 | 五五、二一一箱 | 一六五、五四六 |
| 蜜柑類詰 | 一七、六五三箱 | 一一三、一七一 |
| 醬油漬類詰 | 四、一〇六箱 | 六〇、一四一 |
| 機械類 | — | 六〇、〇六〇 |
| 瓦 | — | 一六、一九〇 |
| 船 | — | 三一、六九〇 |
| 他の製品 | — | 一、八四〇、〇五〇 |

## 會社總覽

| 商號又ハ名稱 | 所在地 | 設立年月 | 公稱資本金 | 代表者 |
|---|---|---|---|---|
| 株式會社清水東京支店 | 全港町 | 昭和三、七 | 二、五三〇、〇〇〇 | 平野敏郎 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 明治三一、五 | 五五、〇〇〇 | 小池文次 |
| 株式會社清水食品 | 全港町 | 昭和四、一 | 二〇〇、〇〇〇 | 佐野容次 |
| 株式會社天事產 | 全港町 | 大正一四、二 | 五〇〇、〇〇〇 | 本多長利 |
| 株式會社清水運送 | 全港町 | 大正一四、六 | 一五〇、〇〇〇 | 鈴木造 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 大正六、八 | 一、五〇〇、〇〇〇 | 井上光治 |
| 株式會社清水運送 | 全港町 | 大正一三、三 | 五〇〇、〇〇〇 | 高塚與平 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 昭和一一、三 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 鈴木龜一 |
| 株式會社清水運送 | 富士見町 | 大正一五、五 | 三〇〇、〇〇〇 | 全平 |
| 株式會社清水倉庫 | 富士見町 | 昭和七、三 | 五〇、〇〇〇 | 芝野榮一 |
| 株式會社清水運送 | 港町 | 大正九、三 | 五〇、〇〇〇 | 青野唯一 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 昭和二、五 | 五〇、〇〇〇 | 平岡榮一 |
| 株式會社清水運送 | 港町 | 昭和四、一二 | 一〇〇、〇〇〇 | 鈴木昌興 |
| 株式會社清水倉庫 | 港町 | 明治二九、一一 | 一〇〇、〇〇〇 | 平川道昌 |
| 株式會社清水運送 | 港町 | 大正三、三 | 一〇〇、〇〇〇 | 平木興 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 昭和六、九 | 三〇〇、〇〇〇 | 芝月之助 |
| 株式會社清水運送 | 全港町 | 昭和三、七 | 二、五三〇、〇〇〇 | 野野榮七 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 明治三一、五 | 五五、〇〇〇 | 小池文次 |
| 株式會社清水運送 | 全港町 | 昭和四、一 | 二〇〇、〇〇〇 | 佐野容次 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 大正一四、二 | 五〇〇、〇〇〇 | 本多利造 |
| 株式會社清水運送 | 全港町 | 大正一四、六 | 一五〇、〇〇〇 | 鈴木長平 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 大正六、八 | 一、五〇〇、〇〇〇 | 井上治一 |
| 株式會社清水運送 | 新入港町 | 昭和一一、三 | 五〇〇、〇〇〇 | 高塚與平 |
| 株式會社清水倉庫 | 全江尻町 | 大正一五、五 | 三〇〇、〇〇〇 | 全平 |
| 株式會社清水運送 | 全港町 | 昭和七、三 | 五〇、〇〇〇 | 芝野榮一 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 大正九、三 | 五〇、〇〇〇 | 青野唯一 |
| 株式會社清水運送 | 全港町 | 昭和二、五 | 五〇、〇〇〇 | 平岡榮一 |
| 株式會社清水倉庫 | 全港町 | 昭和四、一二 | 一〇〇、〇〇〇 | 鈴木興 |
| 株式會社清水運送 | 港町 | 明治二九、一一 | 一〇〇、〇〇〇 | 平川道昌 |
| 株式會社清水倉庫 | 港町 | 大正三、三 | 一〇〇、〇〇〇 | 平木興 |
| 株式會社清水運送 | 全港町 | 昭和六、九 | 三〇〇、〇〇〇 | 芝月之助 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 仝 | 宮城島酒店 | 萬世町 | 大正一三、八 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 東海商船株式會社 | 仝 | 昭和二、六 | 五〇、〇〇〇 | 山田乙吉 |
| 清港木材林式會社 | 入船町 | 仝 六、九 | 一〇〇、〇〇〇 | 中村藤太郎 |
| 山明商事株式會社 | 新港町 | 仝 三、四 | 六〇、〇〇〇 | 伊藤良三 |
| 駒越製材株式會社 | 松原町 | 仝 二、八 | 一五、〇〇〇 | 內藤政登 |
| 鈴與倉庫株式會社 | 入船町 | 大正七、五 | 一〇〇、〇〇〇 | 望月貞作 |
| 富士水產株式會社 | 清水 | 昭和七、一一 | 五〇、〇〇〇 | 鈴木與平 |
| 清水醬油株式會社 | 村松 | 大正一三、一 | 一〇、〇〇〇 | 山梨重多 |
| 株式會社不二見實行社 | 駒越 | 仝 二、一〇 | 二、〇〇〇 | 岩崎啓次郎 |
| 仝 三保造船所 | 三保 | 仝 八、五 | 三、〇〇〇 | 植田猪吉 |
| 合資會社青木材木店 | 辻町 | 昭和八、六 | 五〇〇 | 青木勝藏 |
| 仝 石月商店 | | 仝 七、一一 | 五、〇〇〇 | 石月爲吉 |
| 仝 松本商店 | | 仝 六、五 | 一、〇〇〇 | 松本貞次 |
| 仝 昭和堂小長井時計商店 | | 仝 二、一〇 | 一、三五〇 | 小長井書助 |
| 仝 南米商事會社 | | 仝 八、四 | 一、〇〇〇 | 飯田伊平 |
| 仝 神戶自動車工作所 | | 仝 八、五 | 一、五〇〇 | 神戶善太郎 |
| 仝 高田洋服店 | | 仝 五、三 | 一、五〇〇 | 高田高吉 |
| 仝 大塚製材所 | | 仝 八、六 | 四〇、〇〇〇 | 大塚辰平 |
| 仝 セーコー自動車商會 | | 大正一五、九 | 七、〇〇〇 | 寺田忠吉 |



| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 合資會社望月兄弟商會 | 辻町 | 昭和五、五 | 一五〇、〇〇〇 | 望月益之助 |
| 仝 井出商會 | 仝 | 仝 五、一〇 | 四、〇〇〇 | 井出一郎 |
| 仝 神谷石材店 | 仝 | 仝 五、五 | 二、〇〇〇 | 神谷庄吉 |
| 仝 山崎庄十商店 | 仝 | 大正一〇、一 | 一〇、〇〇〇 | 山崎庄十 |
| 仝 望月商會 | 江尻 | 昭和八、九 | 二、〇〇〇 | 望月武 |
| 仝 望月商店 | 仝 | 大正一〇、一二 | 一〇、〇〇〇 | 望月良藏 |
| 仝 萬久吳服店 | 仝 | 昭和六、四 | 七、五五〇 | 望月育太郎 |
| 仝 盛光堂印刷所 | 仝 | 仝 六、六 | 四、〇〇〇 | 田畑太卜郎 |
| 東海製茶貿易合資會社 | 仝 | 明治三五、五 | 一〇、〇〇〇 | 石貝寸治郎 |
| 合資會社栗田吳服店 | 仝 | 昭和七、一 | 一、〇〇〇 | 栗田靜子 |
| 仝 坪井本店 | 仝 | 仝 七、一一 | 一、〇〇〇 | 坪井はつ |
| 仝 眞田百貨店 | 仝 | 仝 八、一二 | 五、〇〇〇 | 眞田千代 |
| 仝 金原商店 | 仝 | 仝 二、一二 | 五、〇〇〇 | 金原庄一郎 |
| 仝 西子洋品店 | 仝 | 仝 六、五 | 三、六〇〇 | 西子勝次郎 |
| 仝 眞砂屋商會 | 仝 | 仝 八、三 | 三、八〇八 | 望月覺太郎 |
| 仝 長田酒店 | 仝 | 仝 二、一一 | 二、〇〇〇 | 長田廣 |
| 仝 吉田書店 | 仝 | 仝 六、一 | 八、五〇〇 | 吉田正一 |
| 仝 山田喜作商店 | 入江 | 仝 八、五 | 二、〇〇〇 | 山田喜作 |
| 仝 清水興業社 | 仝 | 仝 八、三 | 三、〇〇〇 | 內田郁太 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 合資會社清水ブレーキ商會 | 入江 | 七、一 | 三、五〇〇 | 松井喜三郎 |
| 仝 鈴與自動車工場 | 仝 | 八、五 | 三〇、〇〇〇 | 栢森賜 |
| 仝 清水自動車商會 | 仝 | 八、四 | 四〇、〇〇〇 | 仝 |
| 仝 清水青果乾物市場 | 仝 | 七、五 | 三〇、〇〇〇 | 芝口虎吉 |
| 清水燐寸合資會社 | 仝 | 六、一 | 一五、〇〇〇 | 堀川喜作 |
| 合資會社マルキタ合劑製造所 | 仝 | 七、一一 | 三〇、〇〇〇 | 多喜六次郎 |
| 清水製函合資會社 | 清水 | 六、一一 | 三、〇〇〇 | 外岡松太郎 |
| 合資會社大安肥料店 | 仝 | 大正九、四 | 三〇、〇〇〇 | 松浦眞 |
| 山梨肥料合資會社 | 仝 | 明治三一、一二 | 五〇、〇〇〇 | 山梨重多 |
| 合資會社丸吉回漕店 | 仝 | 昭和五、七 | 一〇、〇〇〇 | 天野吉藏 |
| 仝 山平商店 | 仝 | 八、一一 | 一三、〇〇〇 | 山田平一 |
| 芝榮冷凍冷藏合資會社 | 仝 | 八、六 | 三〇、〇〇〇 | 芝野榮七 |
| 壽合資會社 | 港町 | 八、六 | 八五〇 | 加藤題三郎 |
| 合資會社大木回漕店 | 築地町 | 仝 三、三 | 三、〇〇〇 | 大木龜吉 |
| 仝 片山船具店 | 港町 | 大正六、一 | 三〇、五〇〇 | 片山七兵衛 |
| 仝 池田商店 | 仝 | 昭和七、八 | 四、〇〇〇 | 池田利平 |
| 仝 深江商店 | 仝 | 仝 二、一〇 | 三、〇〇〇 | 深江仙助 |
| 仝 早川回漕店 | 仝 | 仝 五、一〇 | 五、〇〇〇 | 早川政太郎 |
| 仝 菊菱工業所 | 築地町 | 仝 五、一〇 | 三、〇〇〇 | 菊地定吉 |



| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 仝 太田島組 | 萬世町 | 仝 七、一〇 | 五、〇〇〇 | 太田島萬太郎 |
| 天城製材合資會社 | 仝 | 仝 六、三 | 三〇、〇〇〇 | 横山定 |
| 合資會社安藤商店 | 仝 | 仝 五、二 | 五、〇〇〇 | 安藤半次郎 |
| 仝 三共商會 | 仝 | 仝 六、一一 | 三、〇〇〇 | 山崎泰次郎 |
| 仝 海・電社 | 仝 | 仝 五、四 | 一三、一〇〇 | 村田達平 |
| 仝 森政材木店 | 入船町 | 仝 六、八 | 三、〇〇〇 | 森榮吉 |
| 仝 北川材木店 | 松原町 | 仝 三、六 | 五、〇〇〇 | 北川春吉 |
| 仝 清月堂 | 村松 | 仝 六、二 | 三、〇〇〇 | 石上萬太郎 |
| 福島製材合資會社 | 駒越 | 仝 六、六 | 三〇、〇〇〇 | 福島庄太郎 |
| 合資會社三保製材所 | 三保 | 仝 二、三 | 一〇、〇〇〇 | 井上新太郎 |
| 仝 金指造船所 | 仝 | 大正九、二 | 一〇〇、〇〇〇 | 金指丈吉 |
| 仝 岸山製材所 | 折戸 | 仝 三、一二 | 五、〇〇〇 | 岸山常太郎 |
| 合名會社青木材木店 | 辻町 | 仝 六、一〇 | 五、〇〇〇 | 青木庫平 |
| 仝 橋本商店 | 江尻 | 仝 六、五 | 一七、〇〇〇 | 橋本季郎 |
| 仝 江鐵自動車商會 | 仝 | 仝 三、六 | 一〇、〇〇〇 | 遠藤金次郎 |
| 鶴之湯合名會社 | 松原町 | 大正一四、四 | 一〇、〇〇〇 | 足立鶴吉 |
| 合名會社遠藤商店 | 三保 | 昭和八、一〇 | 五、九九〇 | 遠藤賴久 |
| 株式會社九州石炭商會 | 辻町 | 仝 九、一二 | 三〇、〇〇〇 | 稲田民靜 |
| 清水燐寸株式會社 | 入江 | 仝 九、一二 | 一九、〇〇〇 | 山村其一郎 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 合資會社小澤兄弟製函所 | 辻町 | 全九、一二 | 三、000 |
| 合資會社池上米店 | 全 | 全九、三 | 八三七 |
| 清水貿易合資會社 | 全 | 全九、七 | 二、000 |
| 一菱商店合資會社 | 江尻 | 全九、一一 | 一八、000 |
| 小澤合資會社 | 上清水 | 全九、四 | 一、100 |
| 東郷氷糖合資會社 | 日の出町 | 全九、六 | 三0、000 |
| 合資會社濱石石炭商店 | 全 | 全九、一一 | 五、000 |
| 丸一合名會社 | 江尻 | 全九、三 | 二四、000 |
| 大力製材合名會社 | 駒越 | 全九、一 | 五0、000 |

株式會社 駿州銀行

電話 五〇二番 一七二番 七一七番

取締役頭取 平野敏
支配人 和田靜三
副支配人 望月正一
全 杉山亮太郎
調査部長 原弘
出納 秋山國太郎
庶務 若松眞
調査 松下鉄一
貸付 長谷川弘
庶務 小林仁三郎
調査 森山宗夫
全 山地長愛
全 落合治助
預金 瀧川繁雄
庶務 佐野てる
為替 杉山重太郎
預金 片平隆平
調査 坪井幸一
貸付 大村保
為替 金丸清治
調査 栗田昇平
全 樋口鐘一
預金 中村一
小澤喜十
池上堅太郎
小島國太郎
高野春重
小澤茂吉
大久保庄平
丹羽乙三
杉山熊吉
酒井登志郎



文書 大塚文子
預金 中村りつ
給仕 島田幸男

## 清水支店

支店長 杉山亮太郎
貸付 櫻井鐵作
全 高木重政
出納 坪井清太郎
全 鈴木民雄
預金 齋藤泰一郎
為替 鷺坂雄藏
預金 宮城鳥忠男
計算 小川はな
預金 風間信一

## 美濃輪支店

支店長 前島宇之吉
貸付 龜封川不二雄
預金 瀧戸孝太郎
為替 小澤繁司
預金 岩崎春太郎

## 袖師支店

支店長 山田重多
為替 川島剛
預金 市川茂夫
若松喜重
鈴木民雄
計算 川崎勝

## 庵原支店

支店長 瀧川學二
為替 青木勇作
預金 原西
全 西ヶ谷正

## 飯田支店

支店長 望月順作
貸付 鈴木藤一郎
預金 栗田完
全 上田久夫
全 杉山高三
給仕 長澤日出二

## 興津支度

支店長 山田清治
為替 伏見延一
預金 朝倉肇
全 石川敏朗
全 望月昌男

## 由比支店

支店長 原寅一
出納 北條茂夫
預金 小林茂雄
貸付 大勝忠四郎
全 高田吉之助

爲替　原喜一
預金　山本重夫
仝　望月民雄
仝　大瀧宏太
給仕　平田千秋

## 蒲原支店

支店長　小林彦太郎
爲替　内田竹次郎
計算　小林周次
出納　草ヶ谷藤一郎
預金　磯部萬太郎
仝　吉田芳造
仝　久保田一男

## 岩淵支店

支店長　望月富一
貸付　瀧重藏
預金　常磐稔

貸付　雨宮周次
出納　植松守雄
預金　望月眞一
仝　森中鐵雄
爲替　望月貞一郎
計算　望月由右工門
給仕　小林正衛

## 松野支店

支店長　望月正一
貸付　錦織薫
爲替　望月昇
預金　武下市松
出納　吉田好一
預金　朝比奈辰雄

## 入江出張所

出張所長代理　鈴木茂雄

## 三保出張所

出張所長兼出納　宮城島孝

## 本町出張所

出張所長　木月昌訓

## 富士川出張所

出張所長　伊藤延吉

## 豐年製油株式會社

## 清水工場

電話六〇四・六〇五・六〇六

取締役工場長　原田三左衛門
經理部　池田滿次郎
栗本謙吉
伊奈房吉
池川鏡太郎
和泉薫
岡部馬吉



加藤泰三郎
田中大六郎
村岡昌太郎
山梨市太郎
山本光男
城戸誠一
平岡甲
日比房吉
谷本英彦
渡邊武一

工務部

山田三子男
横田幸雄
中島顯三
長濱庄次郎
馬瀨菊松
金藏
齋藤實郎
村松政太郎
池田正美

佐藤照義
鹽谷精
三浦三雄

## 清水食品株式會社

電話九一七・六五〇番

取締役社長　鈴木與平
專務取締役　植田朋八
取締役　稻名龜造
仝　宮本惣平
取締役工場長　村上芳雄
監査役　植田猪吉
仝　上中甲堂
庶務、會計　高井芳樹
鹽津辰雄
島崎圭二
榛葉文代
望月常男
西村つや子

輸出、販賣
山田五雄
土屋惠司
深澤桂一郎

營繕
大關榮一

勞務
馬場四郎
淺田芳哲

第一工場
森山保
藤下滿司
千葉久志
阿部金五
野中登代二
鈴木平三
御園榮一
眞汐大策

第二工場
小塚太郎
芦川嘉一
丹野善雄
杉本達也

研究室
津田眞平

冷藏庫　坂間青次郎
　　服部源作
　　興津工場
　　電話興津二二四番
工場　大蝶武夫
　　小笠原英
　　吉田謹司
庶務、會計　鈴木彊

## 株式會社巴川製紙所

（清水工場清水六六六・六九八番
電話　用宗工場靜岡三〇九　用宗一一〇番
東京出張所　牛込　三三二・四二三番）

取締役社長　井上源之丞
取締役支配人　井上光冶
取締役　杉本留吉
　　松本新太
　　岡田顯三
監査役　中內鉉一郎
　　小壇孫八
技術部長　高橋清
抄造課長　土井淑行
抄紙課長　佐野銀次郎
原質課長　岡明
業務課長　小林庄藏
工作課長　安野信次郎
經理課長　鈴木乙作
　　住卓三
　　渡邊治三郎
　　永田弘
　　鈴木鎭三郎
　　湯山欣祐
　　杉本錦司
　　井出幸太郎
　　吉澤彌一
商務課長（東京出張所勤務）　白井利武
　　八代武次
　　田中保造
　　大芝利三郎
　　觀音寺忠男
　　金原鐘五郎
　　岡明
　　小杉次夫
　　金田正一
　　山田清
　　淺原茂
　　伊田正典
　　小林暉
　　天野四郎吉
　　小栗勝平
　　菊地欽次郎
　　青山忠雄
　　盧澤良基
　　川口保男



## 綾羽クッシタ株式會社

清水市外有度村北脇五〇〇番地
電話一〇一四番五九一番
資本金二百萬圓（六十萬圓拂込濟）

取締役會長　伊藤忠兵衛
專務取締役　居初寛二郎
取締役　井上富三
　　豐田利三郎
　　功刀寅次
　　松岡潤吉
　　岸本吉左工門
監査役　笠原正吉
　　村西芳介
　　吉川兵次郎
技師長　橋本半一郎
取締役社長　植田猪吉
常務取締役　遠藤茂助
取締役　小野田喜逸
　　植田明八
取締役技師　道家長松
監査役　青嶋清一
庶務　遠藤茂
　　足立數夫
　　益田利郎
庶務　野海道寛
　　村上順作
　　三谷善雄
　　池谷省次郎

## 伊藤鉄工所

（電話七八五・七八八）

主所　伊藤德太郎
監督　伊藤清
設計　杉山憲治
工務　竹下正市
職工長　望月勘藏
運轉係長　白鳥章

## 株式會社三保造船所

（電話三保五十九番）

所主　金指丈吉
支配人　金指吉昭
造船　高野武吉
　　山田善吉
造機　太田一夫
　　石井富八
電氣　小林一

## 合資會社金指造船所

（電話三保五二番）

庶務　高坂武夫
　　白鳥福壽
　　高坂和夫

## 鈴與商店

電話（四・七六・七七　七八・二六八番）

店主　鈴木興平
總務部　上中甲堂
販賣部　新井勵三郎
木口波之助
望月竹次郎
渡邊良
望月敏
田中壽之助
山田正男
小澤竹藏
羽田友三郎
山崎留至
中村順一
山口誠太郎
安藤眞佐志
回漕部　花田榮一
志村福次
增田長五郎
上田英雄

作業部
山中謙吉
遠藤恭平
石井光太郎
長阪正夫
加藤勘一
堀川敏夫
渡邊定吉
竹田辰藏
村岡祐一
大瀧長吉
壷津義雄
鈴木清
加藤愼三
山崎彦策
三津山初太郎
鳳間義郎
瀧橙一
佐野正一
山內薰次郎

輸出部
鈴木純平
河村常吉
龜田唯作
池田吉雄
服部正雄
船舶部　萩原平八郎
望月恒一
添田甲龍
松田稔
共和商會派遣
本多正衛
野崎聰吾
石油部　室伏勝義
久門邦忠
村松陽一
岩崎忠
北澤英一
平野睦雄
川崎幸太郎



望月春江
小澤益枝
石川菊代
小蒸汽・自動車部　澤野鼎彌
寺田龜男
稻葉浩吉
大多和武
道具部　原田萬次郎
電車並ニ東京灣　齋藤勘吉
會計部　三浦孝吉
堀井・麻夫
長谷川得
影山信樹
保坂喜作
初田健一
辰巳秀一
庶務・保險部　三木正平

須藤一夫
深尾重彥
杉山義太郎
松永香苗
橫澤忠一
渡邊金一
河合愼吉
川口鐵藏
飯田一郎
熊谷光男
鍋田康次
望月茂
小林かね
鈴木かね
大瀧ふみ
澤野つね
小川完治
中川銀藏
堀川政市
煉炭工場

吉田光雄
松井英一郎
原峯吉
齋藤誠夫
小澤滋司
久貝春二
自動車工場　櫻井源作
新井市太郎
加藤貞雄
小池敏夫
久保田安太郎
小林雅平
青島卸策
杉山三吉
山田つね子
喜多川禮二
中西章
石井政雄
室井光治

志村秀吉
菅野義博
鈴木八郎
狭山茂治
西田寛三郎

倉庫部

柏森賜
井田仁
杉山三藏
登澤幸三
井上精一
松坂寅雄
池田龜太郎
桑原芳太郎
薩川敬一
石川修治

本店所屬顚

森源八
風間米作
八木庄作
青木福松

村上長吉
村岡源次郎
川口定吉
澤野乙吉
酒井重太郎
杉本七藏
增田伊八
石川修治
山田猛
鞭谷定雄
若杉守司
鈴木正平
近田辰三郎
加藤喜三郎
平野角右衛門
秋鹿貞彦
大澤辰雄
笹瀨律治
梅田豊

豐橋支店

豐橋煉炭工場

濱松出張所

齋藤恒三郎
杉本幸衛
藤田安治
曾根幸吉
彦坂國夫

濱松煉炭工場

鹽崎浦治

四日市出張所

大黑三藏
半田支店
野中藤平
石野清
大岩兼重
澤井和策

東京出張所

武照雄
高橋長壽
齋藤彌三郎
鹽澤茂男
片田興貴

甲府出張所

青木秀太郎
山本勇治
小林仙太郎



平間曉一
玉置信治
山口四郎
小松操
百々豐

大連出張所

横山正二
北村芳朗
岡田千代子
楊壽域
呂銘晴

柏蔭會

村岡祐一
西川幸太郎
風間繁太郎
兼岩元城
府川新太郎
坂川やす
大石壽賀
三浦隆
出口金一郎

清水運送株式會社
（電話七四二・七四三・九七三番）

取締役社長　鈴木與平
專務取締役　原田實
取締役　入谷麟助
藤浪芳作
長坂至
栢森賜
天野九右衛門
大木萬作
鈴木眞治
望月和一郎
上中甲堂
山田勝四郎
杉本敬一
坂川やす
大石壽賀
庶務係長兼服部清作
中島勇

經理係長　入海かね
小川常吉
平野峯治
高田邦太郎
青木春吉
大木享一
鈴木新作
北村房子
中野はつ
松永與一
發送係長　米山卯太郎
望月龜之助
外岡粕平
高木千次郎
內田三郎
松永與一
到着係長　外岡粕平
牧田劍次郎
現場　大瀧五郎

山本萬吉
外岡慶治

清水驛支店

支配人・入谷麟助
庶務會計係長　入谷麟助
久保田惣吉
望月忠義
山本俊一
杉山正一
池田くめ
貸切發送係長　長坂至
若林光義
芦川喜美
井木茂
小口發送係長　藤浪芳作
田島彌四雄
出口幸作
今澤九平

山本倉雄
植村虎雄

到着集配係長　増井謹吾
長谷川曜治
杉山賀作
勝又壽雄
池上好次郎
飯田鎌三郎
岩岡治平
外岡友三
鳥羽義平
太田新助
太田壽三郎
加茂幸次郎
川島庄吉
海野善雄
宇佐美小作
八木伊之助
山本勘藏

現場

後藤新次
木下和一
菊地正作
杉山邦太郎
杉山鐵吉
杉山英太郎
池ケ谷英雄
池田七藏
飯田幸次郎
服部忠
大瀧正治
川島幸次郎
丸山金太
望月和市

日本鮪罐詰共同販賣株式會社

取締役社長　鈴木與平
取締役　芝野榮七



取締役　後藤磯吉
仝　澁谷信三郎
仝　高田哲志郎
監査役　望月大太郎
仝　井出久七
仝　小野晋平

同清水支店
（電話七一八番）

支店長　小長谷義男
木村亨
鈴木兼吉
山本新吉
三木乙女
河島靜江

三菱鑛業株式會社清水出張員
（電話五四番）

原泰助
前田俊一

東洋製罐株式會社清水出張所
（電話一〇一一番）

高草木雅雄
長田菅男
小笠原勇太郎
土肥元太郎

青木運送株式會社
電話（本店五〇八・五〇九・六七二　江尻支店二九二・八〇八番）

專務取締役　望月益之助
取締役　野崎久次郎
取締役兼江尻支店長　望月鐵吉
仝　堀内省吾
監査役　入澤寅吉
仝　石川義明
取締役　望月武

株式會社天野回漕店
（電話七九四・七九五番）

取締役社長　天野九右衛門
取締役支配人　平岡昌一
山下良一
前田幸一
掛井金德
大木久男
八木隆
鈴木新作
帶金佐之助
石ケ谷明
木下開一郎

合名會社淺野信治商店清水出張所
（電話五五一番）

中村正雄
今井功

**北村回漕店清水支店**
（電話五五四番）

社長　吉弘嘉助
專務　志田市太郎
仝　鈴木鎭一
取締役　尾島元治
仝　神尾信一郎

**早川回漕店**
（電話一九九番）

仝　原榮作
仝　竹内福三郎
仝　大和田由衛
監査役　春田猪作
仝　前川五三郎
相談役　望月久彌
仝　高木条太郎
仝　服部菊吉
仝　片山七兵衛

**大木回漕店**
（電話一〇番）

大木龜吉
千葉和作

**丸吉回漕店**
（電話一、〇八七番）

天野吉藏

**清水冷凍製氷株式會社**
（電話七八一番）

常務取締役　内藤政登
社員　宮内禮道
太田龍三郎
山口菊次郎

**山明商事株式會社**
（電話三一一二番）

大塚勘太郎
深澤登

**清水倉庫株式會社**
（電話二九九・一八八番）

取締役社長　前川道平
取締役　中村圓一郎
仝　鈴木與平
監査役　杉坂慶平
従業員　竹内辰雄
櫻田啓次郎
益田英太郎
柴尚司
小長谷孝太郎

**三井物産清水出張所**
電話五一九・六二五・六二六番）

首席　柴山正男
首席代理　高木一郎



日下部義雄
奥田健
加藤不二男
濱田扶

久保田清春
渡邊安太郎
小野田晉治
風村道太郎

佐野光子
田邊金子
水崎ふみ
青木力藏

## 清水商工會議所

清水商工會議所は昭和五年五月創立し現在顧問六名、會頭一、副會頭二、議員三十名、理事一名、職員三名であるが議員を常議員、商業、工業、交通、理財、觀光以上の六部門に分つて夫々專門的に商工業の發展向上に資して居るが今や商工會議所の立場は商工業者の重要なる機關となり、事務的にも政治的にも益々多忙となり其の施設に於てもより擴充の必要に迫られて居るので近き將來に於て大商工會議所の設立を計劃し目下建築費を積立中である。

**清水商工會議所**
（電話一一八〇番）

顧問　神田博
大石惠直
高島嘉勝

會頭　山田勝四郎
副會頭　中村藤太郎
仝　小畑英五郎
仝　原田三左衛門
常議員　小林直次
原田實
菅沼宗四郎
渡邊庄次郎
鈴木與平
中山助一

青柳市太郎
荒井榮次郎
櫻田虎藏

商業部長
佐藤覺次郎
小野壽一郎

副部長
小林保太郎
中村新太郎

坂上政次郎
榊原仙太郎
佐野享三
芝口虎吉
望月辰藏
杉本重吉

工業部長
伊藤德太郎

副部長
渡邊銀作
長島銀藏
長澤重兵衛
深江幸太郎
榊原仙太郎

交通部長
小野壽一郎

副部長
望月貞策
望月辰藏
杉本重吉
杉本敬一
坂上政次郎
長島銀藏
長澤重兵衛
村松鄉太郎
天野久右衛門
齋藤豐藏
佐野享三
高塚龜一
柴田準藏
戸田卓
渡邊清吉
村松鄉太郎
小林保太郎
天野久右衛門
水野久吉

理財部長
望月貞策

副部長
櫻田虎藏
磯田長作
戸田卓
渡邊清吉
深江幸太郎
齋藤豐藏
水野久吉

観光部長
芝口虎吉
望月貞策

副部長
磯田長作
戸田卓
渡邊清吉
深江幸太郎
齋藤豐藏
水野久吉

——職員——

理事
守屋文太郎
府川要三
望月守次
大島信男

櫻田罐詰株式會社
靜岡縣清水市三保二九四五番地
電話（清水三保）六十三番

## 電氣・瓦斯

清水市に電氣を供給するものは東京電燈株式會社で、化學工業の發達に連れて電力の需要は年々增加し本市の現在使用モーターの馬力數は三千五百八十五馬力、此の外一千四百九十四キロワットに達して居るが將來市の發展性は必然的に電力の需要に反映す可く東電清水出張所も事業の擴大に努力を拂つて居る。

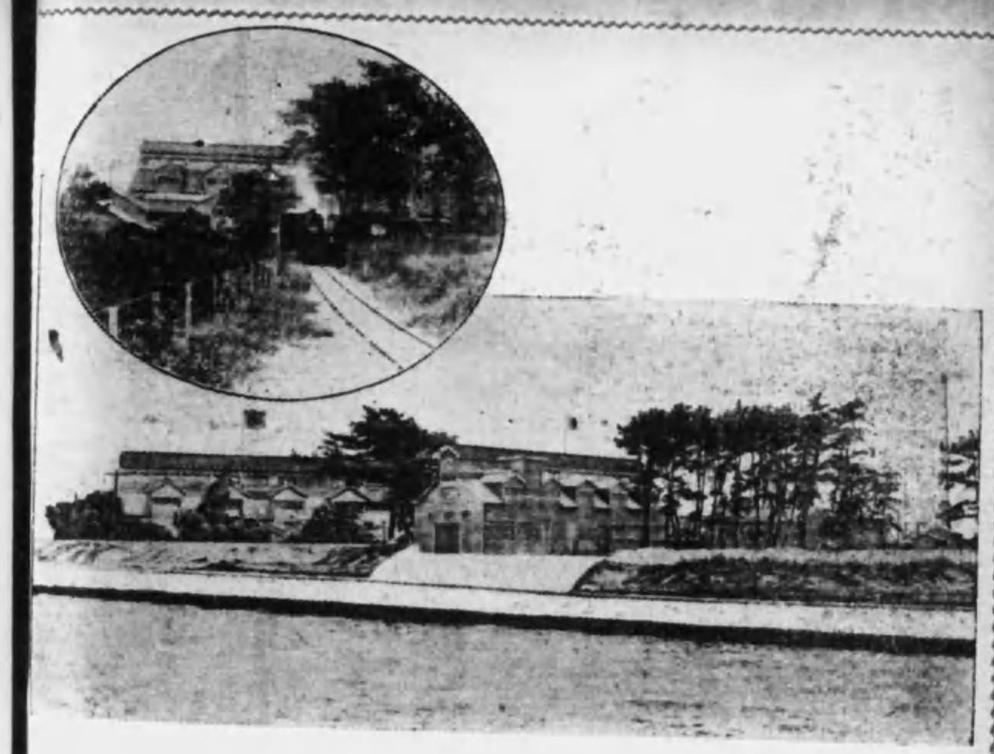
瓦斯の供給は清水瓦斯株式會社の供給に依るもので、現在利用戸數は二千五百九十六戸に達して居るが本事業も亦市勢の發展と共に擴大される性質のもので逐年躍進の一途を辿つて居る。

### 電燈

| 配電線路長 | 配電線延長 | 電柱數 | 點燈戸數 | 燈數 |
|---|---|---|---|---|
| 一一三、三二粁 | 三七七、三〇粁 | 二、三六五本 | 一二、三五三 | 三一、九六一 |

### 電力

| 馬力ニ依ルモノ | | キロワットニ依ルモノ | |
|---|---|---|---|
| 馬力 | 臺數 | キロワット | 使用戸數 |
| 三、五八五 | 二九四 | 一、四九四 | 一四 |
| 使用戸數 | | 使用戸數 | |
| 二六八 | | | |

清水港袖師海岸

株式會社 大阪製材機工作所清水工場

富士製作所

電話長清水一〇七二番
清水郵便局私書函第十六號

本社 大阪市浪速區大正橋東詰
電話長櫻川〔二七三四 二四〇八〕番

東京 東京市丸之内ビルディング三階

營業所 名古屋、廣島、久留米

# 瓦斯

| 瓦斯管延長 | 燈火引用 | | 燃料引用 | |
|---|---|---|---|---|
| | 戸數 | 燈數 | 戸數 | 臺數 |
| 六六、九一六米 | 七〇 | 八〇 | 一、四八六 | 二、五二六 |

## 東京電燈清水出張所

（電話四四五・四四六番）

所長　浦田定治
營業主任　高橋眞吾
經理主任　井上芳次郎
工務主任　原酉藏

田宮四朗
劍持專太
梅崎喜作
若杉愛吉
三輪辰男

杉山健一
鈴木房次
望月利作
庄司清一
萩壽雄
酒井克郎
坂川好太郎
鈴木觀一
望月新太郎
岩崎鎌三
山田重吉
沼本宗平

渡邊晉次郎
原可雄
安部代吉
古牧規矩郎
山本幸吉
武田松藏
川崎重作
高橋實吉
袴田德治
原儀三郎
長澤猛
杉田實



日清
高山一枝
野口喜太郎
風間久夫
細井忠雄
杉田清次
鈴木芳太郎
伴野安治
矢入賢壽
望月秀三
杉山兼吉
佐藤健作
薩川浅吉
長谷川勇吉
望月伊之助
成岡久太郎
望月榮太郎
大石鈎太郎
石野宰治

渡邊繁太郎
後藤源藏
櫻田政藏
劍持秀太郎
武岡治作

直轄派出所

中野猪之助
鈴木太七
川崎惣作
薩川延太郎
加藤留作
佐藤直太郎
伊藤廣治
吉川劍三
大石乙次郎
川崎正作
松下辰次郎
久保田平太郎

岩田榮作
海野勘一
望月豊次郎
山本三次郎
川口庄太郎
望月浅吉
河原崎佐太郎
杉山房吉
栗田伊之助
望月彌作
渡邊祐作
田ノ下百太郎
望月信吉

岩淵派出所

鈴木清作
山崎竹治
田中操
志村常雄

花田松藏
大高春太郎
青木福松

手越派出所

岩田榮作
小長井誠作
森源作
永島藤一

清水變電所

主任 唐島豊

橋本龍作
瀬戸尾三作
森崎久二
清郷作
矢入橘次
柴田源一

## 清水瓦斯株式會社

（電話五三三番）
製造所（電話九〇七番）

取締役社長 前川道平
取締役 鈴木與平
仝 中村秀平
仝 榛村專一
仝 廣田種雄
取締役支配人 杉坂三郎
監査役 雨宮惣右衛門
仝 松山高四郎
相談役 中村圓一郎
主任技術者 角田義夫
營業係供給主任 高柳龜太郎
藤村民次郎
望月隆三

萩原金太
竹山きぬ
辻龜吉
栗原繁義
佐野勇太郎
小田勇次郎

製造所從業員

栗原方次
栗田彦太郎
川崎愛太郎
堀池優



## 木材

樺太廳の出材統制に依つて北洋材移入港として知られて居る清水港は資材窮乏を告げ材界不況の壓は前年來叫ばれて居たが、此の反動として昭和九年にはラワン材、內地材、雜木の移入が激增し、移輸入總石數に於ては昭和七年度を凌駕して居るも昭和八年に比すれば尙十万石減を示して居る。

清水港需要製材、製函工場は四三、馬力數二、二三四、鋸其他四六五臺、一ケ月製材力八〇、七三〇石、職工數一、二四三人の現況を示し、入材の利用はパルプ材三二%、原材移出八%、建築材二五%製函材三五%を占め、建築材內譯は四分——六分板二〇%、棒類三五%、板類二〇%、其他二五%、又製函材はビール箱二〇%、石油型函三五%、蜜柑及果物函一〇%、梨函一〇%、雜函二五%となり以上の建築函兩材の仕向け先は關東地方へ六〇%、縣內一〇%、關西一二%、甲信並北陸一〇%、東北二%、其他六%の割合である。

### 清水港に於ける移輸入材

| 年次 | 雜木 | 樺太 北海松丸太 | 樺太 露領松丸太 | 米材 | 南洋材 | 內地材 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和元年 | 七〇、九四六 | 一、八九七、五三八 | 二九、七六七 | 七六、九〇七 | | | 二、〇七五、三六九 |
| 昭和二年 | 五九、三二三 | 一、六〇九、九一一 | 二五、四一九 | 二五、七一四 | | | 一、七二〇、三五九 |
| 昭和三年 | 五七、一六八 | 一、五七八、七三四 | 九八、五六一 | 六四、七二三 | | | 一、七九九、一五八 |
| 昭和四年 | 六四、八二八 | 一、五九二、六三八 | 三四、五九九 | 七七、九六二 | | | 一、七七〇、〇二七 |
| 昭和五年 | 四五、五九八 | 七五八、九八〇 | 一六三、〇七一 | 四五、二二四 | | | 一、〇二二、八六三 |
| 昭和六年 | 五九、〇二三 | 一、一〇三、九七六 | 一五四、三七五 | 三五、九三八 | | | 一、三五三、三〇五 |
| 昭和七年 | 五一、八五九 | 九六二、八六九 | 一四四、六四三 | 二九、三八九 | 一、五九八 | | 一、一九二、三五八 |
| 昭和八年 | 八二、四六八 | 一、一四四、八〇六 | 八〇、一二三 | 九、二三八 | 四、三三八 | 二、〇〇〇 | 二五、二七二 |
| 昭和九年 | 一一〇、一三三 | 九八四、三三六 | | 一二、五五三 | 一七、八二三 | 一一〇、〇〇〇 | 一、二四四、八三三 |

# 製材製函、仝販賣業

| 店名 | 店主又ハ代表者 | 電話番號 | 營業場所 |
|---|---|---|---|
| 山本製函所 | 山本嘉之 | 三保 三一 | 清水市三保 |
| 滿留加製材所 | 酒井鑒之助 | 仝 一〇六 | 仝 |
| 川口製材所 | 川口勝三郎 | 清水一一七二 | 折戸 |
| 西谷製材所 | 西谷保之助 | 仝 一一六五 | 仝 |
| 增田製材製函工場 | 增田麟三 | 仝 一一六九 | 仝 |
| 折戸製材所 | 佐々木又次 | 仝 一一七一 | 仝 |
| 三吉製材所 | 小花二郎 | 仝 一一六六 | 仝 |
| 酒井製材所 | 酒井榮一 | 仝 一一二五 | 駒越 |
| 福島製材合資會社 | 福島庄太郎 | 仝 一一二九 | 仝 |
| 齋藤製材所 | 齋藤義平 | 仝 一一三一 | 仝 |
| 鈴木製材所 | 鈴木昇太郎 | 仝 一一二六 | 仝 |
| 大力製材合名會社 | 酒井登志郎 | 仝 一一三六八 | 仝 |
| 兒玉製材株式會社 | 兒玉吉五郎 | 仝 一一二四 | 仝 |
| 渡邊製材製函工場 | 渡邊銀作 | 仝 一一三六〇 | 仝 |
| 不二見屋製材所 | 櫻井淺次郎 | | 松井町 |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 川口製材所 | 川口喜久司 | 仝 五三七 | 富士見町 |
| 渡邊製材所 | 渡邊通太郎 | 仝 七九三 | 仝 |
| 坂本製材所 | 坂本直樹 | 仝 一一七八 | 波止場 |
| 北川製材所 | 北川春吉 | 仝 五二一 | 松原町 |
| 仲井製材所 | 仲井政藏 | 仝 八五八 | 萬世町 |
| 北川雜木製材所 | 北川、信一 | 仝 六八三 | 仝 |
| 天龍製材株式會社清水支店 | 中村藤太郎 | 仝 六〇一 | 上清水 |
| 牧田製材所 | 牧田新一 | 仝 六三五 | 仝 |
| 大瀧製材所 | 大瀧亮一郎 | 仝 二〇五 | 江尻 |
| 川島製材所 | 川島松藏 | 仝 六八二 | 仝 |
| 西澤製材所 | 西澤三藏 | 仝 | 仝 |
| 高木製材所 | 高木彌之助 | 仝 九二 | 仝 |
| 西田製函所 | 西田政治 | 仝 六一六 | 仝 |
| 龍東材木株式會社 | 小池文次郎 | 仝 五三九 | 辻 |
| 合資會社大塚製材所 | 大塚辰平 | 仝 三九三 | 仝 |
| 合資會社新間製材所 | 新間常造 | 仝 七二〇 | 清水市外袖師村嶺 |
| 合資會社富士製材所 | 井出博 | 仝 五七〇 | 仝 |
| 青木製材所 | 青木儀作 | 仝 九七八 | 仝 |
| 合資會社丸共製材所 | 村松治郎吉 | 仝 八三三 | 仝 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 井上製材所 | | 全 | 四二六 | |
| 村田商會製材所 | 村田竹藏 | 全 | 六九五 | |
| 協立製函所 | 鈴木宗一郎 | 全 | | |
| 大澤製函所 | 大澤輔次郎 | 全 | 七〇四 | |
| 澁谷製函所 | 澁谷金作 | 全 | 四二六 | |
| 村松製函所 | 村松治平 | 全 | 八三三 | |
| 伴製材所 | 伴房吉 | 全 | 一〇〇五 | |
| 曾根材木店 | 曾根榮次郎 | 全 | 五七〇 | |
| 佐野材木店 | 佐野國太郎 | 全 | | |
| 伊藤材木店 | 伊藤誠二郎 | 全 | | |
| 青木材木店 | 青木理三郎 | 全 | | |
| 長房製函所 | 長房作次 | 全 | | |
| 池田兄弟製函桶所 | 池田三作 | 全 | 一〇一八 | 清水市幸町 |
| 小松製函所 | 小松米藏 | 全 | | 入江 |
| 杉本製函所 | 杉本三吉 | 全 | | 上清水 |
| 三浦材木店 | 三浦紋次郎 | 全 | | 上町 |
| 百々材木店 | 百々惠作 | 全 | | 入江 |
| 金原材木店 | 金原孝一郎 | 全 | | 富士見町 |
| 古川竹材店 | 古川芳作 | 全 | | 辻 |
| | | | | 波止場 |



## 原木販賣所

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 山田竹材店 | 山田辰藏 | 全 | | 清水濱町 |
| 丸山竹材店 | 丸山常次郎 | 全 | | 萬世町 |
| 牧田竹材店 | 牧田平作 | 全 | | 辻 |
| 遠藤材木店 | 遠藤大吉 | 全 | | 萬世町 |
| 大村材木店 | 大村治郎吉 | 全 | | 上清水 |
| 酒井製材所 | 酒井金作 | 全 | | 千歳町 |
| 鈴木材木店 | 鈴木良吉 | 全 | | 大手町 |
| 望月材木店 | 望月安次郎 | 全 | | 仝 |
| 糴次金材木店 | 糴次金三藏 | 全 | | 矢倉町 |
| 材平商店 | 平井伊佐男 | 全 | 一〇三七 | 萬世町 |
| 杉山商店 | 杉山頌久 | 全 | 五八八 | 仲濱町 |
| 內山材木店 | 內山條二 | | | 辻 |
| 天城製材合資會社 | 横山定市 | 全 | 八五七 | 松原町 |
| 鈴木材木店 | 鈴木正作 | 全 | 八五八 | 江尻 |
| 星野材木店 | 星野金 | | | 萬世町 |

| 店名 | 店主又ハ代表者 | 電話番號 | 營業場所 |
|---|---|---|---|
| 阪政商店 | 阪上政次郎 | 清水三八二 | 清水市辻旭町 |
| 望月貞策商店木材部 | 望月貞策 | 全一〇六五 | 松原町三丁目 |
| 清水木材株式會社 | 高塚龜一 | 全一一三一 | 新港町 |
| 增田合名會社清水出張所 | 西野彌三 | 全八九八 | 富士見橋詰 |
| 三井物產株式會社清水派出所 | 高木一吉 | 全六二五 | 港町 |
| 秋田木材株式會社清水出張員 | 見上忠郎 | 全六二六 | 松原町 |
| 島山商店 | 島山慶治 | 全七一四 | 清水上町 |
| 横山製材所清水出張所 | 大賀正吉 | 全二七七 | 松原町 |
| 清港木材株式會社 | 伊藤良一 | 全八五七 | 新港町 |
| 北海木材商會清水出張所 | 仝三 | 全六二四 | 全 |
| 小澤商店 | 小澤鐵平 | 全八二四 | 辻 |
| 香島材木店 | 香島準司 | 全一〇一七 | 萬世町 |
| 稻葉材木店 | 稻葉駒吉 | 全一〇六九 | 松原町 |
| 宮地材木店 | 宮地源吉 | 全四七三 | 入江岡 |
| 本橋材木店 | 本橋常藏 | | 萬世町 |
| 鈴木材木店 | 鈴木誠一郎 | | 下清水 |
| 梅原材木店 | 梅原邦 | | 萬世町 |



| 店名 | 店主又ハ代表者 | 電話番號 | 營業場所 |
|---|---|---|---|
| 加古材木店 | 加古柳三 | 全一五四、 | 江尻鍛冶町 |
| 白木材木店 | 白木福治 | 全七〇六 | 松原町 |
| 井澤商店 | 井澤勇夫 | 全五二九 | 入船町 |
| 山口材木店 | 山口幸市 | 全六三三 | 築地町三丁目 |
| 和田材木店 | 和田麻吉 | 全九五二 | 辻旭町 |
| 望月政吉商店木材部 | 望月政吉 | 全一九二 | 波止場 |
| 森材木店 | 森榮吉 | 全一一五五 | 入船町 |

## 木材保管業

| 店名 | 店主又ハ代表者 | 電話番號 | 營業場所 |
|---|---|---|---|
| 株式會社清水木材倉庫 | 鈴木與平 | 清水四七〇五 | 清水市入船町 |
| 鈴與回漕部 | 仝 | 全七七七六 | 仝 |
| 株式會社天野回漕店 | 天野九右衛門 | 全七九四 | 港町 |
| 清水海運商會 | 杉本敬一 | 全五二九 | 入船町 |
| 合資會社丸吉回漕店 | 池田好忠 | 全一八七 | 仝 |
| 伊東組回漕部 | 伊東嘉吉 | 全九七二 | 松井町 |

**清水木材株式會社**

社長　安本源吉
取締役支配人　高塚龜一
社員　小山廣
渡邊熊次郎
高塚敬一
鈴木繁雄
小松莊一
杉村陸
中村春雄

**清港木材株式會社**

社長　伊藤良三
大藏榮二
伊藤朝司
鈴木莊三郎
海老原武德
市川光雄
山口福一
內藤精一
鳳間松明
大野米三郎

**北海木材清水出張所**

伊藤朝司
安藤彌一
川隅文吉
安東末次

**秋田木材株式會社**
**清水出張所**

出張所主任　見上忠治
小林民雄
大島重次郎

**增田合名會社**
**清水出張所**

所長　西野彌三吉
松本光一
三井小一

**天龍製材株式會社**
**清水支店**

社長　中村藤太郎
取締役　大塚尙平
稻垣良平
高柳幸平
石野捷一
長谷川喜一
柴田延太郎
小笠原信二
內山太郎
根地島武
服部孝一
若杉靜子
東京出張所長　中村善作



**望月貞策商店**

望月貞策
小川惣平
山本健次郎
永倉正三
望月順一
木茂金作
青木勝美

**株式會社清水木材倉庫**

取締役社長　鈴木興平
取締役　松村鄕太郎
仝　中村藤太郎
仝　高塚龜一
仝　福島庄太郎
監査役　平尾源六
仝　增田麟三
仝　安藤眞佐志
從業員　岡本福松
岸端磯吉
杉本良吉
杉本榮次
小松澤茂
古賀恂

## 水産

我國第一の水産縣たる本縣の漁業中心地は清水港で、縣水産試驗場あり、幾多の罐詰工場あり、魚市場あり、冷凍會社、製氷、漁具等々漁業材料の供給設立を完備して居る爲に遠洋漁船の水揚げは巨額に達するが、清水市自体としての水産業は多く加工方面に中心を持ち昭和九年中の漁獲物二十九萬六千三百三十圓に對し加工品は三百七十七萬九百四十圓を算して居る程である。尙ほ此の外三保海苔折戸牡蠣の養殖物が有名であるが清水港の發展に連れてこれ等の産額は漸次減退し二十二萬三千餘圓に止まつて居る。

## 水産業者

| 漁撈 | | 養殖 | | 製造 | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 本業 | 副業 | 本業 | 副業 | 本業 | 副業 | |
| 六三六 | 九六一 | 七九 | 一、五七二 | 九七 | 七九 | 三、四二四 |

## 漁船

| 動力船 | 無動力船 | 計 |
|---|---|---|
| 一一二隻 | | 二三二隻 |

| | | 計 |
|---|---|---|
| | | 三四四隻 |

## 水産漁獲物

| 品名 | 數量（貫） | 金額（圓） |
|---|---|---|
| 鰯 | 四五八、〇〇〇 | 四五、八〇〇 |
| 鯖 | 一七、八一六 | 一三、一八四 |
| 鮪 | 六、一三〇 | 六、一三〇 |
| 鯛 | 二、七一〇 | 九、四八五 |
| 其他魚類 | 一七六、一五七 | 一六四、三一五 |
| 貝類 | 一五、四二〇 | 四、六四一 |

| 品名 | 數量（貫） | 金額（圓） |
|---|---|---|
| 鰕 | 一〇八、〇〇〇 | 四八、六〇〇 |
| 其他水産物 | 二、〇〇〇 | 四、一七五 |
| 合計 | 七八六、二三三 | 二九六、三三〇 |

## 水産加工品

| 品名 | 數量 | 金額（圓） |
|---|---|---|
| 鰹節 | 五〇、〇〇〇貫 | 二七五、〇〇〇 |
| 其他節類 | 四一、四〇〇 | 九四、九二〇 |
| 罐詰 | 八六七、二六一函 | 三、〇三三、七七二 |

| 品名 | 數量 | 金額（圓） |
|---|---|---|
| 其他食料品 | 二四〇、六〇〇貫 | 三四一、一一三 |
| 其他製造品 | 九九、五〇〇 | 二六、一三五 |
| 合計 | — | 三、七七〇、九四〇 |



## 水産養殖物

| 品名 | 面積 | 金額 |
|---|---|---|
| 牡蠣 | 三、〇七一坪 | 七三、〇六八圓 |
| 海苔 | 五、二三九坪 | 一五〇、〇〇〇圓 |
| 合計 | 八、三一〇坪 | 二二三、〇六八圓 |

## 静岡縣水産試驗場

（電三三五番）

地方農林技師　場長　正六　後藤節藏

全（水産課兼）從六　五十嵐昭　江良至德

農林主事補　太田金藏　指導船富士丸　船長　増田與平

農林技手　伊藤育三　機關長　森田秀吉

全　見壇忠海　無線電信手動七　中村佐代

無線電信手動七　木下杉松　取締船天龍丸

船長　正八井出辰次
機關長　増田令一
無線電信手　水野末吉
仝　天城丸
船長　有原初三郎
機關長　山口貫志
無線電信手　増井亮
魚群探見飛行士囑託
柴田德藏
黒瀬寅雄
藤本善雄
無線電信手　仝　大野源治郎
航空機關士　仝　梅本幸一

清水市水産會

會長　石野又七
副會長　天野龍太郎
評議員　山本幸吉
柴田久工門
岩崎金次郎
宮城原猪之吉
池田光太郎
大川米吉

三保濱漁業組合
組合長　宮城島猪之吉
駒越濱漁業組合
組合長　齋藤久藏
増蛇塚濱漁業組合
組合長　丸山久八
村松宮加三濱漁業組合
組合長　池内光太郎
清水港漁業組合
組合長　天野龍太郎
江尻町漁業組合
組合長　大川米吉

## 農業

清水市の耕地は都市の發展と共に漸次其の面積を縮少し、特に都市計劃街路の完成は此の現象に拍



車を加へたもの、如く農業人口の減退と共に農作物産額も漸減を辿つて居る。併し本市は溫和なる氣候を利用して蔬菜園藝が發達し、市内への供給のみに止まらず東西市場へ出荷して珍重され清水市特産として名を成すに至つたが石垣苺等は其の顯著なるものである。梨、蜜柑等の果實、茶等は特に本市と云ふのでは無いが重要なる産物で、産額の上から見れば此の果實が第一位で三十萬九千三百圓、次が米麥食用農産物二十七萬九千四百七十六圓、園藝産物の二十萬五千八百圓等の順位となつて居る

此の外畜産額十八萬九千圓は逐年増額を示して居るも、林産の二千八百圓は漸減である。

### 農業戸數及人口調査

| | 戸數 | 本業 男 | 本業 女 | 副業 男 | 副業 女 | 計 男 | 計 女 | 計 計 | 自作人及小作人 自作 | 自作人及小作人 自兼小 | 自作人及小作人 小作 | 自作人及小作人 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 一、六〇三 | 三、一三七 | 一、六六二 | 四七三 | 二三一 | 三、六一〇 | 一、八九三 | 五、五〇三 | 一、三六二 | 二、四五三 | 一、六八八 | 五、五〇三 |
| 昭和八年 | 一、六二三 | 三、一四三 | 一、六六三 | 四六五 | 二三九 | 三、六〇八 | 一、八九二 | 五、五〇〇 | 一、三六二 | 二、四五二 | 一、六八六 | 五、五〇〇 |
| 昭和七年 | 一、六〇二 | 三、一五八 | 一、六六五 | 四五〇 | 二二七 | 三、六〇八 | 一、八九二 | 五、五〇〇 | 一、三六二 | 二、四五二 | 一、六八六 | 五、五〇〇 |

### 米麥其他食用農産物

| | 作付反別 | 收穫高（石） | 金額（圓） |
|---|---|---|---|
| 米 | 三、九一六 | 七、五一九 | 一九八、二〇九 |
| 麥 | 二、二三五 | 三、三八二 | 三四、八八一 |
| 蕎麥 | 四二 | 四二 | 三三六 |

## 園藝農產物

| | 作付反別 | 收穫高（貫） | 金額（圓） |
|---|---|---|---|
| 合其隱里玉人大ト茄西南胡マ | | 一三、〇〇〇 | 六、五〇〇 |
| 計他元芋慈參根ト子瓜瓜瓜 | 二六 | 二〇、〇〇〇 | 三、〇〇〇 |
| | 一五五〇〇 | 六〇、〇〇〇 | 一五、〇〇〇 |
| | 四五八〇〇 | 四〇、〇〇〇 | 八、〇〇〇 |
| | 四〇〇〇 | 二二五、〇〇〇 | 六三、〇〇〇 |
| | 一〇 | 四〇、〇〇〇 | 三二、〇〇〇 |
| | 三〇〇 | 四、〇〇〇 | 八〇〇 |
| | 三五〇 | 一三五、〇〇〇 | 二四、三〇〇 |
| | 二五〇 | 一四〇、〇〇〇 | 二八、〇〇〇 |
| | 二二四 | 三二五貫 | 六、五〇〇 |
| | 二、二九〇 | 二八、七〇〇 | 一八、七〇八 |
| 合其馬甘飴計他薯藷 | 九三〇 | 二七九、〇〇〇 | 二五、一一〇 |
| | 二〇〇 | 八〇、〇〇〇 | 一八、四〇〇 |
| | 二二四 | 一三八 | 二、五四〇 |
| | 七、五四七 | 三七〇、〇八一 | 二七九、四七六 |

## 果實

| | 樹數 | 收穫高 | 金額（圓） |
|---|---|---|---|
| 梅 | 五一一本 | 六一石 | 九一五 |
| 桃 | 一、二一〇本 | 二、三二〇貫 | 八一二 |
| 枇杷 | 六〇七本 | 一、一二〇貫 | 四四八 |
| 苺 | 三八〇反 | 七五、五五一棚 | 二四八、二〇〇 |
| 柑 | 四〇、一二七本 | 一八八、八九六貫 | 四七、二二四 |
| 橘 | 六、七九五本 | 六八、二五四貫 | 一一、六〇三 |
| 計 | | | 三〇九、二〇二 |

## 畜產物總額

| | 家畜 數量 | 家畜 價額 | 家禽 數量 | 家禽 價額 | 產卵 數量 | 產卵 價額 | 牛乳 數量 | 牛乳 價額 | 價額合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 四九〇 | 二、六五九円 | 五八、三四四羽 | 五九、四六円 | 五、〇一四個 | 一〇〇、三一〇円 | 六六九石 | 二六、七六〇円 | 一八九、一五七円 |
| 昭和八年 | 五七二 | 二、九八一 | 五二、〇〇四 | 五七、四九九 | 四、五八、九三三 | 九一、一九二 | 六六八 | 三、八〇〇 | 一八五、五七一 |
| 昭和七年 | 四二七 | 二、三三三 | 五八、六四〇 | 五三、九三一 | 四、九六、九三〇 | 九、五二一 | 六二一 | 三〇、五五〇 | 一六六、〇四五 |

## 林產物

| | 新材 | | | 竹材 | | | 林野產物 | 價額合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 伐採面積 | 數量 | 價額 | 伐採面積 | 數量 | 價額 | | |
| 昭和九年 | 四反 | 四石六斗 | 三、三八円 | 二反 | 四石六斗 | 六〇円 | 二、四七四円 | 二、八七二円 |
| 昭和八年 | 四五 | 四五〇 | 六六〇 | 一 | 五〇 | 六七 | 二、四七八 | 二、九〇五 |
| 昭和七年 | 七八 | 七七五 | 六二〇 | 五 | 一九五 | 二六三 | 二、五七五 | 三、四五八 |

## 清水市農會

（電話三〇〇番）

顧問　大石惠直　堀辰吉　宮城原權太郎　鈴木平六　中村安太郎　櫻田鄉太郎　山本佐平次　太田文作　齋藤鉎太郎　高塚敬太郎　池田光太郎　杉本万吉　石本正作　宮城島源作　本田伊之助

會長　菊地金作

副會長　宮城原源作

幹事　中川宗太郎

評議員　山本惣作　井上爲吉　松本孫平　望月眞一　長澤龜太郎　石野源七　岩品兼吉　長澤龜太郎　望月安次郎　堀辰吉　川口忠太郎　藤下三作　遠藤友吉　杉山秀吉　宮城原權太郎　杉村兼吉　櫻田松次郎　村瀨熙一郎



## 金融

片山龜太郎　若杉虎吉

山田久作　萩原大吉

（職員）技師　水野信

清水市に本支店を置く銀行は二で、他所の支店は八、合計十行あり昭和十年中の金融狀態を見るに預金一〇九、四一五、三一六圓に對し貸付金は四二、五〇四、五七八圓を示し、銀行貯金は三十三萬二千圓、郵便貯金十三萬三千五百餘圓等となるが此の外產業組合でも五十三萬八千七百餘圓の貸付、五十四萬一千五百餘圓の貯金を持つて居る。手形交換高は枚數三萬六千三百餘枚に及び其の金額は一千三百七十一萬六千圓、殘高五百八万三千七百餘圓に及んだ。又庶民金融機關としては市營公益質舗の外民間には十五店あり一ヶ年八万四千四百餘圓の營業成績を示して居る。

## 銀行

| | 行數 | 資本金 | 拂込高 | 準備金 |
|---|---|---|---|---|
| 當所本支店 | 二 | 二、五二〇、〇〇〇円 | 一、六三三、五〇〇円 | 二九三、一〇〇円 |
| 他所支店 | 八 | — | — | — |
| 計 | 一〇 | 二、五二〇、〇〇〇 | 一、六三三、五〇〇 | 二九三、一〇〇 |

## 銀行貯金

| | 預り高 | 拂戻高 | 年末現在 人員 | 年末現在 金額 | 年末現在 一人平均額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 三三、〇七六円 | 三三、九〇二円 | 三、三六六人 | 二四八、五六〇円 | 六四 七円 |
| 昭和八年 | 五六六、三四九 | 四四二、四〇〇 | 六、五六五 | 四三二、二〇六 | 六四 |
| 昭和七年 | 二五九、七六九 | 二二三、八九三 | 三、九八二 | 二七一、八六〇 | 六九 |

## 郵便貯金

| | 預入 口數 | 預入 金額 | 預入 新規預入人員 | 拂戻 口數 | 拂戻 金額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 一六三、五八七 | 一、三六九、二九五円 | 六、五一九 | 四二、九〇八 | 一、四七五、三三四円 |
| 昭和八年 | 五二三、六二九 | 一、二五八、一〇八 | 六、四六五 | 三九、五九四 | 一、五三三、五二九 |
| 昭和七年 | 二二〇、八〇八 | 二、四〇六、九七四 | 九、一六二 | 三五、四九〇 | 一、九三〇、七四三 |

## 手形交換高

| | 組合行數 | 枚數 | 交換高 | 交換殘高 |
|---|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 一〇 | 三六、三五七 | 一三、七一六、〇四九円 | 五、〇八三、七八一円 |
| 昭和八年 | 一一 | 三三、七五〇 | 一一、七一七、四八二 | 四、一九〇、四七二 |
| 昭和七年 | 一二 | 二〇、五四二 | 二九、四〇四、三八二 | 三、四三〇、七五二 |

## 産業組合

| 組合數 | 組合員數 | 拂込濟資本金 | 諸積立金 | 借入金 |
|---|---|---|---|---|
| 五 | 一、九五八 | 一四五、〇〇〇 | 一〇、八八四 | 九八、〇八一 |

| 質付金 總額 | 質付金 一組合員當り | 貯金 總額 | 貯金 一組合員當り | 販賣高 | 購買高 |
|---|---|---|---|---|---|
| 三八、七六六円 | 二五七円 | 五四一、五八一円 | 二七七円 | 一七、〇〇一円 | 一〇八、三六四円 |

## 質屋貸金

| | 店數 | 年内 受質金額 | 年内 流質金額 | 年末 口數 | 年末 金額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 昭和九年 | 一五 | 八四、四八六円 | 七、四三六円 | 四一、一〇一円 | 七七、四四六円 |

## 駿河銀行清水支店
（電話六三一番）

支店長　山梨弘
支店長代理貸付　堀辰吉
出納係　三木作次郎
當座係　藤浪一郎
預金係　兼高啓作
仝　芝田敏郎
爲替係　青木茂
計算係　杉山清一

駒越出張所
主任　伊藤榮太郎

三保出張所
主任　池田作太郎

## 三十五銀行清水支店
（電話三五五四二・三五五四三番）

支店長　田中穂輔
支店長代理貸付係　田邊榮一
仝　長阪湜
預金係　木下角四郎
仝　芦川理一
仝　遠藤保男
爲替係　青島光一
仝　戸山悟良
仝　小山光治
仝　伏見清太郎
出納係　西子武雄
仝　杉山勇
仝　齋藤二郎
市金庫出納係　劒持義雄
仝　田中億鍬
計算係　鈴木俊太郎
仝　福村正志
事務員　天野節子
仝　遠藤靜子
仝　小川市子

## 三十五銀行志茂町支店
（電話一三五・一五一番）

支店長心得　池上俊夫
支店長代理　壇津眞一郎
預金係　篠塚洗耳
仝　小長谷昌光
爲替係　木下清次郎
出納係　山梨勘四郎



計算係　公金係　葉山好雄
事務員　前島八重子

## 三十五銀行江尻支店
（電話一三五・一五一番）

支店長　佐藤牧平
支店長代理　杉山清次
貸付係　梅島進
預金係　原田豐
爲替係　池谷源一
預金係　山本誠
仝　漆畑靜治
爲替係　內海正太郎
仝　山下幹
出納係　本間金造
仝　千葉清作
計算係　小西重兵衛
貸付係　藤浪幸雄
事務員　兼高はる
仝　杉本靜子

## 伊豆銀行清水支店
（電話七七一番）

支店長　川口嘉一
支店長代理貸付　岩邊彌之助
庶務係　風間嘉重
預金係　北村千吉
爲替係　宮城島敏雄
計算、預金係　別所勇吉
出納係　西脇幸子
貯金係　中田金造
江尻出張所
主任　山本文夫

## 駿河銀行清水驛支店
（電話一七〇・一一八六番）

支店長　望月謹彌
支店長代理貸付係　坪井敬司
貸付係　栗田清
貯蓄係　鈴木馨
定期、爲替係　山梨千之
爲替係　太田可吉
出納係　伊藤龜吉
出張所係　沼田宗一
預金係　山崎春海
仝　國持質郎
計算係　鈴木博
飯田出張所
主任　風間浪之助
庵原出張所
主任　鈴木郷平
江尻出張所
主任　深澤卯兵衛

**駿河無盡株式會社**
**清水出張所**
（電話七六六番）

所長　高橋元吉
整理　芹澤仙太郎
仝　樋口乙次郎
集金員　森清
仝　川島松吉
事務員　野尻泰子

**西遠無盡株式會社**
**清水出張所**
（電話二三一番）

所長　山本新也
次長　野村長太郎

社員　川部幾太郎　大塚新一郎　鈴木鏗一　八木一男　杉山弘一　擔阪作次　風間育雄　山本新太郎　鈴木てる　加藤道子　萩原富次郎

**有限責任清水市信用組合**
（電話四七七番）
本町事務所（電話五六七番）
魚町事務所（電話二三六番）

組合長理事　小川隆三
理事　吉田正一　山梨重多　山田昌榮　望月和一郎　岩本宗作　角田德次郎
常務理事　小川篤三
監事　榊原仙太郎　山田政吉　佐津川彌作　永長善藏



# 貿易

## 通觀

昭和九年清水港の貿易狀況を見るに總額三千九十一万九千八百六十二圓中輸出額は一千四百六万五千四百五十五圓にして輸入額は一千六百八十五万四千四百七圓となり結局二百九十一万九千八百六十二圓の輸入超過に終つたが前年は總額三千二十万五千三百四十二圓中輸出は一千六百三十六万九千六百七十五圓輸入一千三百九十三万五千六百六十七圓にして二百三十三万四千八圓の出超を示し、これに比すれば本年は總額に於ては七十一万四千五百二十圓增加し輸入に於ても二百九十一万八千七百四十一圓增となるも輸出は振わず結局二百二十万四千二百三十圓の減退となつて居る。此の外移出入を見れば移出に於て一百三十三万四千九百十二圓、移入に於ては二千四百十一万七百五十八圓、合計二千五百四十四万五千六百七十圓を示して居る。

而して船舶入港數は外國航路船三百四十隻、朝鮮航路船七十二隻、內航船五百三十三隻、合計九百四十五隻、總噸數四百万五百三十二噸となつて居る。

## 十ケ年貿易統計

（單位千圓）

| 年次 | 輸出額 | 輸入額 | 總額 | 輸出入超過額 |
|---|---|---|---|---|
| 大正十四年 | 一六、六〇八 | 一八、三三四 | 三四、九四二 | △ 一、七三六 |
| 昭和元年 | 一四、三九九 | 二〇、九八六 | 三五、三八五 | △ 六、五八七 |
| 昭和二年 | 二二、四二二 | 二七、四二二 | 二九、八三四 | △ 五、〇一〇 |
| 昭和三年 | 二三、八七八 | 二九、七九〇 | 三二、六六八 | △ 五、九二二 |
| 昭和四年 | 二五、八七七 | 二三、二九四 | 三八、一八一 | △ 七、四〇七 |
| 昭和五年 | 二二、六六六 | 一六、三二四 | 二六、九九〇 | △ 三、六五七 |
| 昭和六年 | 九、八七九 | 二二、五七三 | 二二、四五二 | △ 一、六九四 |
| 昭和七年 | 二二、六二五 | 二二、七八四 | 二三、四〇九 | △ 二九九 |
| 昭和八年 | 一六、三二二 | 二三、九三五 | 三〇、二四八 | △ 二、五七六 |
| 昭和九年 | 二四、〇六五 | 一六、八五四 | 三〇、九一九 | △ 二、七八八 |

## 清水入港船舶

（昭和九年一月—十二月）

| 航路 | | 外國航路 | 朝鮮航路 | 內國航路 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 定期 | 隻數 | 一六七 | 四六 | 四四〇 | 六五三 |
| | 總噸數 | 一、四六〇、八九二 | 二二、六五〇 | 一、三七二、一四六 | 二、九五四、六八八 |
| | 登簿噸數 | 六七七、九六四 | 八七、六五〇 | 八七七、六四六 | 一、七三三、二六〇 |
| 不定期 | 隻數 | 一七一 | 二六 | 三五 | 二七二 |
| | 總噸數 | 五五〇、八二五 | 六一、八四五 | 一六五、七一〇 | 七七八、三七〇 |
| | 登簿噸數 | 五二二、六三五 | 五五、三五六 | 一三〇、五九四 | 六九八、七六五 |
| 船舶離 | 隻數 | 二二 | — | 一八 | 二〇 |
| | 總噸數 | 一〇、七六〇 | — | 五六、七一四 | 六七、四七四 |
| | 登簿噸數 | 六、八三五 | — | 三三、四五〇 | 四〇、二八五 |
| 合計 | 隻數 | 二四〇 | 七二 | 四三三 | 九四五 |
| | 總噸數 | 二、二二二、四六七 | 一八、二四九 | 一、七九四、五七〇 | 四、〇〇〇、五二二 |
| | 登簿噸數 | 一、三四七、四三四 | 一四、一八六 | 九八一、六九〇 | 二、四七二、三一〇 |

## 月別入港船舶

| 月別 | 外國航路 隻數 | 外國航路 總噸數 | 外國航路 登簿噸數 | 內國航路 隻數 | 內國航路 總噸數 | 內國航路 登簿噸數 | 合計 隻數 | 合計 總噸數 | 合計 登簿噸數 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 二三 | 二二七、八二六 | 七一、三五一 | 三七 | 九八、八五四 | 四九、八四九 | 六〇 | 一九七、六八〇 | 一二二、一〇〇 |
| 二 | 二二 | 九四、七二三 | 五七、七〇四 | 四二 | 一〇八、一九四 | 六八、五八一 | 六三 | 二〇二、八一七 | 一二六、二八五 |
| 三 | 二六 | 一四三、一四二 | 八七、七一四 | 五六 | 一五七、七三四 | 一〇〇、八四九 | 八二 | 三〇〇、八七六 | 一八八、五六三 |
| 四 | 二四 | 一四二、九八七 | 八九、九三三 | 三七 | 九四、二六三 | 六一、一五一 | 六一 | 二三七、〇七四 | 一五一、〇八四 |

# 輸出

| 品名 | 仕向地 | 噸數 | 價額（円） |
|---|---|---|---|
| 計 | 三四〇 | 二、三三、四六七 | 一、三四七、四三四 |
| 五 | 二九 | 一九二、二二四 | 一二八、八〇四 |
| 六 | 三一 | 二二七、八八一 | 一三六、四四一 |
| 七 | 二六 | 一七四、九九〇 | 一〇四、九九〇 |
| 八 | 三〇 | 二二四、三六一 | 一三四、五六八 |
| 九 | 三二 | 二二一、六八〇 | 一三二、七九二 |
| 一〇 | 三六 | 二四四、二一九 | 一四八、〇九八 |
| 一一 | 三〇 | 二三二、一九九 | 一三八、七三二 |
| 一二 | 三一 | 二〇六、二四五 | 一二六、三一五 |
| 蜜柑罐詰 | 計 | 一、三四七、四三四 | 六〇五 |
| 蜜柑罐詰 | 歐米 | 一、七七八、〇六五 | 一三〇、九四二 |
| 蜜柑罐詰 | 滿洲國 | 一、二二四、八七六 | 六五、八三九 |
| 蜜柑罐詰 | 計 | 九四五 | 四、〇〇〇、五三二 |
| 苔 | 米國及加奈陀 | 五 | 二、八七三 |
| 苔 | 計 | 八 | 四、七六八 |
| 海 | 乾鰕 | 一〇 | 一〇四 |
| 海 | 滿洲國 | 二 | 三〇七 |
| 海 | 計 | 二 | 四一一 |
| 海 | 英國 | 一 | 一、一四七 |
| 海 | 米國 | 三 | 三、三三八 |
| 海 | 計 | 二八 | 四、三七五 |
| 海 | 滿洲國 | 一 | 一、一四七 |
| 海 | 計 | 一 | 一、一四七 |
| 海 | 米國及加奈陀 | 五 | 二、八七三 |
| 海 | 計 | 八 | 四、七六八 |
| 海 | 計 | 七 | 四、〇九七 |
| 漆器 | 關領印度 | 五 | 三四一 |



| 品名 | 仕向地 | 噸數 | 價額（円） |
|---|---|---|---|
| 蜜柑罐詰 | 滿洲國 | 四八 | 一七、九五四 |
| 蜜柑罐詰 | 計 | 四八 | 一七、九五四 |
| 蜜柑罐詰 | 英國 | 七四 | 二八、二七九 |
| 蜜柑罐詰 | 米國 | 六五 | 二〇、二〇三 |
| 蜜柑罐詰 | 計 | 八五 | 二六、四三六 |
| 蜜柑罐詰 | 滿洲國 | 一四 | 五、三一〇 |
| 蜜柑罐詰 | 計 | 一五 | 五、七九三 |
| 蜜柑罐詰 | 歐米 | 二九 | 一、一一三 |
| 蜜柑罐詰 | 計 | 二九 | 一、一一三 |
| 蜜柑罐詰 | 滿洲國 | 一六六 | 五八六、九九三 |
| 蜜柑罐詰 | 計 | 一六六 | 五八六、九九三 |
| 蜜柑罐詰 | 米國及加奈陀 | 四一五 | 五六、五〇四 |
| 蜜柑罐詰 | 計 | 四一五 | 五六、五〇四 |
| 蜜柑罐詰 | 計 | 八五一 | 四六、五〇四 |
| 豆 | 歐米 | 一六六 | 一三、一四五 |
| 豆 | 滿洲國 | 四一五 | 三三、二五九 |
| 豆 | 計 | 四一五 | 三三、二五九 |
| 豆 | 計 | 二〇六〇 | 二七〇、二五二 |
| 豆 | 米國及加奈陀 | 八九一 | 一八、七八七 |
| 豆 | 計 | 四四八 | 一八、七八七 |
| 豆 | 計 | 二、〇六〇 | 五二〇、七〇七 |
| 印刷用紙 | 滿洲 | 四八三 | 二〇二、三七四 |
| 印刷用紙 | 計 | 二二三 | 二二、四八一 |
| 塵紙 | 〃 | 一五 | 六、八一三 |
| 半紙及美濃紙 | 〃 | 一五 | 六、八一三 |
| 雁紙及古新聞紙 | 〃 | 四四八 | 一八、七八七 |
| 其他ノ紙 | 〃 | 八九一 | 二七〇、二五二 |
| 其他ノ紙 | 計 | 二、〇六〇 | 五二〇、七〇七 |
| 故ガンニー袋 | 大連 | 四、五四九 | 六五八、六四九 |
| 大豆油 | 歐洲 | 二、八八六 | 五八六、九九三 |
| 醤油 | 滿洲國 | 二 | 一六六 |
| 醤油 | 計 | 二 | 一六六 |
| 醤油 | 米國 | 一八〇 | 二三、〇四八 |
| 醤油 | 計 | 一八〇 | 二三、〇四八 |
| 椎茸 | 滿洲國 | 一 | 四一八 |
| 椎茸 | 計 | 一 | 四一八 |
| 椎茸 | 米國及加奈陀 | 三三 | 一六、一八〇 |
| 椎茸 | 計 | 三三 | 一六、一八〇 |
| 椎茸 | 計 | 一八二 | 二三、二四八 |
| 椎茸 | 滿洲 | 七 | 四、〇九七 |
| 木製品 | 滿洲州 | 一三五 | 五七、七三五 |
| 木製品 | 關領印度 | 九 | 三、七四四 |
| 木製品 | 上海 | 一 | 二一八 |
| 木製品 | 阿弗利加 | 一 | 三四五 |
| 木製品 | 米國及加奈陀 | 五一 | 二、八四六 |
| 木製品 | 計 | 一九七 | 六四、八八六 |
| 木製品 | 關領印度 | 五 | 三四一 |
| 木製品 | 滿洲州 | 一 | 一、一四七 |
| 木製品 | 大連 | 一、八二〇 | 八〇、五五八 |
| 木製品 | 上海 | 一、六六四 | 七一、九五三 |
| 木製品 | 關領印度 | 一、七五七 | 二二三、九九六 |
| 木製品 | 計 | 四、二四一 | 三六六、五〇七 |
| 木製品 | 英國州 | 一四五 | 二〇、三三五 |
| 木製品 | 滿洲 | 一五〇 | 一〇、二九〇 |
| 木製品 | 計 | 一五〇 | 七、六一九 |
| 木製品 | 關領印度 | 一五三 | 二、四二六 |
| 木製品 | 計 | 一五三 | 二〇、三三五 |
| 木製品 | 滿洲州 | 八七 | 九、二九六 |
| 木製品 | 計 | 六二 | 九、二九六 |
| 木製品 | 米國 | 三 | 一、一四七 |
| 木製品 | 計 | 二八 | 三、三三八 |
| 木製品 | 英國 | 一 | 一、一四七 |
| 木製品 | 米國 | 二 | 一〇四 |
| 木製品 | 計 | 二 | 三〇七 |
| 木製品 | 計 | 二 | 四一一 |
| 石油箱板及櫟板 | 滿洲州 | 一三五 | 五七、七三五 |
| 石油箱板及櫟板 | 關領印度 | 九 | 三、七四四 |
| 石油箱板及櫟板 | 上海 | 一 | 二一八 |
| 石油箱板及櫟板 | 阿弗利加 | 一 | 三四五 |
| 石油箱板及櫟板 | 米國及加奈陀 | 五一 | 二、八四六 |
| 石油箱板及櫟板 | 計 | 一九七 | 六四、八八六 |
| 石油箱板及櫟板 | 關領印度 | 五 | 三四一 |

蘭領ボルネオ產

木材清水港ニ於テ元祖店

南林材の用途別

家具建築材料
ベニヤ材料
製函材料
フローリング材料
造船材料
橋梁材料
下駄材料
天井板材料
杭木材料
鉛筆材料

人絹パルプ材料
製紙パルプ材料
木煉瓦材料
燐寸軸木材料

内外木材直移輸入商

大阪政商店

清水市辻旭町

電話 營業用 三八二番
自宅 三八三番




輸入

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 米國 | 五四八 | 三八、三三〇 |
| | 阿弗利加 | 一四 | 九九二 |
| | 計 | 五六七 | 三九、六六三 |
| 書籍及雜誌類 | 滿洲 | 四 | 一四四 |
| | 米國 | 一 | 五一 |
| | 計 | 五 | 一九五 |
| 其他ノ紙製品 | 滿洲 | 二〇 | 二、九五七 |
| | 米國及加奈陀 | 二九 | 七、一〇三 |
| | 阿弗利加 | 一〇 | 二、八六一 |
| | 蘭領印度 | 一 | 四二八 |
| | 計 | 六〇 | 一三、三四九 |
| 陶磁器 | 米國 | 二五 | 一、七七八 |
| 菓子 | 滿洲 | 六 | 四四二 |
| | 米國及加奈陀 | 三二 | 二、〇九四 |
| | 計 | 三八 | 二、五三六 |
| 食卓・塩 | 滿洲 | 一 | 二六九 |
| 澱粉 | 〃 | 二 | 四九 |
| 其他ノ食料品 | 〃 | 三〇 | 三、六三二 |
| | 米國 | 四九 | 七、五〇一 |
| | 計 | 七九 | 一一、一三三 |
| 漁網 | 大連 | 一五三 | 三、五六九 |
| 鏡臺 | 滿洲 | 一九五 | 一四、一六九 |
| ブリキ製品 | 〃 | 二三 | 一、二六六 |
| | 米國及加奈陀 | 七二 | 四、二七三 |
| | 計 | 九五 | 五、五三八 |
| 機械及部分品 | 滿洲 | 八二 | 一六、五六六 |
| | 阿弗利加 | 四 | 八、二二五 |
| | 計 | 八六 | 二四、七八一 |
| 竹材 | 米國 | 八 | 三、四五五 |
| 竹製品 | 滿洲 | 一 | 三一七 |
| | 米國及加奈陀 | 二〇 | 三、二三三 |
| | 計 | 二一 | 三、五五〇 |
| 空叺及縫 | 滿洲 | 二〇九 | 一四、一六六 |
| 雜品 | 〃 | 二七 | 二、四四二 |
| | 蘭領印度 | 二 | 九四二 |
| | 米國及加奈陀 | 三六 | 一八、五五〇 |
| | 計 | 六五 | 二一、九三三 |
| 合計 | | 六三、八五〇 | 一四、〇六五、四五五 |

| 品名 | 仕出地 | 噸數 | 價格（円） |
|---|---|---|---|
| 豐年大豆 | 大連 | 一七五、二一六 | 二一、六一九、六一二 |
| 商人大豆 | 〃 | 四、七一 | 三四三、三五二 |
| | 朝鮮經由 | 一、八四一 | 一一七、八九〇 |
| | 計 | 一八一、八一八 | 二三、〇七九、八五四 |
| 大豆粕 | 大連 | 一八、六三四 | 八五七、五九〇 |
| | 營口 | 九、三一八 | 五二一、六四〇 |
| | 計 | 二七、八五二 | 一、三六九、二三〇 |
| 混合飼料 | 大連 | 一九、二六七 | 九八七、四二五 |
| 小豆 | 朝鮮經由 | 二、三六九 | 一七二、五八四 |
| | 〃 | 六五 | 四、三二 |
| | 計 | 二、四三四 | 一七六、八九六 |
| 豌豆 | 大連 | 三三 | 一、七七一 |
| 胡麻子 | 〃 | 二〇 | 二、六一六 |
| 麩 | 〃 | 一七六 | 七、七一四 |
| | 上海 | 六、〇二七 | 二七四、三四〇 |
| | 計 | 六、二〇三 | 二八二、〇五四 |
| 骨粉 | 大連 | 二八〇 | 一六、三八五 |
| | 營口 | 一四六 | 八、七三〇 |
| | 計 | 四二六 | 二五、一二五 |
| 棉子糟 | 上海 | 六七 | 三、〇八八 |
| 粟 | 大連 | 六六 | 三、四六九 |
| 鰕殼 | 〃 | 一三 | 一四〇 |
| | 營口 | 三四 | 四九七 |
| | 計 | 四六 | 六三七 |
| 撒塩（原塩） | 關東洲 | 二、三九三 | 三九、〇九五 |
| 重油及原油 | 北米 | 八、三〇〇 | 一七六、二二六 |
| 石炭 | 大連 | 六〇、五五三 | 六七四、四四一 |
| | 營口 | 二、〇八〇 | 二二、五二〇 |
| | 佛領印度 | 一、七七二 | 二二、二五〇 |
| | 計 | 六四、四〇五 | 七二〇、二一一 |
| 鉄 | 大連 | 六、五四七 | 二九、〇九四 |
| ベニヤ茶箱 | ソヴイエット | 三〇七 | 二四、〇三四 |
| 木材 | 米國 | 四、〇六五 | 八七、二二二 |
| ラワン材 | 南洋 | 六、五九六 | 一二九、三七〇 |
| 白金 | ソヴイエット | — | 六七七、二二九 |
| 雜品 | 大連 | 一一七 | 一〇、〇二五 |
| | 米國 | 三五五 | 三九、八四六 |
| | 計 | 一七二 | 四九、八七一 |
| 合計 | | 三三一、〇二七 | 一六、八五四、四〇七 |


# 豐年製油株式會社清水工場

電話（六六〇四 六六〇五 六六〇六番）

株式會社 巴川製紙所

電話（六六六六 六六九八番）

用宗工場 電話 靜岡 三二〇九 用宗 一〇〇番

# 移出

| 品名 | 噸數 | 價額(圓) | 品名 | 噸數 | 價額(圓) |
|---|---|---|---|---|---|
| 家具 | 二,三二〇 | 一九二,三五六 | コーヒー | 一〇 | 一,三五八 |
| 木製品 | 一三〇 | 一三,八四五 | 芋切干 | 二四 | 二,二三〇 |
| 漆器 | 一三 | 一,三八七 | 椎茸 | 一 | 五〇 |
| 塗下駄 | 五〇 | 五,三〇二 | 鰹節 | 一 | 三八二 |
| 殺虫剤 | 三二 | 七,七三七 | 塩辛 | 一 | 八八 |
| 松丸太 | 五,〇二五 | 一四〇,一六四 | 砂糖 | 六三 | 一五,七五〇 |
| 製材 | 二,二八六 | 八八,二三五 | 味噌 | 一二 | 八一〇 |
| 函材 | 四,三二三 | 一七〇,四九八 | 菓子 | — | 一五 |
| 櫟材 | 二一二 | 七,二五〇 | 山葵漬 | 一 | 一〇 |
| 竹材 | 一三 | 二,四二二 | 漬物 | — | 三六 |
| 竹パイプ | 四一六 | 七七,八三〇 | 麻糸 | 六 | 八,六〇〇 |
| ライスペーパー | 一五三 | 七八,一二〇 | ロープ | 二 | 一,〇五〇 |
| 和洋紙 | 四七四 | 九三,九八〇 | ラシャボロ | 五 | 一,〇〇〇 |
| ベニヤ板 | 一九四 | 三二,八九五 | 縄類 | 二 | 二〇〇 |
| 蜜柑 | 一,五八七 | 二三八,四八〇 | 畚 | 四 | 六〇〇 |
| 豆粕 | 五五六 | 四四,四八〇 | ゴムホース | — | 五 |
| 茶 | 一七六 | 二六,三九六 | 日東蔘 | 三三 | 三,九三九 |



| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 麩 | 三九 | 二,二五〇 | 釣針 | 二 | 五,三二二 |
| 糠 | 一八 | 三〇〇 | 額椽 | 一 | 一,一二〇 |
| 碎米 | 七 | 五六〇 | 玩具 | 一 | 二,一一五 |
| 白米 | 一二三 | 一二,一六〇 | 杢木 | 一 | 四〇〇 |
| 大豆 | 三一 | 二,七〇〇 | 木工棚板 | 一 | 一,一五〇 |
| 西瓜 | 四 | 二〇八 | 木工機械 | 四 | 一,一九〇 |
| 煉乳 | 一 | 八〇〇 | 器械 | 八 | 一,一五〇 |
| 辛子粉 | — | 四〇 | 發動機 | 三〇 | 六〇〇 |
| 荒目 | 二 | 四五 | 製茶機械 | 一五 | 一,五五〇 |
| 醤油 | 八 | 七三〇 | 製材機械 | — | 一五〇 |
| トマトソース | 一三六 | 七,九〇〇 | 燒盤機械 | 二 | 一,一五〇 |
| 鮪罐詰 | 五五 | 一一,九三一 | ボイラー | 三 | 五〇〇 |
| 鰹罐詰 | — | 一二五 | タンク | 三 | 一,二〇〇 |
| 鮑罐詰 | 二 | 六〇〇 | 鉄器 | 一 | 一〇〇 |
| 蜜柑罐詰 | 五 | 一,四三〇 | 鉄板 | 一 | 二三〇 |
| 食料品 | 二 | 六三 | 石工模型 | 一 | 七〇〇 |
| ブリキ製品 | 九 | 五三七 | 石粉 | 二 | 六二 |
| ブリキ空罐 | 一〇 | 六七四 | 局重 | 八 | 一,〇五〇 |
| 空瓶 | 一二四 | 二,四九三 | 苛性曹達 | 一〇〇 | 六,〇〇〇 |
| 鉄筒 | 四 | 二,八〇〇 | 農業藥品 | — | 二 |

| | | |
|---|---|---|
| フーセル油 | 三 | 三、〇〇〇 |
| 燐寸 | 一六 | 一、二〇〇 |
| 貢セット | \| | 五〇 |
| 竹製箕 | \| | 二五 |
| 疊表 | 四 | 七五 |
| 草履 | 一 | 一〇〇 |
| 書籍 | 一 | 二〇〇 |
| 引越荷物 | 一 | 一、〇〇〇 |
| 其他雜貨 | 二三 | 二、〇〇五 |
| 合計 | 一八、九四九 | 一、三三四、九一二 |

## 移入

| 品名 | 噸數 | 價額（圓） |
|---|---|---|
| 石炭 | 二四四、五〇九 | 二、九三二、〇〇六 |
| 雜木 | 二四、六七七 | 七三六、五六八 |
| 松丸太 | 二〇八、八五一 | 五、四二六、〇七三 |
| 食塩 | 二一、〇九〇 | 九九一、八六八 |
| セメント | 四一、〇九二 | 八一四、一三三 |
| パルプ | 七、六八二 | 一、二五四、一七五 |
| 過燐酸 | 一、六五三 | 六一、〇八五 |
| 硫安 | 二、一二五 | 二〇〇、〇六〇 |
| 銑鉄 | 七九五 | 四一、二二五 |
| 麻ボロ | 四四〇 | 四一、六五二 |
| ボロ | 三六九 | 四五、六〇〇 |
| 古綱 | 七六 | 七、四六四 |
| 麻綱 | 九 | 一、一〇二 |
| 乾海老 | 一三六 | 一九、一一〇 |
| 櫻海老 | 七五五 | 一〇〇、二九九 |
| グルコース | 一七二 | 三一、五九五 |
| 下駄棒 | 七五 | 三、七〇〇 |
| 罐詰空罐 | 一、五三四 | 二〇九、四五五 |
| 木材 | 二一、〇七三 | 一、四一三、三四四 |
| 杢木 | 六 | 一八、〇〇〇 |



| | | |
|---|---|---|
| 製材 | 六〇四 | 三四、六一一 |
| 白米 | 六、五三六 | 九四〇、七六七 |
| 玄米 | 二、七八一 | 三五三、五二七 |
| 玄碎米 | 一五七 | 一四、二八九 |
| 蓬莱米 | 一九、八六三 | 三、〇二〇、五七一 |
| 政府米 | 一〇、二九五 | 一、三六四、四〇〇 |
| 糯米 | 四七七 | 四〇、六四八 |
| 大麥 | 三三 | 一、五三七 |
| 小麥 | 四八 | 三、八九六 |
| 屑小麥 | 七三 | 二、一六二 |
| 燕麥 | 三九三 | 二四、八四八 |
| 麥粉 | 八 | 一、二〇〇 |
| 大豆 | 三、九八九 | 三三九、八一五 |
| 小豆 | 一四五 | 一三、四九五 |
| 豆類 | 一、六〇九 | 一九〇、一〇三 |
| 糠 | 二、六五二 | 五〇、九七九 |
| 麩 | 一、五四五 | 七五、六九五 |
| 唐箕先 | 一、二四七 | 六一、一三四 |
| 大豆粕 | 二、二〇九 | 一二五、三五六 |
| 種油粕 | 三〇九 | 三三、二九七 |
| 鰮粕 | 七一〇 | 四九、四三一 |
| 魚粉 | 五九一 | 一六、八六一 |
| 鰊粕 | 三三二 | 三一、九四四 |
| 〆粕 | 五九九 | 五四、七一五 |
| 甜菜糖粕 | 二五 | 一、四九〇 |
| 澱粉 | 六七〇 | 九六、四六〇 |
| 蕎麥粉 | 五三 | 三、八七四 |
| 鹽魚 | 八八 | 七、〇六五 |
| 干魚 | 二 | 九〇〇 |
| 貝柱 | 一 | 一五〇 |
| 海老粉 | 一〇 | 三七一 |
| 干鰯 | 六 | 二、六九五 |
| 鱈 | 六 | 一、八六二 |
| 昆布 | 八 | 二、〇二八 |
| 林檎 | 三 | 二〇〇 |
| コークス | 一〇 | 二、五八七 |
| 帆立貝 | 九 | 八七一 |
| 屑紙 | 四二 | 二、三四〇 |
| パイナップル | 九三 | 一五、八九〇 |
| 馬鈴薯 | 三五 | 一、四二八 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 鉛 | 五一 | 四、二五〇 | 壓粉 | 二 | 四四〇 |
| 牡蠣殻 | 一〇 | 一六三 | 硫酸亞鉛 | 四二 | 八、四六〇 |
| 竹材 | 二八 | 三、六〇〇 | 曹達輕灰 | 三〇 | 三、三二〇 |
| 木管材 | 三二 | 一、九三五 | 曹達重灰 | 六九 | 七、六三二 |
| ベニヤ板 | 三二二 | 二〇、四二九 | 曹達灰 | 一一二 | 一二、〇七一 |
| 函材 | 八〇 | 四、八四二 | 家具 | 三四 | 三、八五三 |
| ソボロ | 二二 | 四、一五八 | 筍罐詰 | 二八 | 八、二五〇 |
| 丸釘 | 一、二六四 | 一八〇、五五二 | 除虫菊 | 二 | 四〇〇 |
| 亞鉛板 | 七二八 | 二九一、五〇〇 | 切干 | 四 | 三二五 |
| 竹パイプ | 一九 | 二、一〇〇 | 苛性曹達 | 一、八五一 | 一六九、三三六 |
| ヒビス | 三 | 一〇〇 | 茶 | 一〇六 | 九、四六〇 |
| コンスタージ | 三一 | 五、〇〇〇 | 空瓶 | 四 | 九五 |
| 燒酎 | 五〇 | 八、六八〇 | 塩漬貝 | 一 | 一八〇 |
| 重炭酸曹達 | 一八 | 二、五二〇 | 紅茶 | 三五四 | 八五、八五八 |
| 味噌 | 一八二 | 一一、六七一 | 曹達類 | 六四 | 七、〇六八 |
| 砂糖 | 二、四七八 | 一、六四四、五九七 | 銀杏草 | 四 | 六〇〇 |
| 煉乳 | 一 | 二五五 | コーヒーシロップ | 一 | 二〇 |
| 清酒 | 二 | 六〇〇 | 菓子 | 六 | 一、七四〇 |
| ストーヴ | 一 | 五〇〇 | 雜穀 | 八五六 | 一三六、二二二 |
| タール | 二八 | 一、二七六 | 雜貨 | 一、四二九 | 一〇七、六〇五 |



| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| クロード安母尼亞 | 一八 | 六、七九五 | 蓄音器 | 二〇 | 五、五〇〇 |
| マニラロープ | 五四 | 九、三三〇 | | | |
| 塩化石灰 | 七一 | 三、一〇四 | 合計 | 六四五、九六八 | 二四、一一〇、七五八 |

## 罐詰輸出状況

昭和九年度の清水港の輸出水産罐詰は全國生産の約九割を占め其の生産は八割强に達して居り左の如き統計を示してゐる。十年度は原料「とんぼ鮪」の不漁からホワイトミートツナフイッシュの輸出は極度に減少をしてゐるが夫れに代るべき鯖のフイレイ油漬罐詰に對し農林省では北米輸出解禁をすることになり當分の間と言ふ條件の下に毎年全國で約三万函宛の輸出を許可し此の生産權利は從來のツナ罐詰の比例と他に幾分の均霑條件を附して割當を既に決定した。兩者とも北米輸出は日本鮪類罐詰業水産組合の檢査日本鮪罐詰共同販賣株式會社の手を經て農林省の許可を得るのである。

歐洲關東洲方面其他のものは右水産組合の檢査を以て足る。更に最近鰮のボイルドを始め各魚類や果實蔬菜等の罐詰も研究中である。蜜柑罐詰は去る昭和八年度の不況で九年度の生産手控の結果十年度は品不足の爲めストック品を一掃し最後の歐洲輸出價格は一函七圓六十八錢を賣つた程の昂騰振りであつた爲め十年度の生産は三十万函に達するであらうと豫想されてゐる。尙蜜柑罐詰の本場は廣島より漸次本縣に移りつゝあるので東京、千葉、神奈川、本縣、愛知、三重の一府五縣下の業者を一丸とする東海蜜柑罐詰工業組合も十月中に創立許可の豫定である。即ち九年度の罐詰並に壜詰輸出額を國別に示せば左の如し。